



# 奈良教育大学の自然

## — 動植物編 —

1990年3月

奈良教育大学

## は し が き

私たちの大学は自然に恵まれている。大学の本部構内だけでも350種を越える多くの植物（種子植物）が生えている。研究室の窓を開けていると、トンボやチョウやハチが入ってくる。構内でシカが遊んでいる大学などめったにあるものではない。

大学本部の背景をなす春日山、御蓋山、若草山、高円山もまた、それぞれが代表的な植生を示し、身近な生きた教材である。春日山の林相は照葉樹林の典型を示し、その原生林の一部は特別天然記念物に指定されている。春日大社の境内に位置する御蓋山は裸子植物のナギの純林が発達し、古い神社にふさわしい、黒ぐろとして神さびた森林で被われている。若草山は、冬の山焼きとシカの摂食・踏み付けによって維持される広々とした草地が発達し、大学の借景に明るいアクセントをつけている。高円山のアカマツ林と、コナラ・クヌギの優占する雑木林（二次林）は、西日本の人々にとって最も親しみ深い、懐かしい里山の風情をそなえている。

附属中学校も優れた自然環境の中にある。学校の所有地の「裏山」には自然林が発達している。付近には神社や御陵の森や溜池がある。校内にも樹木が多く、教材園はよく整備されている。

附属農場には、稲をはじめ通常の作物を栽培しているが、同時に見本園や教材園としての機能を果たすことを目指している。そのため、小規模ながら花木、果樹、花卉、観葉植物などを植えている。また「古代作物園」と称して、現在、絶滅に瀕している若干の古い作物の系統保存を図っている。温室やビニールハウスにはいくつかの珍しい植物を栽培している。

附属演習林は約176haの面積を有し、その山頂の標高は1,186mで金剛山や比良山より

も高い。林内の植物相は豊かであり、樹木だけでも200種を越える。山頂部にはブナやミズナラの大木が生い茂っている。春にはヤマザクラやタムシバやシャクナゲが咲き、秋のカエデやブナの紅葉もまた見事である。その広大な自然林にはサルやシカやカモシカが生息している。

大学のこの豊かな自然を多くの人たちに知っていただきたいと願ってこの書を編んだ。当初は地学の分野まで含める計画であったが、今回は生物だけを扱い、「動植物編」とすることになった。動植物関係だけでも、予定していた量をはるかに上回る原稿が集まった。そのため印刷経費の都合で、附属演習林の動植物については止むを得ず別の機会に譲らなければならなかった。

最近、自然を大切にしなければならないという認識が社会に広く浸透している。誰もが急速に失われゆく自然に対して強い危機感と哀惜の念を抱いている。教育の分野でも、自然に親しみ、自然をよく知ることが、どんなに大切であるかを誰もが改めて気づいてきた。その意味でも本書の編纂は時宜を得た計画であったと自負している。本書が、今後、附属学校園を含め、教育現場で大いに活用され、身近な自然について理解を深めることに役立つことを願っている。

本書の発行は「教育研究特別経費」によるが、配分された経費のほとんど全額を印刷費に当てた。そのため、従来の「教育研究特別経費・研究成果報告書」では異例の、カラー印刷の入ったかなり豪華な本になった。

本書を作成するに当たって、多くの人たちのご協力を得た。非常勤講師の先生方にも、また生物学科の卒業生や在学生の方々にもたいへんお世話になった。謹んで感謝の意を表したい。

（北川尚史）

# 奈良教育大学の自然 ―動植物編―

はしがき	i
------	---

## 〔ガイド・解説編〕

大学構内の景観（今井靖親・吉川幸男）	1
大学構内の四季（北川尚史）	3
大学構内の樹木ガイドマップ（浅見卓）	11
大学構内の樹木（公文勝・北川尚史）	13
奈良教育大学の珍しい植物（北川尚史）	15
奈良教育大学の珍しい動物（井上龍一）	22
大学の借景〔春日山・高円山・若草山の植生〕（菅沼孝之）	27
附属中学校の自然ガイドマップ〔附中の自然環境〕（人見功）	31
附属中学校の自然ガイド（人見功）	33
附属農場の栽培植物（田中棟一）	40

## 〔資料編〕

大学構内の種子植物（石井登興・北川尚史）	41
大学構内のシダ植物（山口明夫）	46
大学構内のコケ植物（出口博則・北川尚史）	47
大学構内の鳥類（井上龍一）	50
大学構内の両生類・爬虫類・哺乳類（井上龍一）	51
附属中学校の樹木（人見功）	52
附属農場の樹木（東村隆子・田中棟一）	54
附属農場温室内の植物（東村隆子・田中棟一）	60
附属農場で栽培される古代米（森源治郎）	63
附属農場の古代米の形質比較（森源治郎）	64
大学構内の樹木の測定値（公文勝・北川尚史）	66
あとがき	78
執筆者	78

表紙：吉備塚のクヌギの樹叢（今井靖親）

## 〔ガイド・解説編〕



## 大学構内の景観



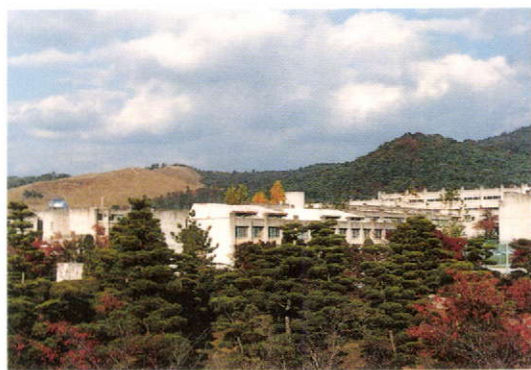
附属図書館前、サクラ（ソメイヨシノ）が満開。  
（撮影今井靖親）



テニスコートの横、シロツメクサの上に雄鹿が横たわる。  
（撮影今井靖親）



附属図書館の西側、ツツジ（ヒラドツツジ）が満開。  
（撮影吉川幸男）



若草山と御蓋山を望む。  
（撮影吉川幸男）



講堂の西側、イロハカエデの紅葉。  
（撮影今井靖親）



吉備塚のエノキ。（4月）  
（撮影今井靖親）



# 大学構内の四季

北川 尚 史

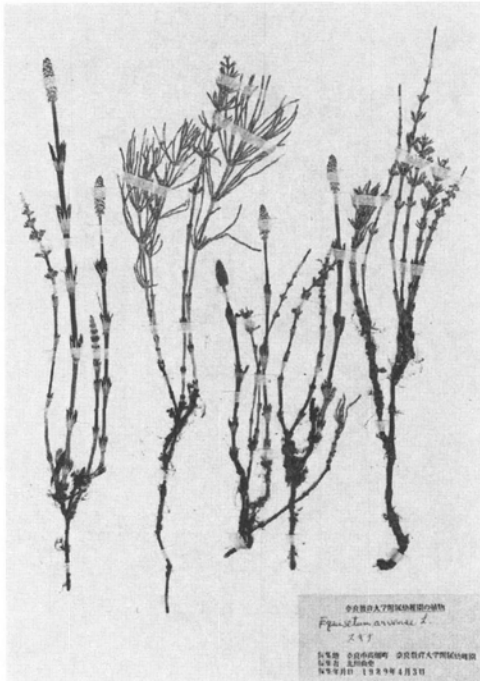
大学構内の動植物に関する以下の記述は、最近の3年間の記録に基づいている。動植物の季節的な移り変わりは年によってかなり異なっており、例えば、生物学教室の北側のサクラ（ソメイヨシノ）は、一昨々年は4月5～6日、一昨年は4月13～14日、昨年は4月3～4日に満開であった。さらに、花の咲く時期や果実の稔る時期にも変異が認められ、同一年でも個体によって、かなり異なっている。以下には3年間の記録を勘案して標準的なデータを記すことにする。

## 春（3月～5月）

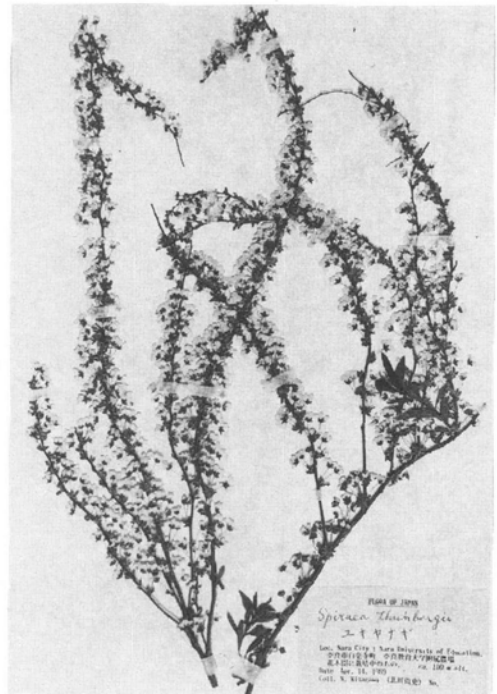
肌寒い早春の3月上旬には構内の大部分の落葉樹はまだ芽が出さず蕭条としているが、

ウメやツバキやアセビが花を咲かせている。附属小学校のグラウンドの東北に植わっている4本のカンザクラ（寒桜）がソメイヨシノに3週間ほど先立って3月の10日ごろから咲き始める。各所の土手にはツクシが出ている。生物学教室南側のアンズが咲き始めるのもこの頃である。また、ヤナギが芽をふいて、かすかに萌黄色に煙る。いわゆる柳煙である。そして、学内のあちこちに植わっているジンチョウゲの花が甘い香りを漂わせる。

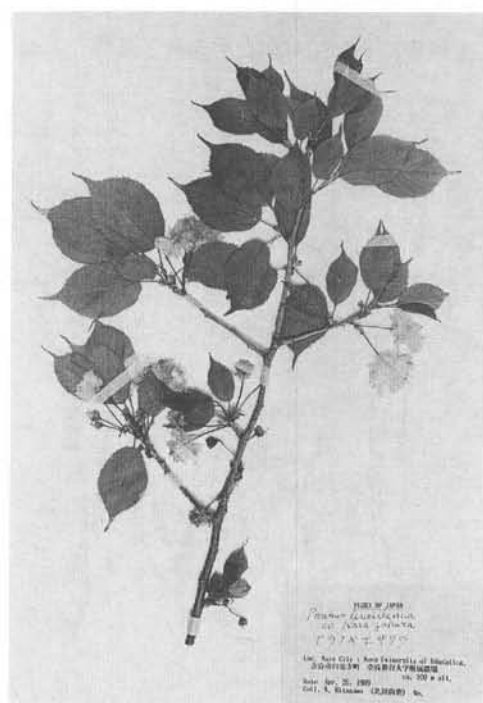
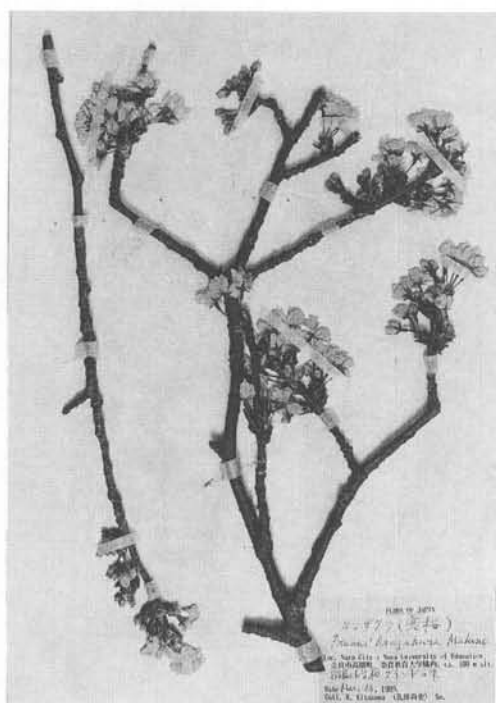
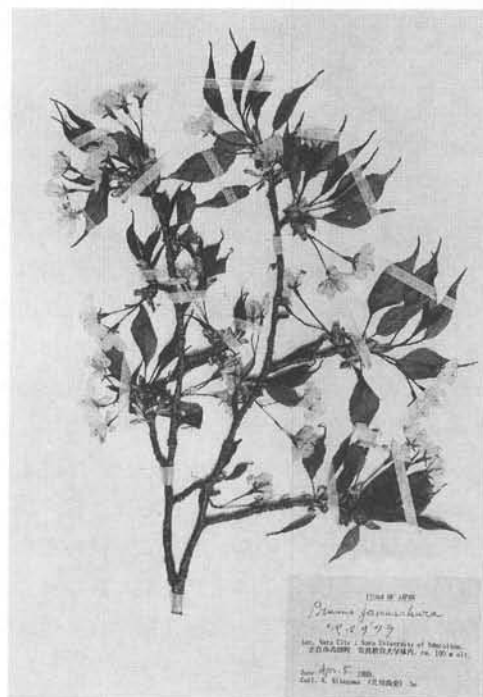
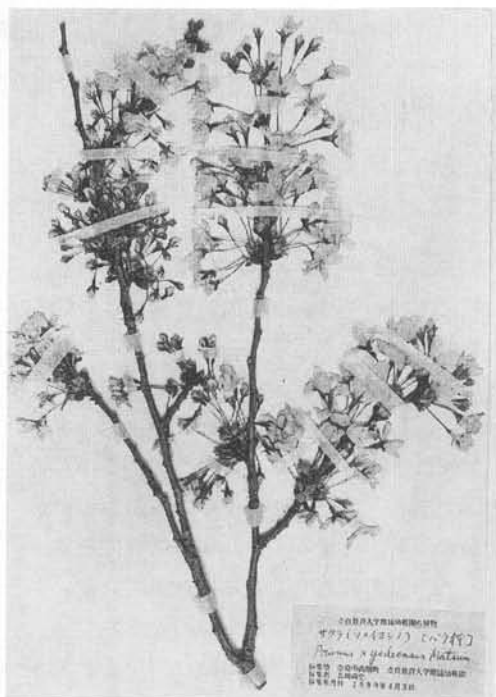
草は樹木に比して季節の訪れが早く、オオイヌフグリ、ナズナ、ハコベ、ホトケノザ、ノゲシ、タンポポ（セイヨウタンポポ、カンサイタンポポ）など、多くの春の雑草は3月上旬にすでに花を咲かせている。



スギナ（ツクシ）の標本



ユキヤナギの標本



大学構内の 4 種のサクラ標本  
 左上・ソメイヨシノ 右上・ヤマザクラ  
 左下・カンザクラ 右下・ナラノヤエザクラ



3月の半ばには、クヌギの雄花序（雄花の集り）が伸長して目立ち、葉芽も伸び出して、梢が飴色を帯びてくる。クヌギのように、風媒性の落葉樹の多くは葉が出る前に花が咲き、まだ葉の繁らない風通しのよい時期に花粉が飛ぶ仕組みになっている。

3月下旬になると、ユキヤナギが煙るように小さな白い花を咲かせる。ハクモクレンの大きな白い花が、ピロードのように柔らかい毛の密生した包葉を脱ぎ捨て、一斉に北の方角に反って咲く。レンギョウ（シナレンギョウ）の黄色い花が群がって、こぼれるように咲く。サクラ（ソメイヨシノ、ヤマザクラ）が咲き始めるのもこの季節である。すこし遅れてモモの花が咲く。

ヒヨドリは年中、構内で見かけるが、とくに冬から春にかけて目立ち、この季節にはツバキやアンズやサクラの蜜を吸う。かなり大きいこの鳥は蜜を吸うというより花を食い荒らすといった感がある。

4月に入り、陽春の季節を迎えると、構内の植物は急速に賑やかになる。サクラが満開になるのは入学式の前後である。その大部分はソメイヨシノであるが、附属小学校の北側などに生えている古木はヤマザクラである。ヤマザクラはソメイヨシノに比して花が疎らで、花の時期に赤みを帯びた葉が出ているので、両者の識別は容易である。ソメイヨシノは附属小学校のグラウンドとその南のテニスコートに沿う緩やかな斜面に生えたものがいちばん優美であり、樹幹にウメノキゴケが生えて古色を帯びた、いかにも貫緑のある老木が多い。天気がよければ、この場所の万朶の桜の下で幾組もの花見の宴が開かれるであろう。大講義室の南の、建物に囲まれた狭い空間にも、ソメイヨシノの見事な老木が立っている。

4月の中旬にはクスノキが新芽を出し、古い葉が落ち始める。クスノキは常緑樹であるが、新しい葉が出揃ってから、古い葉が一斉に落ちる性質がある。ナノハナやダイコンの

花が咲く畑にはモンキチョウやモンシロチョウが舞う。朝早く、大学に來れば、ウグイスの鳴き声を聞けるのもこの季節である。図書館の裏のモクレン（シモクレン、紫木蓮）の花が咲く。

黄砂の現象が見られるのは春のこの季節に多い。中国大陸の奥地から遥々と運ばれてきた黄土の微粒子によって、空がかすかに黄色みを帯び、春日山や高円山が霞んで見える。

ソメイヨシノに約半月遅れて、4月中旬から下旬にかけて八重咲きのサトザクラ（ボタンザクラ）が大きな重たい花を下向きに咲く。この季節に大学構内で咲くサトザクラにはカンザン（関山）とフゲンゾウ（普賢象）の2品種がある。前者は枝が上を向き、花の色が濃く、後者は枝がたわんで下を向く傾向があり、花の色が薄いので区別は容易である。この両品種の花の雌蕊は小さな緑色の葉の形をしており、雌蕊は葉が変形したものであるこ



サクラ（ソメイヨシノ）の老木  
樹幹にウメノキゴケが生えている。  
附属小学校グラウンドの東側。

とを証明する絶好の教材である。図書館裏のハナミズキ（花水木）が白い花を咲かせるのもこの頃である。

上記2種のサトザクラにまた十日ばかり遅れて、4月下旬から5月上旬にかけてナラノヤエザクラが咲く。この名桜は構内のあちこちに植えられているが、いずれも小木である（ナラノヤエザクラについては16ページを参照のこと）。

4月の下旬には、構内の各所で生け垣として植えられているツツジ（ヒラドツツジ）が咲き始め、5月の中旬まで咲き続ける。吉備塚のクヌギが受粉を終えて、おびただしい数の雄花序が落ちるのもこの季節である。クロマツの新芽（古くから、これを「松の緑」という）が伸び出し、雄花が熟し、風に吹かれて煙のように花粉が散る。

5月は新緑の季節である。落葉樹が葉を展開して、瑞々しい青葉に被われる。常緑樹も

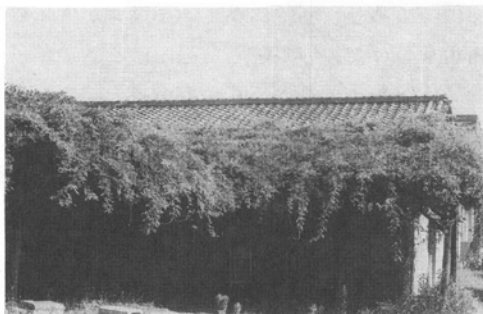
新しい葉を出す。高円山の落葉樹のクヌギやコナラの新緑は浅い緑色で、春日山の常緑樹の鬱然とした新緑と遠目にも鮮やかなコントラストを示す。高円山のモウソウチクが色褪せて、いわゆる「竹の秋」の情景を示す。春日山の照葉樹のもくもくとした新緑の中で、黄金色に輝いて見える部分はシイノキ（コジイ）の新葉と雄の花序（花の集まり）である。構内でも図書館の北側に生えている3本のシイノキ（スダジイ）の大本が盛大に花を咲かせ、その雄花の生臭い匂いが漂う。

守衛室の東側の藤棚に絡んだ2本のフジの老木が花を咲かせるのも5月上旬から中旬にかけてである。このフジは奈良市内でも珍しいほどの大木であり、たいへん貴重なものである（フジは附属幼稚園内にもある）。この頃から帰化植物のハルジオンが咲き始める。この植物は十数年前に本学に侵入し、その後、急速に殖え、最近は構内各所に広がっている。奇妙な寄生植物のヤセウツボが出るのもこの季節である（ヤセウツボに関しては15ページを参照のこと）。

5月中旬から下旬にかけて、ごく短い期間に文科棟北側（中庭）のポプラとヤナギの種子が飛ぶ。中国ではポプラを楊、ヤナギを柳というが、両者は互いに近縁な植物である。両者ともに小さな種子が長い絹糸のような毛に包まれて、風に吹かれて空に漂う。その風情は人々の心をとらえるようであり、中国では楊と柳の種子を包む毛を「柳絮（りゅう



シイノキ（スダジイ）の大本  
附属図書館の北側に立つ。



フジの老木  
守衛室東側の藤棚に絡んでいる。

じょ)」と呼び、漢詩などによく詠まれる。この場所には5本のポプラの大木が生えているが、東側の3本が雌木であり、柳絮を生じる。また、そのそばに生えている比較的小さな1本のヤナギが雌木であり、柳絮を飛ばす。

毎年、5月下旬から6月上旬にかけて、日暮れになると吉備塚のクヌギの梢でアオバズクが、ほっほー、ほっほーと二声ずつ鳴く。5月下旬になると、雑草が生い茂り、とくに、イヌムギ、カモジグサ、イチゴツナギ、ナガハグサ、ヒエガエリなど、たくさんのイネ科の植物が穂を出す。山田ホールの東側の松林の林床に一面にミヤコグサの黄色い花が咲く。ミヤコグサは附属図書館の周辺にも点々と生えている。

#### 夏（6～8月）

6月に入り、日差しが強くなると植物たちの生長はますます旺盛となる。春から咲いていたハルジオンが終わってヒメジョオンに代わる（互いに近縁な両種は季節的にすみ分けしている）。ニワゼキショウやノアザミが咲き、ヤブガラシが勢いよく伸びだして、樹木に絡みついてくる。キョウチクトウの花が咲き、暑い日差しを受けて、秋の終わりまで咲き続ける。

初夏にはセンダン（オウチ、樗ともいう）が淡い紫色の群がった花を咲かせる（センダンはプールと附属幼稚園との間の土手に生えている）。梅雨どきの雨に打たれてタイサン

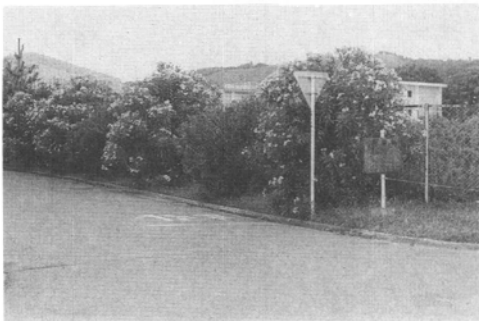
ボクの白い大きな花が次々に咲く。アジサイが咲くのも梅雨のこの季節である。

芝生の間や土手に、ネジバナが螺旋状に配列した可憐な花を咲かせる。ネジバナは構内に自生する唯一のラン科植物で、モジズリという名で古くから歌に詠まれている植物である。構内各所に生育するが、とくに事務棟の前の芝生、附属図書館から講義棟の間の周辺、山田ホールの東側の松林、附属幼稚園に多い。

7月上旬には職員会館の北側（隣りの合同庁舎との境）に植えられているトウネズミモチが盛大に花を咲かせる（トウネズミモチは学生会館の西側や講義棟前の広場にも植わっている）。その白い小さな花は群がって、遠目には泡だつように見える。この樹木は日本原産のネズミモチにごく近縁の種であるが、生長がよく、葉も茎も大きくなるので、公園などに植栽され、また最近各地の高速道路などのグリーンベルトなどに植えられている。サルズベリは、百日紅の別名のように、夏の炎暑をものともせず、この頃から秋の終わりまでの長い間、咲き続ける。この季節にはまたネムノキの繊細な花が咲く。

7月中旬にはオオスカシバがクチナシにやってきて葉の裏に産卵する。ナンキンハゼの雄花が目立ってくる。プールの側の溝にガマ（蒲）が穂を出す。

盛夏を迎え、大学の構内は喧しい蝉時雨の季節になる。クマゼミとアブラゼミが鳴きはじめ、とくに午前中に鳴くクマゼミの大合唱



キョウチクトウ  
附属小学校グラウンド西側。



御蓋山と若草山  
理科1号棟3階から望む。

はすさまじく、いかにも暑さを増長する感がある。さらに、8月上旬になると、ツクツクホウシが鳴き始め、また、やがて朝夕、ヒグラシが鳴く。

雑草の草いきれが激しく、8月下旬にはオヒシバ、メヒシバ、エノコログサ、シマスズメノヒエ、ツユクサ、イノコヅチ、イヌタデ、アカザ、キツネノマゴ、ブタクサ、オオアレチノギクなどが生い茂る。ツツジやイヌツゲに絡んだコヒルガオがアサガオを小さくしたような可憐な花を咲かせる。

この頃から樹上でアオマツムシが鳴き始める。アオマツムシは中国原産の帰化種で、在来のマツムシと異なり樹上に生息する。ほとんど樹種を選ばないようであり、夜になると構内のいたるところで鳴いている。畑に植わっているジンジャー（シュクシャ、縮砂）がこの季節から秋まで香りのよい花を咲かせ、夕刻にはオオスカシバやホウジャク（蜂雀）が長い吻を延ばして蜜を吸いにくる。

## 秋（9月～11月）

9月上旬にはフヨウ（芙蓉）が花盛りとなる。フヨウは構内のあちこちにあるが、特に大講義室の南側のものが見事である。畑のオミナエシは花盛りで、その異様な匂いに引かれるのであろう、多くのハナムグリなどの昆虫がやってくる。

9月中旬、ヒガンバナが咲き始める。ヒガンバナはキャンパスを囲むフェンス沿いや附属幼稚園の西側の土手などにたくさん生えている。ヒガンバナの開花時期は年による変動が小さく、名前の通り、毎年、彼岸の頃に花盛りである。

10月上旬から中旬にかけて、キンモクセイ（金木犀）が匂う。香りでその存在が分かり、ふだんは目立たないこの木が、学生会館入り口、生協食堂入り口、守衛室横、附属小学校玄関脇、その他、構内にも案外に多いことに気付く。ウスバツバメという、蝶のように優

雅に舞う蛾が、サクラの周辺でたくさん見かけるのはキンモクセイの匂う季節である。

この季節にはまた、吉備塚のクヌギがたくさんの大きなどんぐり（果実）を落とし、秋の到来を実感させる。この季節に雨がふれば、構内各所のマツの根元にネバリイグチやアカハツが出る（どちらも食用になるキノコである）。

10月の中旬になると、他の樹木に先立って、ナンキンハゼが紅葉を始める。附属幼稚園ではアキグミが枝もたわわに小さな赤い実をつける。10月下旬には、イチョウの葉が黄色になり始め、雌木の下には銀杏が落ちる。イチョウは学内にかなり多いが、附属小学校北側の“十三階段”の近くの雌木がいちばん大きい。ポプラやケヤキの葉もこの季節に黄色くなり、落ち始める。

セイトカアワダチソウもこの頃が花盛りである。この帰化植物はひとりの勢いはなくなったが、まだグランドの東側、生協食堂の東側、プールの周辺の土手をはじめ、各所に繁茂している。春日大社の境内あたりからであろうか、夜のしじまを切り裂くように、シカの鋭い鳴き声が聞こえ、秋の深まりを感じさせるのも、毎年10月の下旬から11月上旬にかけてである。

11月上旬にはサザンカが咲き始める。クロガネモチの実が赤くなる。ナンキンハゼの紅葉やイチョウが黄葉がたけなわとなる。ハナミズキの葉も赤くなり始める。これらに少し



カイヅカイブキ  
美術棟南側



後れて、11月中旬には各種のサクラが紅葉するが特にナラノヤエザクラの紅葉が鮮やかで美しい。

図書館の北側のシラカシにヤマブシタケという珍しいキノコが発生し、大きく生長するのは毎年、大学祭の頃である（ヤマブシタケについては17ページを参照）。

11月下旬になると、ユリノキ、カツラ、ケヤキはすでにほとんど落葉しているが、カエデ（イロハカエデ）、サクラ、ドウダンツツジが紅葉の盛りを迎える。クスノキの実が黒熟し、トウネズミモチは枝が垂れるほどにたわわに黒紫色の実をつける。

紅葉樹の優占する春日山にもかなり多くの落葉樹が生えており、11月下旬から12月の始めにかけて、遠目に、濃緑色の常緑樹の間に赤や茶や黄の色彩が目立つ。赤はカエデ（イロハカエデやウリハダカエデ）の紅葉であり、浅い黄色はムクロジやコシアブラ、黄褐色は主としてケヤキの黄葉である。

## 冬（12月～2月）

12月に入って寒さを迎えると、害虫の駆除のために、マツの樹幹のこも（薦）巻きが行われる。クヌギの葉は茶色になるが、まだしばらく枝を離れない。この季節には構内の落葉樹はほとんど落葉しているが、クヌギ、アキニレ、カエデ、フウなどがまだ葉を付けている。とくにフウは、美しく紅葉したのちも落葉せず、春近くまで、枝に枯葉を付けている。なお、フウは漢字の楓を音読みにした名前前であるが、カエデとはまったく異なる植物である。

12月上旬から中旬にかけての短期間に、クヌギの葉が急に落ちる。センダンの果実は長い果柄の先に黄色く熟し、青空に映えて美しい。この頃にムクロジの群れがやってきて、春まで、地上で餌をあさり、樹上で騒がしく鳴く。

12月の上・中旬の季節に、高円山が一年中



フウの小枝  
(画・豊田好美)

でもっとも華やかな山容を見せる。遠目に濃い緑色に見える樹木の大部分は尾根筋に多いアカマツと、落葉樹の間に生えるソヨゴである。山麓部に多いスギやモウソウチクも緑色であるが、色調が異なっている。高円山にはクヌギも多いが、この時期には葉は褐色となっているか、すでに落ちている。そのため、クヌギ林は大学構内からは淡い褐色ないし灰色に見える。しかし、コナラは他の落葉樹に後れて紅葉の盛りを迎える。コナラの紅葉はカ



クヌギの梢  
吉備塚にて。



サクラ（ソメイヨシノ）

附属小学校グラウンド東側。1990年2月1日の大雪の日に撮影したもの。

エデのような鮮やかな赤色にはならないが、緋色から黄色までのさまざまな階調をなして、山腹を華やかに彩る。同じ時期に、春日山の落葉樹はすでにほとんど落葉し、遠目には、カエデの梢の色であろう、かすかに赤みを帯びて煙ったように見える。

12月に花を咲かせている樹木は、ヤツデとビワとサザンカである。冬でも、穏やかな暖かい昼間には、それらの花にハチやハナアブがやってきて蜜を吸う。12月には、春の雑草の多くがすでに芽を出している。スズメノカタビラは一部、すでに穂がでている。畑には、

ナノハナやキンセンカやソラマメの花が咲き始める。

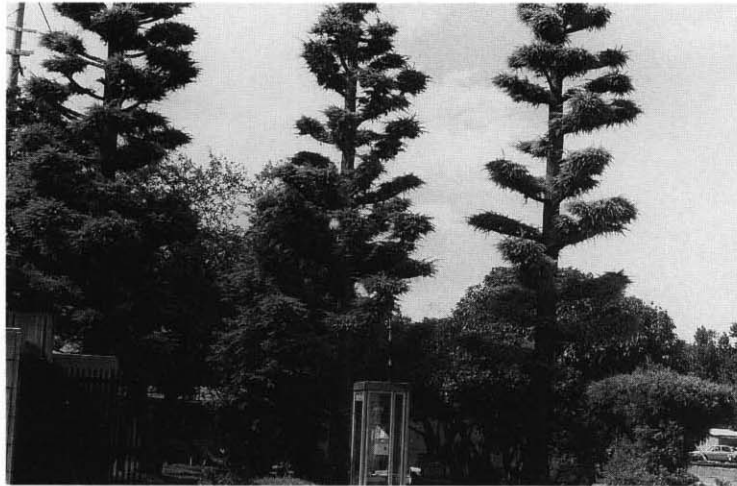
12月から1月にかけてナンキンハゼの果実がはぜて、白い種子が目立つが、ムクドリ、ヒヨドリ、キジバトなどがやってきて啄み、やがてなくなってしまう。メジロの囀りが聞こえるのもこの頃から春までである。

1月下旬にはオオイヌフグリ、ナズナ、オランダミミナグサ、ハコベなど春の花が早々と咲き始める。アキニレの翼のある果実が風に吹かれて舞い飛び、附属小学校の体育館の西側に生えているロウバイが蟬細工のような淡黄色の花を咲かせ、辺りにより香りを放つ。落葉したプラタナス（スズカケノキ）の梢にぶら下ったピンポン玉ほどの大きさの実（集合果）が目立つ。

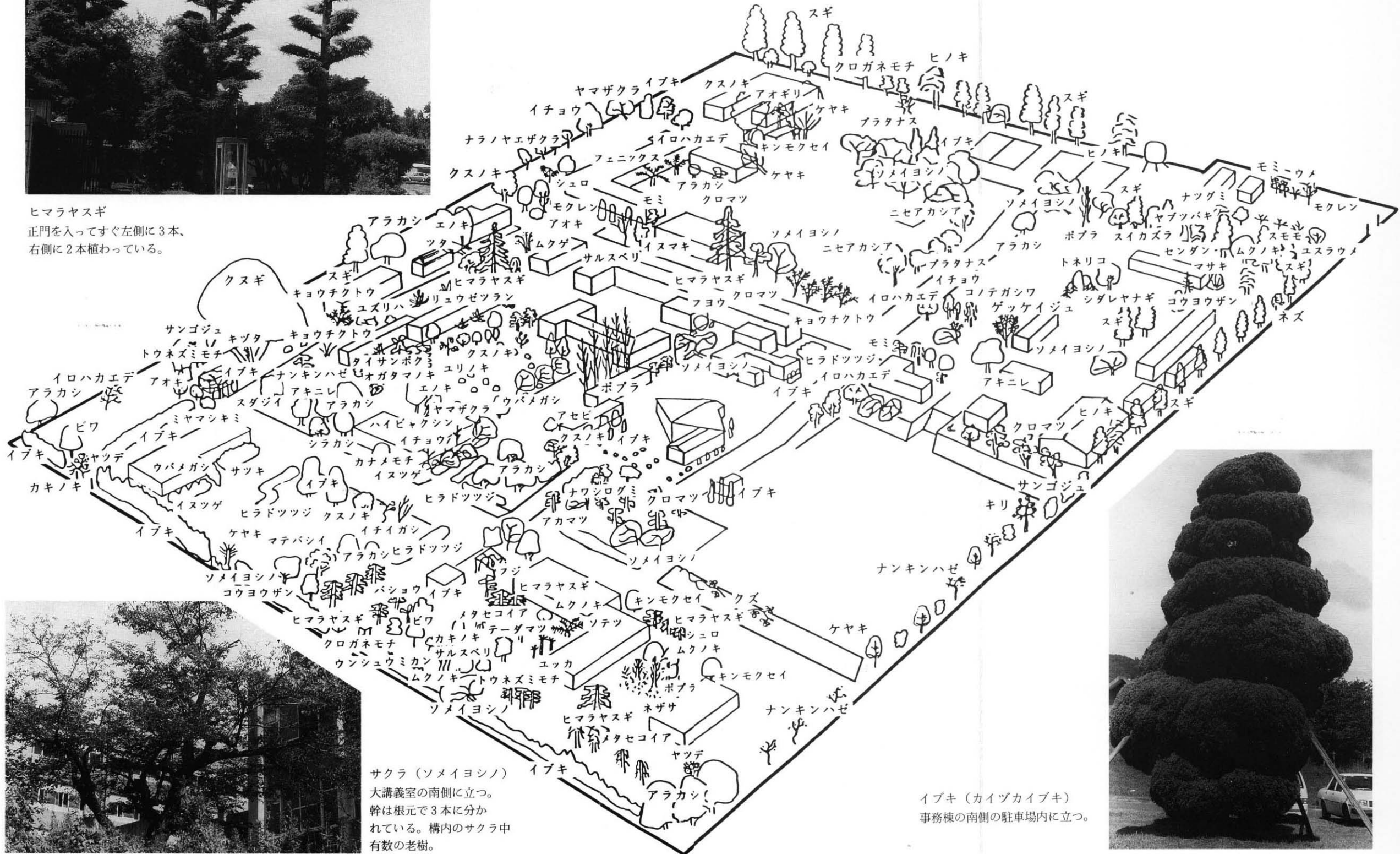
2月上・中旬にウメが咲き始め、ジンチョウゲやアセビの蕾が膨らむ。2月下旬にはウメが満開となり、土手にはツクシが出始める。シジュウカラがやってきと、高い梢でしきりに囀る。暖かい日には、早くも夕暮れにイエコウモリ（アブラコウモリ）が飛ぶ。いまや、春の到来は間近である。

# 大学構内の樹木ガイドマップ

浅見 卓 (1990年1月)



ヒマラヤスギ  
正門を入ってすぐ左側に3本、  
右側に2本植わっている。



サクラ (ソメイヨシノ)  
大講義室の南側に立つ。  
幹は根元で3本に分か  
れている。構内のサクラ中  
有数の老樹。



イブキ (カイヅカイブキ)  
事務棟の南側の駐車内に立つ。

# 大学構内の樹木

公文 勝・北川 尚史

「資料編」に、1990年1月現在、大学構内に生育する1032本の樹木の大きさ（樹高と胸高直径）のリストを挙げた。この中で最も多いものは、サクラ（ソメイヨシノ、ヤマザクラ、サトザクラなどの品種を含む）の325本、次いでマツ（大部分はクロマツ、一部にテダマツ、アカマツを含む）が141本、スギが105本である。以下、イロハカエデ（54本）、ヒマラヤスギ（44本）、ケヤキ（38本）、アラカシ（29本）、クスノキ（27本）、ナンキンハゼ（26本）の順に多い（ただし、アラカシは生協食堂西南の樹叢を1本と数えているので、実際はもっと多い）。

構内には多くの樹木が存在するが、大木は比較的少ない。構内の樹木の大きさによるランキングは以下の通りである。樹高は剪定によって大きく変化するので、太さ（胸高直径）によって順位づけを行った。

表中の番号は「資料編」の地図中の番号、直径は胸高直径（cm）である。

表1 大学構内の樹木20傑

順位	番号	樹木名	直径
①	1134	クスノキ	71
②	25	クスギ	70
③	28	エノキ（枯死寸前）	63
④	776	ポプラ	63
⑤	26	クスギ	58
⑥	769	エノキ	56
⑦	326	シイノキ（スダジイ）	55
⑧	82	ケヤキ	54
⑨	1109	ケヤキ	53
⑩	76	メタセコイア	53
⑪	606	サクラ（ソメイヨシノ）	52
⑫	660	サクラ（ソメイヨシノ）	50
⑬	30	クスギ	50
⑭	451	ヒマラヤスギ	50
⑮	1030	サクラ（ソメイヨシノ）	50

⑯	869	アメリカスズカケノキ	49
⑰	1057	サクラ（ソメイヨシノ）	49
⑱	1116	ケヤキ	48
⑲	1044	サクラ（ソメイヨシノ）	48
⑳	773	クロガネモチ	48

大学内に生育する樹木の大きさの調査は26年前に事務局会計課によって行われている。当時の学内（高畑校舎）の樹木、704本の高さと太さ（胸高直径）を調べた記録であり、「樹木内訳書」「樹木位置図」（昭和39年2月29日付）と称する書類のファイルが現在、会計課に保存されている。なお、このファイルには当時の附属農場（八木農場）、附属中学校、附属幼稚園などの樹木の記録も綴られている。

昭和39年にはまだ米軍キャンプ時代の建物が使われており、構内の建物の配置は現在とまったく異なっていた。新校舎の建設に際して、昭和43年から46年にかけて、多数の樹木が伐採され、また移植された。その後も学内各地で建物、駐車場、道路の建設などによる模様替えが行われ、幾多の樹木が伐採・移植され、また新しく植樹されて、学内の樹木の配置は大きく変わった。したがって、昭和39年に記録されている約700本の樹木のうち、現在の樹木に特定できるものは少ない。

特定できる樹木について、昭和39年（1964年）2月と現在（1990年1月）とのデータ（樹高mと胸高直径cm）を比較すると、表2の通りである。表中の1990年の欄の番号は「資料編」の地図中の番号である。また、1964年の欄の番号は会計課に保存されている「樹木内訳書」と「樹木位置図」の中の番号である。昭和39年のデータは不完全で、樹種を挙

げていないものも多い。また、樹高は目測に  
 いる傾向がある。  
 よるが、全般的に実際よりも低く見積もって

表2 大学構内の樹木 現在と26年前の大きさの比較

1990年1月現在				1964年2月現在				現在の場所
番号	樹木名	高さ	太さ	番号	樹木名	高さ	太さ	
21	アラカシ	8.8	27	361	檜	5	15	赤煉瓦倉庫北
22	スギ	10.5	33	362	杉	5	24	赤煉瓦倉庫北
62~84	クヌギ	22.0	63	97~98	櫟	~11	~40	吉備塚
55~64	アラカシ	~6.5	~24	11~16	檜	4	10	正門北
72	ヒマラヤスギ	9.5	36	18	ヒマラヤ杉	5	12	正門北
73	ヒマラヤスギ	9.5	32	19	ヒマラヤ杉	5	12	正門北
74	ヒマラヤスギ	9.5	43	20	ヒマラヤ杉	5	15	正門北
76	メタセコイア	7.0	53	17	?	4	22	正門北
326	スダジイ	7.7	55	109	?	6	30	図書館北
327	スダジイ	7.9	47	111	?	5	30	図書館北
328	スダジイ	8.0	43	113	?	5	20	図書館北
401	ヒマラヤスギ	8.5	33	21	ヒマラヤ杉	4	12	正門南
402	ヒマラヤスギ	8.5	40	22	ヒマラヤ杉	5	16	正門南
450	スギ	7.6	34	39	杉	8	25	学生会館南
463	アラカシ	14.0	31	64~86	檜	4	15	学生食堂南
619	イロハカエデ	6.0	40	484	紅葉	4	20	体育館西南
723	イチョウ	7.4	20	703	イチョウ	3	15	音楽棟東
790	スギ	~9.5	~30	428	杉	~5	~20	部室東
1027~	ソメイヨシノ	~9.1	~50		桜	4	~40	附小プール東
1134	クスノキ	14.0	71	628	?	8	40	附小養護学級西
1209~	サルスベリ	~6.0	~28	692~696	サルスベリ	~5	~16	附小体育館西

# 奈良教育大学の珍しい植物

北 川 尚 史

## 〔大学本部〕

**ヤセウツボ** *Orobancha minor* (ハマウツボ科)

この奇妙な名前の植物は生長に必要な養分をすべて宿主に頼っている、いわゆる全寄生植物である。自らは光合成を行わず、葉緑素を欠き、葉は退化している。主としてマメ科の植物に寄生するが、とくにアカツメクサ(レッド・クローバー)を好む。青々としたアカツメクサの間に棒を立てたように生えている姿はいかにも異様であり、一見、生きた植物とは思えない。

ヤセウツボは帰化植物であり、欧米に広く分布し、牧草地に多いが、日本ではごく稀である。昭和12年に関東から報告されて以来、他の地域からはほとんど記録がない。関西での既知の産地は長らく本学構内だけであったが、最近、その近傍(高円山周遊道路と大和郡山市)で見つかった。おそらく、本学の植物体の種子がなんらかの手段で散布して分布域を広げたのであろう。関東の既知の産地(数か所)と奈良との中間地域からは知られていないので、関東のものと奈良のものとは異なるルートで外国から別々に入ったと思われる。

本学では私が赴任した昭和38年にすでに生えていた。おそらく、現在の本学の敷地を米軍が接収していた時代に、外国からの物資に紛れて種子が入りこんで発芽し、キャンパス内に定着したのであろう。旧校舎の体育研究室の周辺(現在の音楽棟の付近)に多かったが、新校舎の建設工事により、その部分の群落はほとんど消失した。現在、講堂の建っている場所の付近にも、かつては、かなり多く生え

ていたが現在は見当たらない。しかし、現在も本学構内に広く分布しており、特に附属図書館の周辺、講義棟の南、山田ホルルの西、附属幼稚園などに多く見られる。

**ウマノスズクサ** *Aristolochia debilis* (ウマノスズクサ科)

教育工学センターから技術棟にかけて、北



ヤセウツボ

高さ、約30cm、葉が退化し、枝も出さない。花をつけている。(画・豊田好美)

側の土手にウマノスズクサが点々と生えている。多年生の蔓植物で、同じ土手に多いセイタカアワダチソウやススキに絡んで生長するが、冬には地上部が枯れる。果実が割れて、ぶら下がり、馬の首につける鈴のような形になるのでその名がある。

ウマノスズクサ属の植物は世界に広く分布し、その奇妙な受粉の方法が古くからよく知られている。花はラップ状の特異な形状をなしているため、ヨーロッパでは、この属の植物を「オランダ人のパイプ」と呼ぶ。その花はハエを引きつけて受粉を行う。“ラップ”の入り口から奥に入ったハエは、途中の筒状の部分に下向きの硬い毛が生えているため、いったん入ると出られず、花の基部のふくらみの部分に捕えられる。

ところで、ウマノスズクサ属の花では、雌しべが雄しべよりも先に熟す。したがって、もし捕えられたハエが別の花の花粉を体に付けていれば、狭い場所でもがくので他家受粉が確実に起こる。

受粉が終わっても、ハエは雄しべが熟すまで中に閉じ込められる。雄しべの葯が割れて、

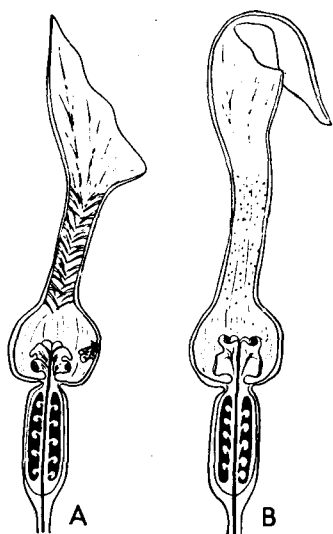
ハエが花粉まみれになった時点で筒部の毛が萎れる。そして、ハエはようやく解放されて、その花から逃げ出す。体に多量の花粉を付けたハエはふたたび別の花に捕えられて、そこでまた受粉が起こる。

ウマノスズクサはジャコウアゲハというチョウの食草である。そのため、この植物の上はこのチョウが飛ぶ。ウマノスズクサは比較的小さくて目立たない植物であるが、その上に舞うジャコウアゲハによってその存在が分かる。ウマノスズクサを見つけるためには、ジャコウアゲハを探すのが手取り早いのである。

**ナラノヤエザクラ** *Prunus leveilleana* cv. Narazakura (バラ科)

平安時代に「いにしへの奈良の都の八重桜けふ九重に匂ひぬるかな」と歌われ、古くから知られている奈良八重桜が、数多くあるヤエザクラの中のどれであるかは長らく疑問であった。東京帝国大学の教授で、サクラ研究の第一人者、三好學は大正11年の春に奈良を訪れ、奈良市雑司町の知足院で、彼自身が今まで見たことのない、可憐な花をつけたヤエザクラを見つけた。古文獻などを参照して、そのサクラこそ、古くから知られている奈良八重桜であると結論し、古代の桜という意味の *Prunus antiqua* という学名の新種を発表した。また、知足院のその木は三好の発案で大正12年に国の天然記念物に指定された。その後、このサクラに対して、さまざまな学名が提唱されているが、最近では、一般に、カスミザクラの園芸品種と見なし、上記のものをを使う。なお、このサクラは本学の前身の奈良県師範学校の校庭にもあったが、その木は現在も県庁東側の駐車場の一角に健在である。

ナラノヤエザクラはソメイヨシノに約1か月後れて、5月上旬に満開となる。通常の里桜系のヤエザクラと異なり、花が小さく（花径は約2.2cm）、花弁は少ない（平均で約30枚）ので清楚な印象を受ける。秋の紅葉も見事で



ウマノスズクサの花の縦断図

A. ハエを閉じこめた状態。

B. 雄蕊が成熟し、ハエが逃げ出した後の状態。



あり、奈良付近では他のどのサクラよりも鮮やかな、滴るような緋色に染まる。

よく結実するので種子で殖やすことが可能であるが、あいにく、その実生の大部分は親と異なる形質を示す。挿し木も難しく、親と同じものをつくるために、通常、接木によって増殖される（ごく最近、特定の植物ホルモンを含む培地に冬芽を培養することによって、試験管の中で多数の幼植物を得るバイオテクノロジーの技術が奈良県林業試験場で開発された）。

ナラノヤエザクラは奈良の県花に選ばれ、現在はかなり普及し、奈良公園一帯にも多数植えられている。本学でも、学生会館の周辺、美術棟の北側、附属図書館の南側、理科1号棟の南側、附属小学校の北側の土手（約20本）などに生えている。特に、学生会館の北側の1本は佐野藤右衛門氏から譲り受けたもので、知足院の名木の枝をオオシマザクラに接木をした由緒正しいものであると平田善文先生から伺っている。なお、佐野氏は京都の著名な園芸家で、親子二代にわたって、全国からサクラの品種を蒐集し、サクラの系統保存で顕著な功績をあげた。佐野藤右衛門氏は1961年に「桜」という豪華な図譜を出している。

**カツラ** *Cercidiphyllum japonicum* (カツラ科)

理科1号棟の南側（私の研究室の窓際）に1本のカツラ（桂）が生えている。私が1973年5月14日に兵庫県宍粟郡波賀町音水（オンズイ）の国有林で採った芽生えを植えたものである。17年を経て、すでにかかなりの大木になり、これまでに何度も枝を払ったが、それでも枝先は3階の屋上を越える勢いであり、1990年1月現在、樹幹の根元の周囲は93cm、胸高直径（長径）は24cm、その周囲は73cmである。カツラは雌雄異株であるが、まだ花をつけないので、その雌雄は分からない。落葉性であるため、夏には日陰をつくるが、冬に

は日差しを遮らず、窓際に植えるのに恰好の樹木である。もっとも、生長がはやく大木になるためであろう、「カツラを屋敷に植えるな」という言い伝えが各地にある。

カツラは一般の樹木と異なり、梢だけでなく、太い枝からも毎年、新しい葉が出る性質があり、無数の小さな円い葉がこんもりとした樹冠をつくる。早春に小さな飴色の葉が次第に展開する様子は、いかにも可愛らしく、秋の黄葉もまた実に美しい。元来、温帯林を構成する樹木で、冷涼の地に多い。カツラの木の下を掘れば水が湧き出るといわれるほど、水を好む樹木であり、通常、深山幽谷に野生する。西日本の市街地で見かけることは稀である。

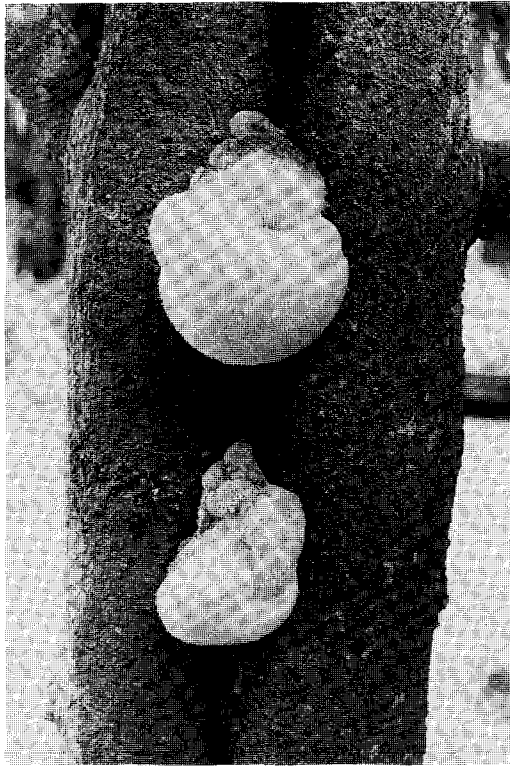
カツラは、類縁関係のはっきりしない、系統的に孤立した原始的な被子植物であり、学術的にもたいへん貴重である。カツラ科はカツラ属のみからなり、カツラ属はわずかに2種を含み、カツラとヒロハカツラが日本に産し、カツラの変種が中国に分布している。1科1属2種から構成される、第三紀起源の古い植物群であり、極東に遺存分布しているのである。

形態学的にも面白く、仮軸分枝、長枝と短枝などの教材として適切であり、私は授業のデモンストレーション用にしばしばこのカツラの枝を伐り取って教室へ持って行く。また、その材は均質であるため実用価値が高く、家具、将棋盤・碁盤、仏像などの用材となる。葉は乾燥すると、よい香りがするので、粉にして抹香をつくる。

**ヤマブシタケ** *Hericium erinaceum* (サンゴハリタケ科)

通常のキノコと見かけはまったく異なり、傘と柄が分化せず、大きな塊状で（大きなものでは人の頭ほどになる）、表面に無数の柔らかい針状の毛をそなえる。そのため、ハリセンボンともいい、中国では猴頭（猿の頭の





ヤマブシタケ

附属図書館北側のシラカシの樹幹に発生したもの。  
1989年11月20日撮影。

意)という。はじめは白色、のちに黄色みを帯びる。

食用になるが、肉がよくしまって内部まで充実しているので、食べごたえがある。煮付けや吸い物にしてもよいが、さっと茹でて、酢の物にしたり、わさび醤油で食べると美味である。

ナラ、カシなどの広葉樹の立木に生えるが、本学では附属図書館の北側に植わっている2本のシラカシに毎年、晩秋に発生する。昨年は2個が発生し、11月20日に採った時点で、その重さは450gと200gであった。なお、このシラカシは橿原市の天香久山から運んできた由緒正しい樹木であるという(平田善文先生の話)。しかし、土地が合わないのであろうか、2本ともに生長が悪く、樹幹の芯の部

分が腐朽し、その部分にヤマブシタケが発生するのである。

#### 〔附属農場〕

シシンラン *Lysionotus pauciflorus* (イワタバコ科)

附属農場の温室でシシンランを育てている。蘭という名がついているが、ラン科ではなく、イワタバコ科の珍しい着生植物である。吉野郡上北山村小椋の水分神社境内に自生するシシンランの群落は国の天然記念物に指定されている。

1987年10月24日に奈良県土木部道路建設課の職員で上北山村に在住の大庭鎮顕氏の来訪を受けた。氏は学生時代からシシンランの生態を研究しており、この珍しい植物についてたいへん詳しい。氏の話によると、上北山村小谷(河合の北西の谷)のアカガシに多数のシシンランが着生していたが、そのアカガシが、一週間前の台風で倒れたという(10月16日の夜半から翌日の午前中にかけて奈良市内でも強い風が吹き、本学でも文科棟の北側の1本のポプラが倒れた)。倒れたアカガシに着生していたシシンランは、そのままでは枯死するので、なんとか大学で育ててほしいと持ってきたのである。果実を付けた立派な標本なので、その一部は押し葉標本にして、大学の標本室と大阪市立自然史博物館に収納した。残りは附属農場へ持って行き、技官の田中棟一氏に託して、温室で育ててもらうことにした。本来は着生植物なので鉢植えは難しいかと思ったが、現在も順調に育っている(まだ花は咲かない)。

シシンランは近畿地方から四国、九州、奄美大島に分布する、ごく稀な植物である。天然記念物に指定された上北山村は当初、この植物の分布の北限地と見なされていた(その後、京都府などでも発見されている)。指定地の水分神社境内の群落は大切にされているが、勢いが悪く、現在、ごく少数の個体が残っ

ているにすぎない。

**カンレンボク** *Camptotheca acuminata*  
(ヌマミズキ科)

中国の中南部原産の落葉高木。中国では街路樹や公園木として植栽される。しかし、日本では稀に植物園で見かけるが、一般にはほとんど植えられていない。本学では附属農場の花木園に1本、植えられている。生長がよく、毎年、花が咲き、実がなる。この木は1974年に京都教育大学から苗木を譲ってもらったものである。

カンレンボク（早蓮木）は中国の昔の本草書に出ている古い名前であり、現代の中国名は喜樹である。そのため、この木の苗は、その名にちなみ、喜寿の祝いに贈ると喜ばれるという。

花は単性（雌雄が別）で、それぞれが多数集まって、球状の花序をなす。果実も多数集まって、金平糖状の面白い形となる。成熟すると個々の果実はばらばらになり、風に乗っ



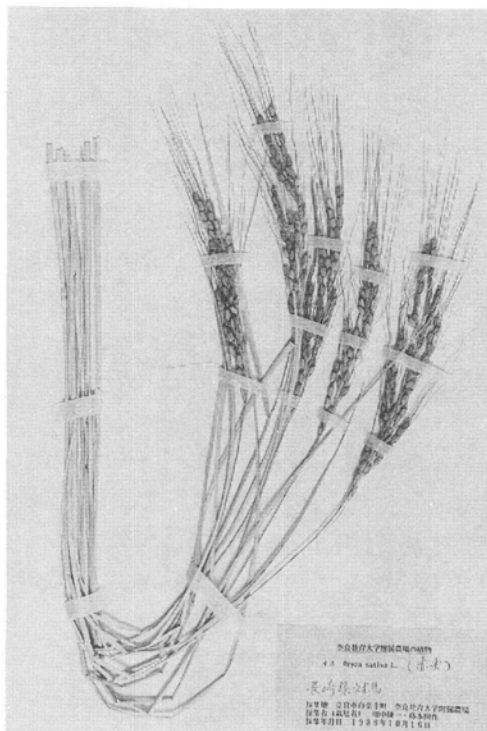
カレンボクの枝  
集合果をつけている。（画・豊田好美）

て飛散する。

カンプトテシンというアルカロイドを含有し、制癌作用があり、中国では、根や果実を各種の癌の薬として用いるという。

**赤米** *Oryza sativa* (イネ科)

赤米は古代の作物である。すでに天平時代の古文書に赤米の記事が出ており、また、近年、平城宮跡などから、赤米と書かれた木簡が出土している。したがって、奈良時代にはかなりの規模で栽培されていたと見なされる。しかし、その後、人々の嗜好は白米に移り、赤米はアズキを入れて炊く「赤飯」として名残を留めるに至った。そして、ジャポニカ型（米粒の短い型）の赤米の品種は、ごく最近まで、鹿児島県種子島の宝満神社、長崎県対馬の多久頭魂（たくずたま）神社、および岡山県総社市の国司神社の三つの神社に細々と伝承され、神事用にわずかに栽培されている



赤米の標本

長崎県対馬に伝わる品種を附属農場で栽培したもの。

にすぎなかった。

ところが、最近の古代史ブームに乗って、赤米への関心が高まり、各地で栽培が試みられている。奈良市内にも、天平時代の料理を再現し、赤米などを「古代食」として売り出しているホテルがある。また、赤米から酒をつくる試みも行われている。

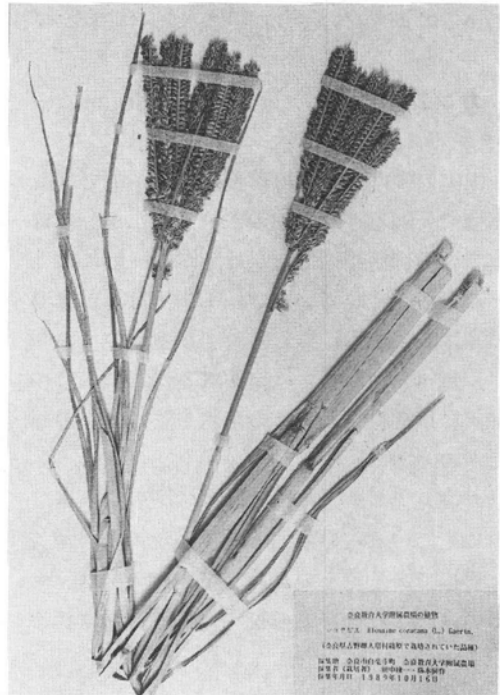
現在、各地で栽培されている赤米は上記の神社から逸出したもの、あるいは近年に外国から入ったものである。附属農場では、上記の三神社の赤米を入手して、1986年から栽培している。

古くから継承されてきたと見なされる、上記の三神社の赤米はいずれも、丈が高く、施肥を行うと1.5m以上にもなり、成熟までに倒伏することが多い（最近、栽培されている普通の稲は、倒伏しないように、できるだけ丈を低くする方向に改良されてきた品種である）。また、その穂に長い芒が存在することも顕著な特徴である。

シコクビエ *Eleusine coracana* (イネ科)

ヒエ（稗）という名がついているが、ヒエ属 (*Echinochloa*) ではなく、雑草のオヒシバ (*Eleusine indica*) に近縁の原始的な作物である。以前は、シコクビエはインドが原産であり、オヒシバに由来する栽培植物であるとみなし、オヒシバの亜種または変種として扱うことが多かった。しかし、近年、シコクビエと近縁種の細胞遺伝学的研究が進み、それらの間の類縁関係がかなり明確になってきた。そして、その研究によって、シコクビエはオヒシバに由来したのではなく、アフリカ産の *Eleusine africana* から生じた栽培植物であるという見解が有力になった。

アフリカ原産のシコクビエがいつどのような経路でわが国に伝来したかについては不明である。この作物について、日本では古い記録がなく、現在のところ考古学的資料も得られていない。しかし、さまざまな状況証拠に



シコクビエの標本

吉野郡大塔村篠原に伝わる品種を附属農場で栽培したもの。

基づいて、稲作以前の縄文時代に焼畑農業の作物として利用していたと推定する専門家もいる。

シコクビエは現在でもインドやアフリカでは大規模に栽培されているが、日本では少数の山間僻地にわずかに残っているにすぎない。さいわい、吉野郡大塔村篠原の数軒の農家が種継ぎ用に細々と栽培を続けているので、附属農場では1986年に同地の和泉安恭氏から種子を入手し、以来、同農場の「古代作物園」で栽培している。この珍しいシコクビエの栽培法については、附属農場・演習林の広報誌「自然と教育」第1号に田中棟一氏が書いている。

シコクビエは通常の穀物と異なり、収穫後、長い年月を経ても、品質が劣化しないという特性をもっているため凶作に備える保存用に向いている。

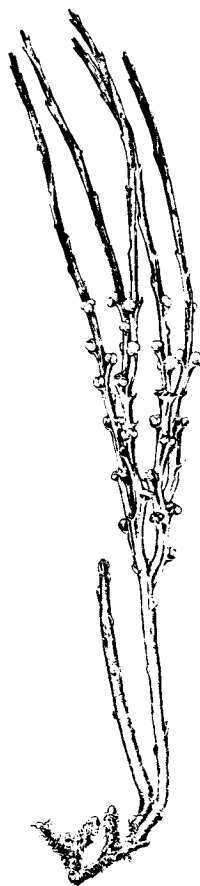
マツバラ *Psilotum nudum* (マツバラ  
ン科)

附属農場の温室で栽培しているマツバラは原始的なシダ植物であり、系統的に重要な位置を占め、教材として貴重な植物である。この種は世界の熱帯から亜熱帯にかけて広く分布し、日本では関東以南の太平洋沿岸地域に生育している。本州では既知の産地で次第に失われている。四国や九州の南部でもかなり稀であるが、屋久島にはやや普通に産し、通常、樹幹に着生する。奈良県では、戦前に春日山から記録されたことがあるが、その後、春日山では見付かっておらず、絶滅したと見なされている（昨年、意外にも、大学に近い、高畑の民家の石垣に野生している個体が発見された）。

栽培は比較的容易であり、江戸時代にはさまざまな園芸品種がつくられ、盆栽として鉢植えにされた。緑色の軸だけからなる、きわめて単純な形態のマツバラは、盆栽の素材としての極致であり、その道の奥義をきわめた玄人が好む傾向がある。

附属農場で栽培しているマツバラは1986年に京大理学部植物学教室から教材用として貰ってきたものである。最初の1年間は生長が悪かったが、現在は元気に育ち、孢子囊をつけている個体もある。これは、もともと屋久島産の野生のものを植えたのであり、珍しい園芸品種ではないので盆栽としての価値は乏しい。

マツバラは通常の植物と異なって、植物体は茎だけからなり、根も葉も分化していない。文字通り“根も葉もない”植物なのである。茎は直立する地上茎と匍匐する地下茎か



マツバラ

附属農場の温室内で栽培しているもの。孢子囊をつけている。高さ約15cm。(画・豊田好美)

らなり、どちらも二又分枝を行う（茎は二つ二つに分かれるので主軸と枝の関係ができない）。この植物は古生代下部デボン紀（4億数千万年前）の地層から発掘されるライニア（*Rhynia*）という有名な化石植物によく似ており、現生のすべての維管束植物（シダ植物と種子植物）の中で最も原始的と見なされている。

# 奈良教育大学の珍しい動物

井 上 龍 一

## 鳥類

学内で確認した鳥類は20科35種を数えた。四季を通じて見られる種は約15種で、学内で、スズメ、ヒヨドリ、ヒバリ、キジバト、ハシブトガラスの営巣、繁殖を確認した。渡りの時期など未確認種が見付かる可能性は大にある。

### フクロウ *Strix uralensis*

初夏（6月頃）、日が沈み、空が青黒くなった時間帯から、どこからともなく子連れでやってくるのが、フクロウである。

附属幼稚園から附属小学校にかけて、また、附属小学校の体育館西側の道路沿い、生協食堂前などが観察のポイントになる。

夜に活動する鳥といえば、他にアオバズク（これは夏鳥で、学内でも見られる、後述）やヨタカ（これも夏鳥で、大学の東の大和高原でよく見かける鳥である）、ゴイサギがいる。

フクロウは九州以北の森林にすむ、カラス大（全長500mm）の留鳥である。頭が大きく、ずんぐりした形で、翼は幅広くふわふわと軽くはばたいて飛ぶ大型の鳥である。

鳴き声は、「ゴロスケホッホー」とか「ゴホッゴホッホッホッ」とか聞こえる。この声を「ぼろ着て奉公」と聞きなす。学内では幼

鳥の鳴き声をよく聞くことができる。成鳥と違って高い声でネコのような声である。

フクロウ科の鳥はワシタカ科の鳥とともに、猛禽類と呼んでいる。ネズミやウサギなども捕食するからである。かれらは暗闇でもよく見える高性能の眼をもち、他の鳥と違って、人の眼のように前面についているので、獲物までの距離が正確に測れる利点がある。しかし、後方が見えない。だが、うまくできたもので首を180°も回転させることができる。

また、耳はとてもよく、ネズミなどの小動物のたてる音をも聞きのがさない。さらに、獲物に気付かれないように飛ぶときも全く羽音をたてない。

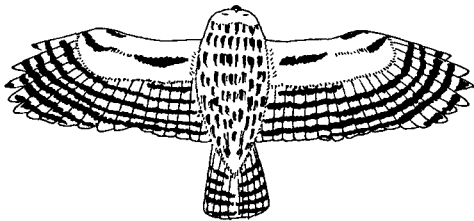
他に学内ではフクロウ科の夏鳥で、アオバズクというハトより少し小さい鳥もこの時期に見られる（5月ごろから）。よく鳴く鳥で鳴き声は「ホッホッ。ホッホッ。」と2声ずつの繰り返し。フクロウに比べると随分小さいので簡単に区別できる。

## 哺乳類

大学構内にはシカ（ホンシュウジカ）が時折、入ってきて、学内の草や木の葉を食べる姿を見かけるが、奈良らしい光景である。

このシカ以外にどんな哺乳類がいるかを調べた記録はなく、1989年から調査を始めた。まだまだ不十分であり、齧歯類については未調査である。

現在、シカを含めて5科5種を確認した。なお、この中には姿こそ見せていないが、ホンダヌキの生息跡など新しい発見もあった。また、側溝の泥土にはチョウセンイタチの足跡が多く見られた。夜間に下水溝から下水溝



フクロウの飛翔図

# 奈良教育大学の珍しい動物



タヌキの溜め糞



シカの糞



タヌキの足跡



イタチの足跡



タヌキの足跡



イタチの足跡

へ道路を横断するイタチの姿をよく見かける。

**ホンダタヌキ** *Nyctereutes procyonoides viverrinus*

哺乳類の中で溜め糞をする習性を持つものは幾らか知られている。アナグマ、ホンダタヌキなどがそれである。学内を調査中、その溜め糞の場所を、職員会館北側で発見した。あたりは独特の臭いで充満していて、直径50 cmほどの糞の山があった（写真）。付近の足跡から、ホンダタヌキのものであることを確認した。

ホンダタヌキは雑食性で、歯は基本的に肉食獣の型だが、植物質のものをよく食べる。特にカキやアケビのような甘みのあるものを好むらしい。

初めの確認は1989年11月で、糞を見ると、カキの種子が多く含まれていて、カキの実を食べていたことがわかる。なお、付近にカキの木がないか探したところ、職員テニスコート西側の通用門の横にあった。種子の形も同じで、ここのものを食べたものと推測できる。

また、職員会館北側の軒下の乾燥した土の上にはホンダタヌキの足跡が多く見られ、ここで砂浴びなどをしているようである（写真）。ホンダタヌキの足跡はジグザグについている。そして、後肢が外股になっているので後肢の足跡は前肢の外側になっているのが特徴。しかし、まだ、肝心の姿を確認することができていない。

## チョウ

大学構内には四季の折々、木や草が花を咲かせる。虫媒花には、ハチ、ハナアブ、ハナムグリ、ハナカミキリ、チョウ、ガなどが集まってくる。その中で、チョウの仲間美しく、大学構内で育っているものが数種いることは特筆すべきである。

アオスジアゲハ（クスノキ）、キアゲハ（ニンジンなどのセリ科）、ナミアゲハ（ミカンなどの柑橘類）、ジャコウアゲハ（ウマノ

スズクサ）、ベニシジミ（スイバ）、モンシロチョウ（アブラナ科）、ゴマダラチョウ（エノキ）などチョウには決まった幼虫の食べる植物があり、その植物を食草という。

学内には上記の食草にあたる植物が見られそこでの繁殖を確認している。これらの生活史を見るに、冬越しの仕方は色々である。幼虫越冬の種はベニシジミ、ゴマダラチョウで、他は蛹越冬である。

## ゴマダラチョウ *Hestina japonica*

ゴマダラチョウは国蝶のオオムラサキと同じタテハチョウ科で、幼虫もよく似た恰好で区別しにくい。その上、食草も同じエノキである。大学構内にはエノキがあちこちに見られ、それぞれで幼虫を確認したが、すべてゴマダラチョウであった。

幼虫はエノキの葉を食べて、エノキの葉が落ちだす11月中旬ごろから、根ぎわに移動し、重なった落葉下で越冬する。エノキが二股に分かれている間に落ち込んだ落葉の中でもよく幼虫が見付かる。

幼虫の体色はそれがいる葉の色とよく似ていて、葉が緑色のころは緑色、落葉して茶色になった葉のときには灰褐色になることで、身を守っている。しかし、エノキにもよく見ると寄生バチがうろうろしており、幼虫がその被害にあうことも多い。

## ジャコウアゲハ *Byasa alcinous*

技術棟の北側のフェンス沿いに、ウマノスズクサが生育しており、これを食草にしているジャコウアゲハの成虫の姿を春から夏にかけてよく見かける。

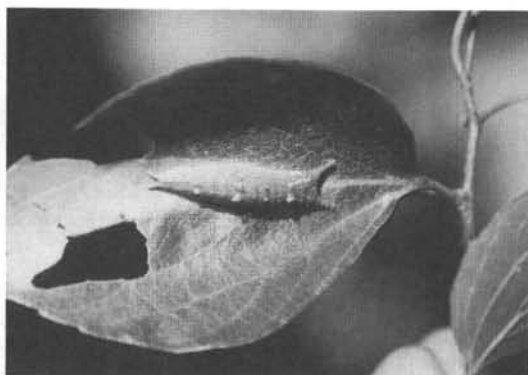
成虫は褐色を帯びた黒色が雌、真っ黒が雄、翅の裏面の弦月紋は赤色である。体側に赤色の毛があるのが特徴である。

雌は、ウマノスズクサに産卵し、幼虫はそれを食べて育っていく。11月頃になると、蛹化し、色鮮やかな蛹が技術棟の壁やスレートの屋根の下などに見られるようになる。

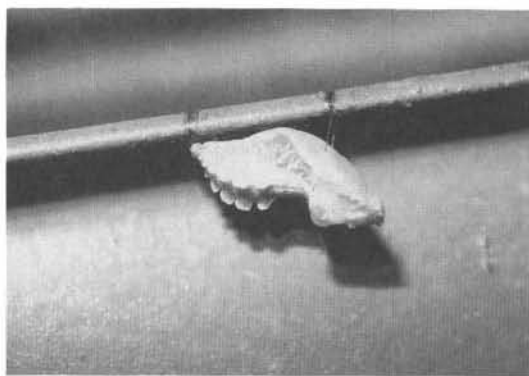
# 奈良教育大学の珍しい動物



ゴマダラチョウの幼虫



ゴマダラチョウの幼虫



ジャコウアゲハの蛹



ナツアカネ



ジグモの巣



ジョロウグモ





# 大学の借景

—春日山・高円山・若草山の植生—

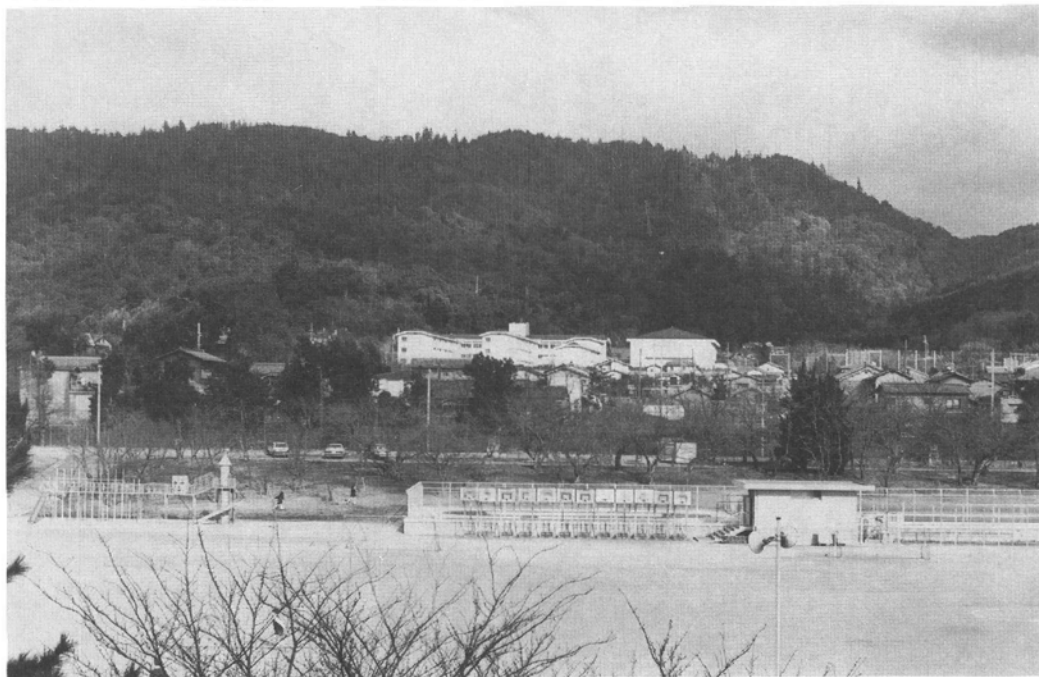
菅 沼 孝 之

奈良教育大学は旧市街地の東端にそびえる春日山・高円山の山麓に位置する。この地域は能登川によって発達した扇状地であって、標高110m前後に位置し、ごくゆるやかに西方に流れて、標高60m台の奈良盆地に至っている。このような位置関係は、東に高円山、春日山（花山）、春日御蓋山（以下、単に御蓋山とよぶ）、若草山（三笠山）、北に佐保・佐紀の丘陵ともよばれる台地性の奈良丘陵、西に西の京丘陵、それより西方のやや高い矢田丘陵、さらに背後に北から南へのびる生駒山脈を眺望することができるわが国の大学のなかでも、稀にみる恵まれた環境を備えている。

キャンパスを囲む自然環境は、利用形態から大分けにして、照葉樹からなる原始林（原

生林）、二次林、植林、竹林、果樹園、草原、農耕地で、なかでも、照葉樹林が占めるウェイトの大きさは他に類例をみない。また、自然環境を形成する植生の多様性は、極めて高いといえることができる。つぎにこれらの借景を概観することにしよう。

まず、春日山（標高496m）の西斜面にひろがるツブラジイが優占する照葉樹林は、わが国の暖地の古文化圏を広く覆っていた森林で、奈良時代以来、20万人を擁する都市に隣接しながら、現在まで原始林の状態をよく維持しているのは希有のことといわなければならない。この照葉樹林は「春日山原始林」とよばれて、大正13年（1924）12月9日に天然記念物に、さらに、昭和31年（1956）2月15日には特別天然記念物に指定されて、現在に



春日山を望む

いたっている。現在の文化財法の前身である史蹟名勝天然記念物保存法が成立したのが大正8年(1919年)3月のことであるから、春日山原始林の指定は極めて早い時期であったということができ、さらに、特別天然記念物に指定されていることは、国宝級の文化財であることを示している。

本原始林は山全体がツブラジイ(コジイ)林であるが、微地形的には南北にはしる脊稜部や、雲霧がかかりやすいところにはアカガシを多く交え、下部扇状地形をなす山麓にはイチイガシを、尾根筋にはモミを、岩壁地にはツガを、それぞれともなっている。また、ギャップに侵入して、これを埋める樹木に、シデ類、カラスザンショウ、アカメガシワ、タマミズキ、ウリハダカエデなどがあり、常緑のクロバイもニホンジカの非嗜好植物として場所によってはパイオニアの役を担っているが、パイオニアたちは常緑の森林に、春は新緑、秋は紅葉して彩りを添えている。

なお、万葉集に、

やすみしし わご大君の……………平城の京

師は かぎろひの 春にしなれば 春日  
山 三笠の野辺に 桜花 木の晩こもり  
貌鳥は……………(6-1047)

の長歌があり、三笠の野辺に自生のサクラが咲いている情景を詠んでいるが、現生するサクラから考えると、ヤマザクラであろう。現在も開花時には原始林のなかに点在するさまを眺望できるが、この眺めにこそヤマザクラの真価をみる気がする。

御蓋山を中心とした春日大社の境内は、春日山原始林と同様の林相を保っていたものと考えられるが、現在では、春日大社の創祀に際して献木されたとするナギが、結果的にはシカによって守られるかたちとなり、繁茂して純林の状態を形成している。ナギは広い葉をもっているが、針葉樹であり、独特の相観を呈するので、ツブラジイ林とは明瞭に区別できる。

山麓一帯のナギの純林を除くと、イチイガシ、ツクバネガシ、アラカシ、ウラジロガシ、カゴノキ、ウワミズザクラ、スギなどの老樹や、フジ、テイカカズラ、ウドカズラなどの



若草山を望む

つる性の木本がナギ林のなかに点在して、往時の森林を偲ばせてくれる。

春日山原始林の南側に連続する高円山は、大文字を背負うが、ほとんど全山が薪炭林として用いられたコナラ、クヌギを主とする二次林からなる。林床にはネザサ、モチツツジ、サルトリイバラ、ヤマウルシ、ミツバアケビ、ヒサカキなどが生育し、薪炭林として利用していた時代の面影は薄れているが、人とのかわりの上での貴重な森林といえる。また、谷筋にはスギやヒノキが植林されて、深い緑を塗り込み、変化をあたえている。

春日山原始林の北側には若草山が位置するが、この山ははっきりしたことは分からないものの、400年ともいわれる昔から、火入れ、すなわち山焼きが行われてきたために、草原を展開している。比較的傾斜がゆるやかな山頂部と山麓はシバ草原が発達し、斜面には乾燥地タイプのイトススキ草原が占めている。イトススキは葉の幅が狭く、質が硬いので、

ススキと区別されている。もっとも、湧水地周辺はワラビが、また、イトススキが生育する環境で保安上刈り取ったところにはチカラシバが茂るが、いずれも広い面積を占めるものではない。ここにはコガンピ、オガルカヤ、メガルカヤ、チガヤなどを交えている。古くはレンゲツツジやハギ類もあったと思うが、シカの食害にあっていまはほとんどみられない。

一般にススキ草原はかや葺き屋根や、炭俵の材料、家畜の飼料を提供するかや原として古くから管理されてきたが、若草山がそういった目的に使われていたものかどうかはよくわからない。しかし、シカの餌の恰好な供給地となっていることは確かである。

本学の背後を取り囲む山々は、単に植生が多様であるだけでなく、人が自然にかかわってきた歴史をものがたる、生きた貴重な教材であり、かつ、研究対象であり、天下に誇りうる環境といえる。

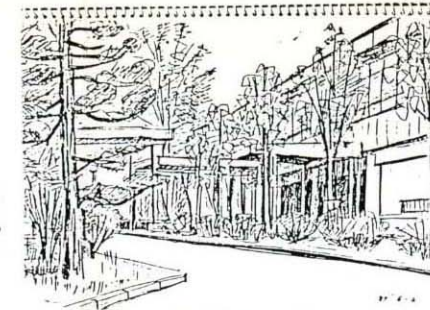




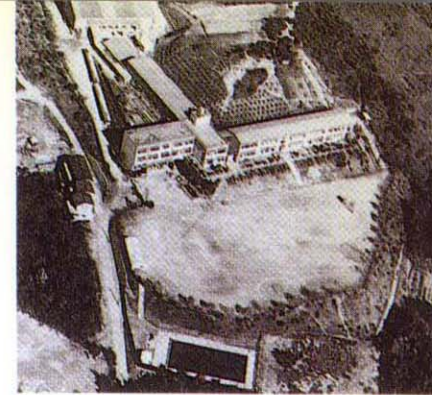
# 附中の 自然環境



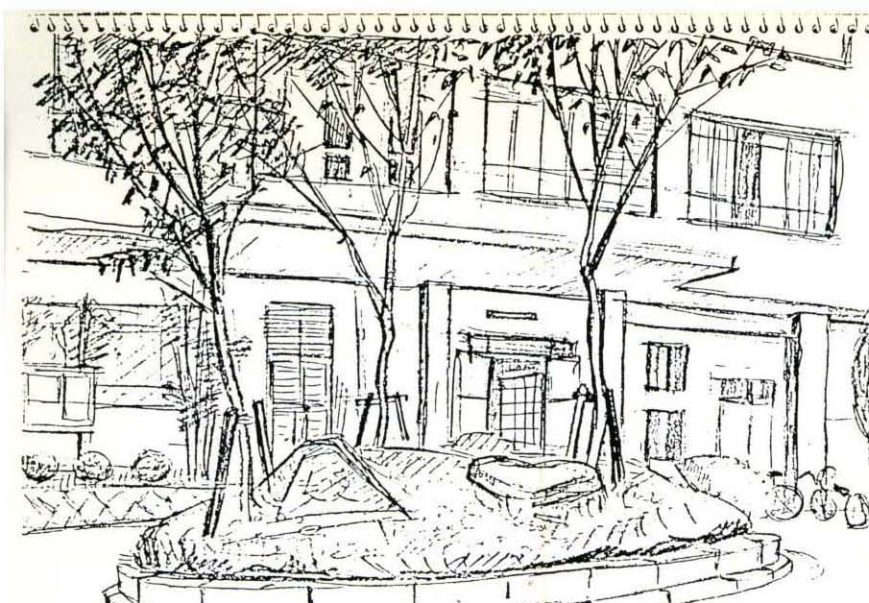
校章



B-体育館をのぞむ



移転時の航空写真



A-校門ロータリーのナラノヤエザクラ



1-奈良の八重桜の花



2-枝垂れ八重桜の花



C-運動場のプラタナス

## 附中ガイドマップ



E-学級教室ごしの裏山

D-セコイアをのぞむ



3-ノダフジ





## 附属中学校の自然ガイド

人 見 功

### 概 要

附属中学校が、現在の佐保田の丘の校地に移ったのは、1958（昭和33）年である。その経過については、「附中30年のあゆみ」（1977年）に詳しく書かれている。

校地は、新生代最新世の大阪層群佐保累層の粘土・砂れき層から成る平城山の一部に、プール、運動場、学級教室棟・管理棟、特別教室棟・体育館、テニスコート、そして自然の地形を残す本校で裏山と呼んでいる地域が、数段の段差をなして存在する。各段面の間の斜面は、一部石垣やブロック積もあるが、多くは土が露出しているので、土止めの意味もあって植物を植える適地となっている。

裏山の校地の最高部からは、3個の円筒棺が、1959年本校生徒により発見され、発掘保存されており、「古墳のある学校」という本校の特色の1つとなっている。

開校時は、周囲は全くの未開発の竹林や自然林に囲まれていた。しかし、徐々に開発が進み、現在では多くの住宅地が見られるようになってきている。とはいえ、南は狭岡神社の神社林、東は2つのため池、北の少し離れたところに御陵があり、周囲はまだまだ平城山の景観を残している、自然環境の豊かな地域の中にある。

理科の学習環境として、開校時から先輩の先生方が、教材園・教材樹木の充実・保護に力を入れてこられている。

附属中学校が開校してまもなく、奈良女子師範学校の建物を校舎として使用した関係から、女子師範学校の標本類の一部も本校に引き継がれてきている。そのとき、生きた標本である草本樹木類も当然引き継がれてきた。

佐保田の校舎へ移転したときも、それらは物品と一緒に移植されてきている。また枯死したものについても、思い出深い樹種として、記念植樹のときには優先的に選ばれてきたであろう。

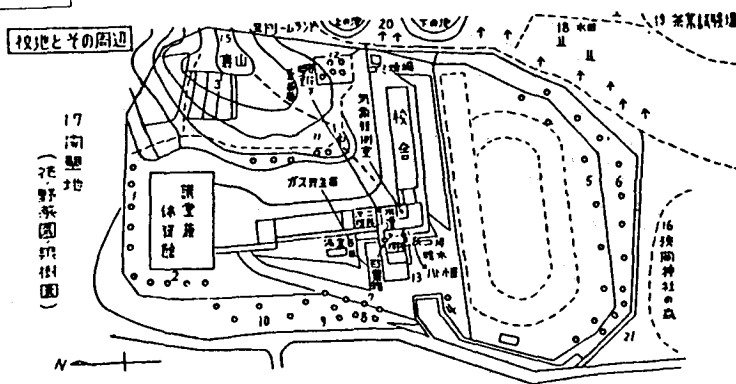
それらの努力が、現在の本校の学校園の姿を形づくっており、1960年の研究集録2集をはじめ、ほぼ十年毎に植物調査が継続され、その記録も残されている。それらの中から、参考資料として研究集録2集の資料を、次の資料1に再録する。

校地内のめばしい樹木は、卒業記念をはじめとする記念植樹である。それらの植栽樹木の由来・変遷については、開校時から30周年までのものは、前にあげた「附中30年のあゆみ」の中に、「附中植物誌」（P305-311）として、石川利和先生が特徴的な樹木解説と目録を書いておられる。その「附中植物誌」から、参考のために植物リストを、次の資料2に再録する。

校内の樹木は、無農薬・自然仕立てで栽培管理してきた。自然仕立ては、当時大学の生物学教授の佐藤一郎先生の欧米での視察による学校園樹木のあり方についてのお話を伺い、それを参考にしてとのことである。また、無農薬栽培は、自然観察を心がけ昆虫類の飛来を期待すること、石川先生が学校内でミツバチの飼育をされていたこと、虫も人も葉害からの影響をさける意味からである。

1981（昭和56）年から、現地での校舎改築となり、植栽樹木の一部の移植も行われた。それらも1984年に一巡し、現在その時の移植樹木が、やっと根付き始めたという時期である。同時に、学校周辺の樹木も30年余を経過

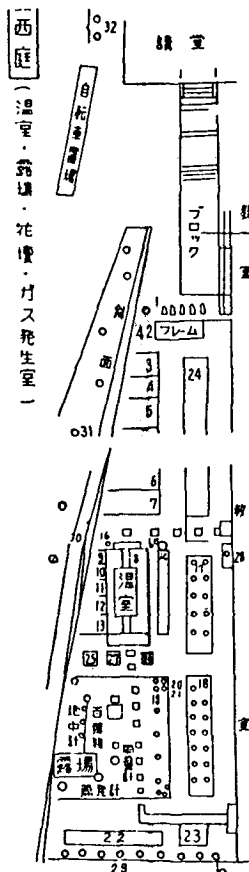
# 資料 1



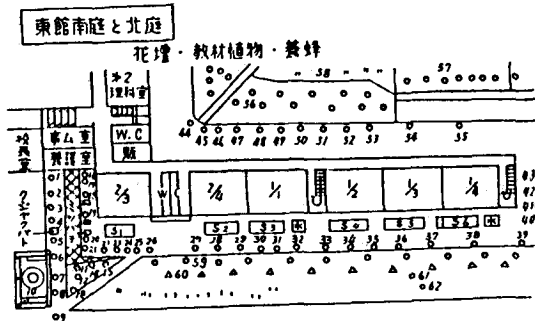
1. スズカケの木 (ブラクナス)
2. ヒマラヤスギ
3. 一年生実習園
4. イチョウ
5. スズカケの木
6. サクラ
7. ツルバラ
8. ヤマザクラ
9. ナンキンハゼ
10. スズカケの木
11. サツキ
12. モモ

16 狭間神社の森

17. 開墾地  
畑地栽培植物
18. 水田
19. 茶園、松林
20. 池  
上の池と下の池の  
プランクトン
21. 植物の侵入
15. 奈良山の残存植物  
荒地植物群落  
(裏山)
16. 狭間神社の森  
スギ、ヒノキ、の  
植林  
暖地性植物群落
14. スイレン〔キンギョ〕  
フトイ  
シマフトイ  
イネ  
(水槽)
13. スモモ ユッカ  
イヌツゲ マサキ  
ヒマラヤスギ サンゴジュ  
キンモクセイ インドハマユウ  
マルバツゲ ヒラドツツジ  
(玄関前)



1. メタセコイヤ
2. ダイオウショウ
3. ムギ→ナス、ウリ
4. ソラマメ→キウ  
リ、トマト
5. 二年草→一年草
6. 宿根草
7. 葉草類
8. [温室]
9. タイヒ
10. ワレ鉢
11. あら砂
12. 土
13. ビート
14. ハナミヨウガ
15. ナツスイセン、  
イリス
16. キジカクシ
19. グラジオラス
20. ガーベラ
21. アマリリス
22. ダリヤ
23. [ガス発生室]
24. 多年生草木
25. アヤメ、シラシ
26. アヤメ
27. カンナ
28. [水道]
29. バラ
30. カナメモチ
31. ヒラドツツジ
32. ヒマラヤスギ



1. シュロチク
2. クチナシ
3. ドラセナ
4. コノデカシワ
5. カイツカイブキ
6. コノデカシワ
7. サンゴジュ
8. シジミバナ
9. ク ス
10. [水そう]
11. ク ス
12. ダイオウショウ
13. カナメモチ
14. ハ ギ
15. ナニワイバラ
16. 17. キリシマ
18. ミツマク
19. ボ ケ
20. ユキヤナギ
21. サツキツツジ
22. ソ テ ツ
23. ハクチョウゲ
24. ミ ズ キ
25. ムレスズメ
26. ユ ッ カ
27. ア ズ サ
28. ハナスホウ
29. コ ウ メ
30. コデマリ
31. アジサイ
32. マンサク
33. ヒイラギナン  
テン
34. ザ ク ロ
35. ビ ワ
36. マ ユ ミ
37. イロハカエデ
38. コデマリ
39. トウシュロ
40. ウメモドキ
41. ハナイカダ
42. ヒラドツツジ
43. バショウ
44. キョウウチクト  
ウ
45. ア セ ビ
46. コノエザ  
クラ
47. ヤ ツ デ
48. ユ ッ カ
49. アジサイ
50. ツ バ キ
51. ゲッケイジ
52. ナンテン
53. ナ ツ メ
54. ミ ズ キ
55. エ ノ キ
56. サ ツ キ
57. モ モ
58. [裏山]
59. ヒラドツツ  
ジ
60. ハ ギ
61. ネムノキ
62. ナラノキ
63. S1~S8  
南がわ花だん  
(一年  
生草木)



し、大きくなり過ぎ、枯死・台風による倒木・交通障害などの伐採しなければならない事態も生じてきている。

校地の北東部の裏山の一部は、この辺りの自然の様子を残すが、開校時は戦時中の開墾の跡を残す裸山であった。それが、現在ではアカマツ林へと、二十数年の間の自然の遷移のようすをつぶさに示している。最近、林の中が薄暗く成ってきたので、間伐を行い明るい林づくりに努めている。

## 校内の樹木

### 校門周辺

附属中学校の花は、校章にも成っているナラノヤエザクラ(写真1)である。校門を入ってすぐのロータリーに、卒業生有志寄贈になるナラノヤエザクラが、1986年3月に植えられた。これが、正しく附属中学校の顔である。ナラノヤエザクラは、この他にも裏山の南側斜面、プールサイド、中庭に植えられている。

ガイドに示したスケッチは、本校美術科教諭の西蘭主税先生の手によるもので、スケッチAがこのナラノヤエザクラを描いたものである。全て縮小してあるので、原画の構図や筆致を損なっているが、本校の雰囲気は十分出ていると思って載せさせていただいた。

本校には、この他にもソメイヨシノ・シダレヤエザクラ・ヤマザクラ・ウコンザクラなどがあり、春の訪れを知らせるとともに、次から次へと約1か月校内のあちこちで花が咲き続けて、私達を楽しませてくれている。

次に目につく樹木は、玄関両側に植えられたセコイアである。常緑の針葉樹の特徴的な樹形を示す。円錐形の勇姿である。(ガイドDのスケッチ)1960年に植えられ、まだ30年ぐらゐの年月しか経っていないが、10メートルを超える大木になっている。校舎側の1本は、建物に近すぎるためか、もう先枯れをしており、成長も止まっている。

その横には、ほぼ同形で落葉樹のメタセコイアがある。ともに第三紀に栄えた植物であ

る。この2つの間にイチョウがあり、針葉樹の3本の木が、校門付近で窮屈そうに先を競って伸びている。

校門を入れて正面の、壁面の前に見える植物は、イブキとヒマラヤスギ、右の運動場側にはダイオウショウと、ロータリーのナラノヤエザクラと管理棟際にあるサンゴジュの広葉樹を取り巻いて針葉樹でかためている。

### 運動場周辺

運動場に目を移すと、校門付近の西側にはシダレヤナギが数本見られる。シダレヤナギの後ろは、カナメモチの垣根である。カナメモチの垣は、この地に適したものか、良く生育し、赤い新芽は初夏に美しい彩りを添えてくれている。

それより南から東にかけては、プラタナスの大木が並んで植えてある。(ガイドCのスケッチ)そのプラタナスの木々の間から、斜面に植えてある、吉野のヤマザクラがのぞいている。春のはじめには花から新芽へと長い間、その美しい姿を見せてくれる。

運動場の南端に近づけば、プール周辺の木々が見える。南西部にある藤棚(ノダフジ、写真3)、南側にはナギの並木、東側にはナラノヤエザクラが植えてある。ナラノヤエザクラの後ろの垣は、ウバメガシの垣根である。

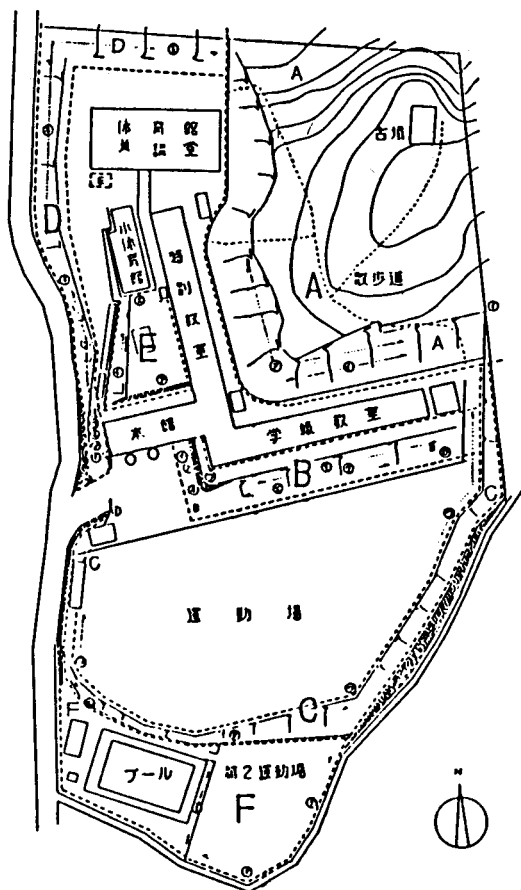
目を転じて学級棟を望めば(ガイドEのスケッチ)、クスノキ・タカオカエデ・ミズキなどの高木層、それよりやや低くサルスベリ・ウメ・ザクロ・トベラなど、もっと低いムレスズメ・バラなどの灌木が、植えられている。改築移植から数年たち、今やっと落ち着いた風情を示してきているところである。

それより少し上がって生徒昇降口のところには、西端にソテツがあり、そしてモチツツジが並んで学級教室の横に植えられている。これらは、初夏には美しい花を咲かせる。

改築前の校舎周辺の植樹状況を、1965年の石川先生の調査から図を縮小して、次の資料

# 資料 2

## 植栽区域図



### F区域 (プール周辺)

フジ (ノダフシ)  
ウバメガシワ  
ナギ  
ナラノヤエザクラ  
ニセアカシヤ  
カイヅカイブキ

### A区域 (校舎北東斜面と北庭)

ナラノヤエザクラ  
ヒイラギナンテン  
ナツメ  
ヤツデ  
サンシュユ  
コデマサ  
アカマツ  
モチツツジ  
ネジキ

サツキ (320本)  
ハナモモ  
シジミバナ  
ユキヤナギ  
ユッカ (キミガヨラン)  
ナンテン  
ハケシバリ  
アセビ  
コナラ

エノキ  
ゲッケイジュ  
キョウチクトウ  
ニワコウメ  
ツバキ  
ミズキ  
ネズ  
アラカシ  
ハンノキ

### B区域 (東庭(校舎南斜面))

ヒラドツツジ  
シグレヤエザクラ  
ナツニレ  
バラ  
キリシマ  
コノチガシワ  
ドラセナ  
カイヅカイブキ  
クチナシ  
スイレン  
ハマユウ  
ソチツ  
ミズキ  
ニワザクラ  
モリシマアカシヤ  
イロハカエデ  
コナラ

ハギ  
ユッカ  
トウシユロ  
ツバキ  
ボケ  
キンモクセイ  
マユミ  
モッコク  
クコ  
シマフトイ  
ユキヤナギ  
ハクチョウゲ  
アズサ (キササゲ)  
グミ  
ザクロ  
ヤマスギ  
マサキ

ソメイヨシノザクラ  
シジミバナ  
クス  
ボクラン  
イブキ  
ギンモクセイ  
サンゴジュ  
マキ  
タイホクレン  
ヒメコマツ  
サルズベリ  
ムレスズメ  
コデマリ  
ヒイラギ  
ウメ (紅・白)  
メクセコイタ  
ナニワイバラ

### C区域 (運動場斜面)

ブラクナス  
カナメモチ  
セコイタ (アケボノスギ)  
サザンカ

ヤマザクラ  
シグレヤナギ  
アオギリ  
キョウチクトウ

ナンキンハゼ  
イチョウ  
ツバキ  
ドイツツウヒ

### D区域 (西、北斜面)

ボブラ  
ナンキンハゼ  
セコイタ (アケボノスギ)  
シチク  
シラカシ  
ナンキンハゼ  
カンザンジザクラ  
ココノエザクラ

イチョウ  
ユッカ  
マユミ  
ヒヨクヒバ  
ネズミモチ  
ケヤキ  
ウコンザクラ  
サトザクラ

ヒマラヤスギ  
ブラクナス  
ニセアカシヤ  
モクレン (赤・白)  
モミ  
ウワミズザクラ  
ナラノヤエザクラ

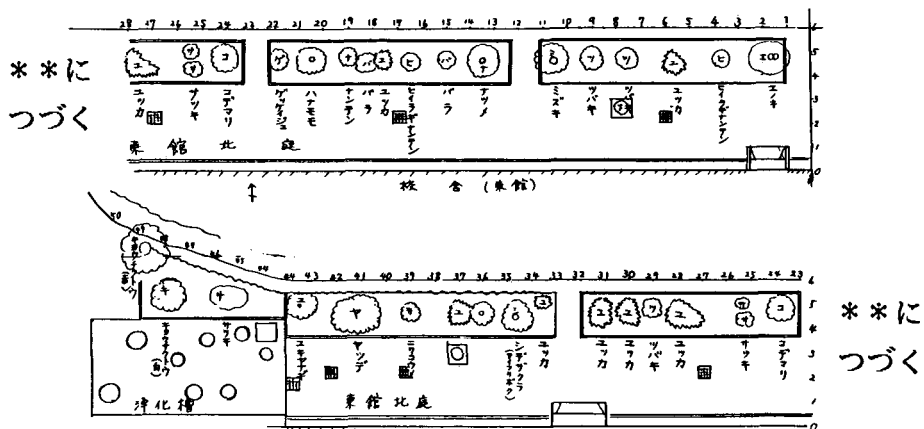
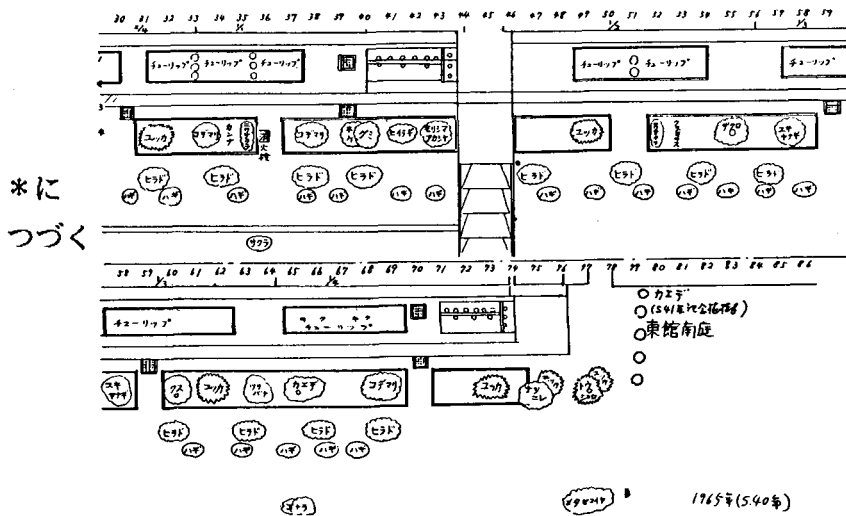
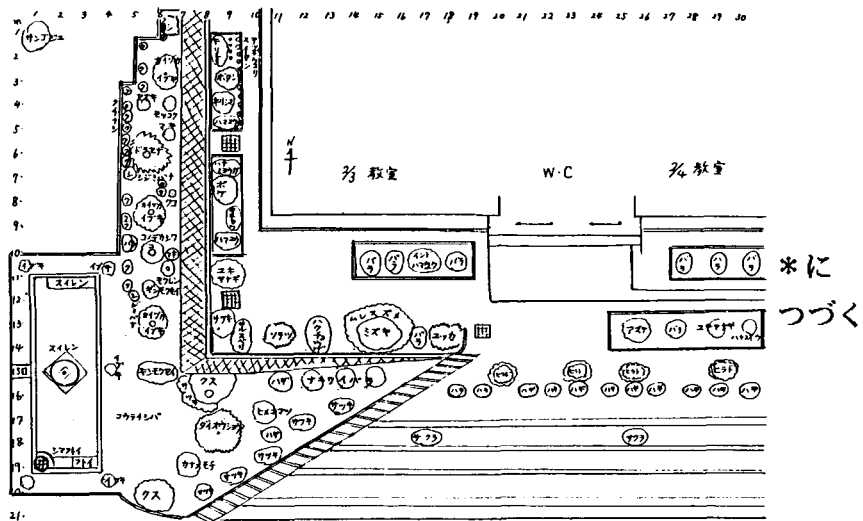
### E区域 (温室の庭)

ヒラドツツジ  
ウツギ  
バショウ  
ダイオウショウ  
ナンテン  
クロマツ  
コウゾ  
アジサイ  
ヒノキ  
シロヤマブキ  
ツルウメモドキ  
トベラ

サツキ  
バラ  
カナメモチ  
クリ  
サザンカ  
リラ  
クワ  
ハナスホウ  
クニウツギ  
アオキ  
イチジク  
ロウバイ

サトザクラ  
キウボク  
ヒマラヤスギ  
シチク  
アオギリ  
クコ  
アメリカフウ  
ムクゲ  
ヤマブキ  
ビワ  
マルバユウカリ  
カキ

## 資料 3



3に示す。

#### 学級教室棟北から特別教室棟へ

学級教室棟の裏へ回る途中、狭いが百葉箱等を設置した気象露場があり、その東端にシュロを植えている。

裏に回ると狭い通路沿いに、ムクノキ・エノキ・ハナモモ・ナツメなどの高木の間に、ツバキ・ゲッケイジュ・キョウチクトウが、それより低いヒイラギ・ナンテン・ウツギなどの灌木を植えている。改築時にも手をつけられなかった地域で、資料3を見るとほぼそのまま残っている。

西端には、石川先生が退官前に種から育てられたオガタマの木がもうだいぶ大きくなってきている。

学級教室棟よりの擁壁の上の垣根は、ウバメガシの垣根である。

元に戻るが、東端の裏山はアラカシなどの自然林が残っており、その横から古墳への上り道がある。裏山には、開校時（裸山の時）に、同窓会である八重桜会の寄贈になるサツキ（写真4）が植えられている。斜面を保護し、初夏には山を赤く染めるほど花をつける。

西の方のサツキの間には、ナラノヤエザクラも植えられている。ナラノヤエザクラは、春の花も美しいが、秋の紅葉もまた美しいものである。

これを曲がると、改築時に裏山の斜面を削った部分で、現在は石垣になっている。その前にはサザンカ・ウバメガシが植えられている。

#### 特別教室棟の中庭へ

管理棟と特別教室棟に囲まれた平地を中庭と呼んでいる。現在では、理科室からは非常階段を使って直接降りることができ、教材園として一番の適地となっている。

気象の露場や温室も配置しているので狭い地域であるが、理科教材として利用しやすい場所であるので、新しい灌木類もまずここに

植えられることになる。

ここも、改築前よりずいぶん狭められた。資料3同様、中庭についての1960年の石川先生の調査を、次の資料4に示す。

改築時に、南側の一部を除いて裸地にされた。しかし、玄関周辺などの移植樹木のめばしいもの、シダレヤエザクラ（写真2）・ゴヨウマツ・クロマツ・ドラセナなどが移動してきている。玄関ロータリーのナラノヤエザクラと同じ大きさの木が2本ここにも植えられた。

ビワ・カキ・クワという実のなる木もあるので、校舎に近いにも関わらず、実のなる時期には野鳥も訪れる。西側の垣根は、ここもカナメモチの垣根である。

#### 体育館周辺

体育館に向かうと、アオギリの並木がある。（ガイドBのスケッチ）それより体育館より、いまはまだ小さいが、1981年3月に卒業生の父兄である野島氏の寄贈になる。ヤエザクラが植わっている。咲いた花からみるとフゲンゾウらしい。将来は、立派な桜並木になるものと期待している。

体育館の東側には、ヌマスギが数本植えてある。これもやがて大きくなることであろう。

体育館周辺は、現在新しい樹木を植えることの出来る唯一の場所といって良いであろう。ユーカリ・カンコウバイは、1986年味の素のベルマーク・キャンペーン植樹の木々で、ここに植えてある。

通路の反対側の特別教室棟側には、ヒマラヤスギ・イチョウ・ヒノキなどの高木と、その間にジンチョウゲ・アオキ・ハギ・ニシキギなどの灌木がある。

#### 体育館から校門へ

体育館から校門へ下って行くと、西側の斜面にアカマツ・ニセアカシヤ・サクラ・ナンキンハゼ・ケヤキなどの大木がある。冬場に、

ナンキンハゼの実をムクドリがよく食べに来ている。

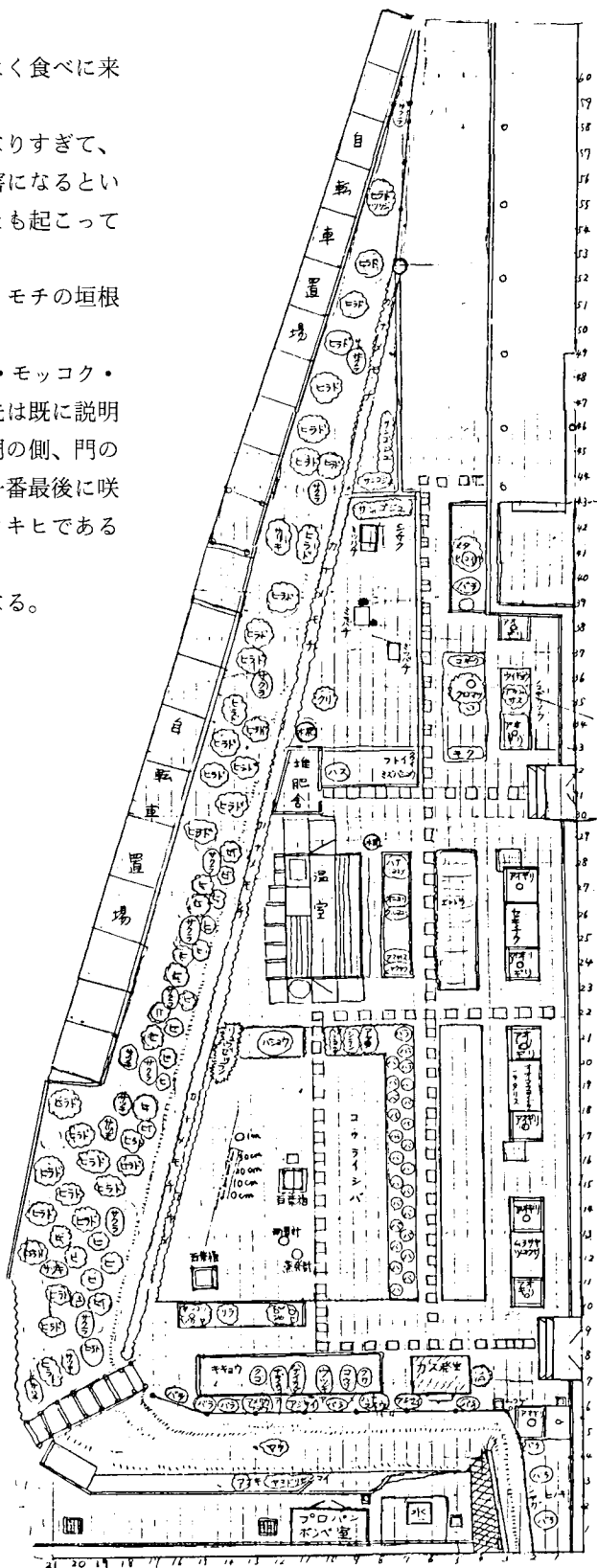
これらの木々は、少し大木になりすぎて、交通の障害や電線・電話線の障害になるということで、伐採されるようなことも起こってきている。

この道に沿った垣根も、カナメモチの垣根である。

管理棟の壁際に、タイサンボク・モッコク・クチナシが植わっている。その先は既に説明したセコイアの大木である。校門の側、門の外にサトザクラがある。校内で一番最後に咲き、美しい花である。品種はヨウキヒであるという。

これで校内を一巡したことになる。

資料4



## 附属農場の栽培植物

(撮影田中棟一)



巨大カボチャ「アトランチック・ジャイアント」 このカボチャは収穫時、43kgであった。



ヘビウリ 果実はぶら下り、物に触れると曲って、とぐろを巻いたようになる。熟すと赤くなる。



古代米（赤米） 穂が赤く、長い芒をもっている。



温室内の植物 クンシランやカラシコエの花が咲いている。



シコクエビ 雑草のオヒシバに以るが背丈が高く、穂が大きい。



温室内の植物 カトレアやデンドロビウムの花が咲いている。

〔資料編〕



## 大学構内の種子植物

石井登興・北川尚史

以下のリストは1988年4月から1989年12月にかけて調査した結果をまとめたものである。大学構内には多くの種の樹木や花卉、野菜などが植栽されているが、それらはすべて除外し、野生種だけに限った。また、ナンキンハゼ、ネムノキ、クスノキ、エノキ、アキニレなど、自然に生えたものか、植栽されたものかが紛らわしい樹木も除外した。コスモス、フランスギク、ヒルザキツキミソウ、ムシトリナデシコ、ブライダルベールなど、元もと栽培していたものが、その周辺に広がって局地的、散発的に野生状態で生えているものもこのリストには載せなかった。大部分の種は、記録の証拠となる標本作製して、生物学教室の標本室に保管してある。

種の配列順序、和名・学名は『原色日本植物図鑑』のシリーズ（保育社）に従った。

キク科 Compositae  
ノゲシ *Sonchus oleraceus*  
オニノゲシ *Sonchus asper*  
オニタビラコ *Youngia japonica*  
オオジシバリ *Ixeris debilis*  
イワニガナ *Ixeris stolonifera*  
アキノノゲシ *Lactuca indica*  
コウゾリナ *Picris hieracioides* subsp.  
*japonica*  
ブタナ *Hypochoeris radicata*  
カンサイタンポポ *Taraxacum japonicum*  
セイヨウタンポポ *Taraxacum officinale*  
ヤブタビラコ *Lapsana hamilis*  
キツネアザミ *Hemistepta lyrata*  
ノアザミ *Cirsium japonicum*  
ノボロギク *Senecio vulgaris*  
タカサブロウ *Eclipta prostrata*

ヒメヨモギ *Artemisia feddei*  
ヨモギ *Artemisia princeps*  
トキンソウ *Centipeda minima*  
アメリカセンダングサ *Bidens frondosa*  
ハハコグサ *Gnaphalium affine*  
チチコグサ *Gnaphalium japonicum*  
チチコグサモドキ *Gnaphalium pennsylvanicum*  
ヒメジョオン *Erigeron annuus*  
ヘラバヒメジョオン *Erigeron strigosus*  
ハルジオン *Erigeron philadelphicus*  
アレチノギク *Erigeron bonariensis*  
ヒメムカシヨモギ *Erigeron canadensis*  
オオアレチノギク *Erigeron sumatrensis*  
ハウキギク *Aster subulatus*  
ノコンギク *Aster ageratoides* subsp.  
*ovatus*  
ヨメナ *Kalimeris yomena*  
セイタカアワダチソウ *Solidago altissima*  
アキノキリンソウ *Solidago virgaurea*  
subsp. *asiatica*  
ヒヨドリバナ *Eupatorium chinense*  
ブタクサ *Ambrosia artemisiifolia* var.  
*elatior*  
オオオナモミ *Xanthium canadense*

キキョウ科 Campanulaceae  
キキョウソウ *Specularia perfoliata*

ウリ科 Cucurbitaceae  
カラスウリ *Trichosanthes cucumeroides*

スイカズラ科 Caprifoliaceae  
スイカズラ *Lonicera japonica*

アカネ科 Rubiaceae  
ヘクソカズラ *Paederia scandens* var.  
mairei  
アカネ *Rubia cordifolia* var. *munjista*  
キバナカワラマツバ *Galium verum*  
var. *asiaticum*  
チョウセンカワラマツバ *Galium verum* f.  
album  
ヤエムグラ *Galium spurium* var.  
*echinospermon*  
キクムグラ *Galium kikumugura*

オオバコ科 Plantaginaceae  
ツボミオオバコ *Plantago virginica*  
ヘラオオバコ *Plantago lanceolata*  
オオバコ *Plantago asiatica*

キツネノマゴ科 Acanthaceae  
キツネノマゴ *Justicia procumbens* var.  
*leucantha*

ハマウツボ科 Orobanchaceae  
ヤセウツボ *Orobanche minor*

ゴマノハグサ科 Scrophulariaceae  
マツバウンラン *Linaria canadensis*  
タチヌノフグリ *Veronica arvensis*  
オオイヌノフグリ *Veronica persica*  
ムラサキサキゴケ *Mazus miquelii*  
トキワハゼ *Mazus pumilus*

ナス科 Solanaceae  
ヒヨドリジョウゴ *Solanum lyratum*

シン科 Labiatae  
ヒメジソ *Mosla dianthera*  
トウバナ *Clinopodium gracile*  
ホトケノザ *Lamium amplexicaule*  
オドリコソウ *Lamium album* var.  
*barbatum*

キラソウ *Ajuga decumbens*

クマツヅラ科 Verbenaceae  
コムラサキ科 *Callicarpa dichotoma*  
ムラサキシキブ *Callicarpa japonica*  
クサギ *Clerodendron trichotomum*

ムラサキ科 Boraginaceae  
キウリグサ *Trigonotis peduncularis*

ヒルガオ科 Convolvulaceae  
コヒルガオ *Calystegia hederacea*

ガガイモ科 Asclepidiaceae  
ガガイモ *Metaplexis japonica*

キョウチクトウ科 Apocynaceae  
テイカカズラ *Trachelospermum*  
*asiaticum*

サクラソウ科 Primulaceae  
コナスビ *Lysimachia japonica* f.  
*subsessilis*

セリ科 Umbelliferae  
オオチドメ *Hydrocotyle ramiflora*  
ノチドメ *Hydrocotyle maritima*  
オヤブヅラミ *Torilis scabra*  
ミツバ *Cryptotaenia canadensis* subsp.  
*japonica*

ウコギ科 Araliaceae  
キヅタ *Hedera rhombea*

アカバナ科 Onagraceae  
オオマツヨイグサ *Oenothera erythro-*  
*sepala*

グミ科 Elaeagnaceae  
ナワシログミ *Elaeagnus pungens*

スミレ科 *Violaceae*  
タチツボスミレ *Viola grypoceras*  
ノジスミレ *Viola yedoensis*

オトギリソウ科 *Guttiferae*  
オトギリソウ *Hypericum erectum*

ブドウ科 *Vitaceae*  
ヤブガラシ *Cayratia japonica*  
ツタ *Parthenocissus tricuspidata*  
ノブドウ *Ampelopsis brevipedunculata*

トウダイグサ科 *Euphorbiaceae*  
エノキグサ *Acalypha australis*  
コニシキソウ *Euphorbia supina*  
ニシキソウ *Euphorbia humifusa* var.  
*pseudochamaesyce*

ヒメハギ科 *Polygalaceae*  
ヒメハギ *Polygala japonica*

カタバミ科 *Oxalidaceae*  
カタバミ *Oxalis corniculata*  
ムラサキカタバミ *Oxalis corymbosa*

フウロソウ科 *Geraniaceae*  
ゲンノショウコ *Geranium thunbergii*  
アメリカフウロ *Geranium carolinianum*

マメ科 *Leguminosae*  
ネコハギ *Lespedeza pilosa*  
メドハギ *Lespedeza cuneata*  
ミヤコグサ *Lotus corniculatus* var.  
*japonicus*  
カラスノエンドウ *Vicia sativa* var.  
*segetalis*  
カスマグサ *Vicia tetrasperma*  
スズメノエンドウ *Vicia hirsuta*  
アカツメクサ *Trifolium pratense*  
シロツメクサ *Trifolium repens*

コメツブツメクサ *Trifolium dubium*  
コマツナギ *Indigofera pseudotinctoria*  
ヤブマメ *Amphicarpaea edgeworthii* var.  
*japonica*  
クズ *Pueraria lobata*  
ツルマメ *Glycine soja*

バラ科 *Rosaceae*  
ノイバラ *Rosa multiflora*  
ナワシロイチゴ *Rubus parvifolius*  
ヘビイチゴ *Duchesnea indica* var.  
*leucocephala*  
オヘビイチゴ *Potentilla kleiniana* subsp.  
*anemonefolia*  
ヒメヘビイチゴ *Potentilla centigrana*

ユキノシタ科 *Saxifragaceae*  
アカショウマ *Astilbe thunbergii*

ベンケイソウ科 *Crassulaceae*  
コモチマンネングサ *Sedum bulbiferum*

アブラナ科 *Cruciferae*  
ナズナ *Capsella bursa-pastoris*  
マメグンバイナズナ *Lepidium virginicum*  
タネツケバナ *Cardamine flexuosa*  
イヌガラシ *Rorippa indica*  
スカシタゴボウ *Rorippa islandica*

ケシ科 *Papaveraceae*  
ナガミヒナゲシ *Papaver dubium*

ツヅラフジ科 *Menispermaceae*  
アオツヅラフジ *Cocculus orbiculatus*

アケビ科 *Lardizabalaceae*  
アケビ *Akebia quinata*  
ミツバアケビ *Akebia trifoliata*

キンボウゲ科 *Ranunculaceae*

ヒメウズ *Aquilegia adoxoides*  
 キツネノボタン *Ranunculus quelpaertensis*  
 ケキツネノボタン *Ranunculus cantoniensis*  
  
 ナデシコ科 *Caryophyllaceae*  
 ツメクサ *Sagina japonica*  
 ノミノツヅリ *Arenaria serpyllifolia* var. *tenuior*  
 ミミナグサ *Cerastium fontanum* var. *angustifolium*  
 オランダミミナグサ *Cerastium viscosum*  
 ウシハコベ *Malachium aquaticum*  
 ハコベ (コハコベ) *Stellaria media*  
 ミドリハコベ *Stellaria neglecta*  
  
 ヤマゴボウ科 *Phytolaccaceae*  
 ヨウシュヤマゴボウ *Phytolacca americana*  
  
 ヒユ科 *Amaranthaceae*  
 ヒナタイノコズチ *Achyranthes fauriei*  
 イノコズチ *Achyranthes japonica*  
  
 アカザ科 *Chenopodiaceae*  
 ケアリタソウ *Chenopodium ambrosioides*  
 シロザ *Chenopodium album*  
  
 タデ科 *Polygonaceae*  
 スイバ *Rumex acetosa*  
 エゾノギシギシ *Rumex obtusifolius*  
 コギシギシ *Rumex dentatus* subsp. *nipponicus*  
 ギシギシ *Rumex crispus* subsp. *japonicus*  
 ナガハギシギシ *Rumex crispus*  
 アレチギシギシ *Rumex conglomeratus*  
 ミゾソバ *Polygonum thunbergii*  
 ヤナギタデ *Polygonum hydropiper*  
 イヌタデ *Polygonum longisetum*

イタドリ *Polygonum cuspidatum*  
  
 ウマノスズクサ科 *Aristolochiaceae*  
 ウマノスズクサ *Aristolochia debilis*  
  
 イラクサ科 *Urticaceae*  
 クサマオ (カラムシ) *Boehmeria nivea* subsp. *nipononivea*  
 ヤブマオ *Boehmeria grandifolia*  
  
 クワ科 *Moraceae*  
 クワクサ *Fatoua villosa*  
 カナムグラ *Humulus japonicus*  
  
 ドクダミ科 *Saururaceae*  
 ドクダミ *Houttuynia cordata*  
  
 ラン科 *Orchidaceae*  
 ネジバナ *Spiranthes sinensis* subsp. *australis*  
  
 アヤメ科 *Iridaceae*  
 ニワゼキショウ *Sisyrinchium atlanticum*  
 オオニワゼキショウ *Sisyrinchium atlanticum*  
 シャガ *Iris japonica*  
  
 ヤマノイモ科 *Dioscoreaceae*  
 ヤマノイモ *Dioscorea japonica*  
 カエデドコロ *Dioscorea quinqueloba*  
  
 ヒガンバナ科 *Amaryllidaceae*  
 ヒガンバナ *Lycoris radiata*  
  
 ユリ科 *Liliaceae*  
 ヤブラン *Lilium platyphylla*  
 ノビル *Allium macrostemon*  
  
 イグサ科 *Juncaceae*  
 イ *Juncus effesus* var. *decipiens*

ホソイ *Juncus setchuensis* var. *effusoides*  
クサイ *Juncus tenuis*  
コウガイゼキショウ *Juncus leschenaultii*  
スズメノヤリ *Luzula capitata*

ツユクサ科 *Commelinaceae*  
ツユクサ *Commelina communis*  
ノハカタカラクサ *Tradescantia flumiensis*

カヤツリグサ科 *Cyperaceae*  
クグカヤツリ *Cyperus compressus*  
コゴメガヤツリ *Cyperus iria*  
カヤツリグサ *Cyperus microiria*  
チャガヤツリ *Cyperus amuricus*  
アオカヤツリグサ *Cyperus nipponicus*  
ハマスゲ *Cyperus rotundus*  
アゼガヤツリ *Pycnus flavidus*  
ヒメクグ *Kyllingia brevifolia* subsp.

*leiolepis*  
クロカワズスゲ *Carex arenicola*  
マスキサスゲ *Carex gibba*  
ヒメカンスゲ *Carex conica*  
アオスゲ *Carex breviculmis*  
ナキリスゲ *Carex lenta*  
シラコスゲ *Carex rhizopoda*

イネ科 *Gramineae*  
イヌムギ *Bromus catharticus*  
キツネガヤ *Bromus remotiflorus*  
スズメノチャヒキ *Bromus japonicus*  
カモジグサ *Agropyron tsukushiense*  
アオカモジグサ *Agropyron ciliare*  
ホソムギ *Lolium perenne*  
ネズミムギ *Lolium multiflorum*  
ナギナタガヤ *Festuca myuros*  
ウシノケグサ *Festuca ovina*  
トボシガラ *Festuca parvigluma*  
ヒロハウシノケグサ *Festuca elatior*  
カモガヤ *Dactylis glomerata*  
スズメノカタビラ *Poa annua*

オオイチゴツナギ *Poa nipponica*  
ミゾイチゴツナギ *Poa acroleuca*  
イチゴツナギ *Poa sphondylodes*  
ナガハグサ *Poa pratensis*  
オオスズメノカタビラ *Poa trivialis*  
コバンソウ *Briza maxima*  
ヒメコバンソウ *Briza minor*  
カゼクサ *Eragrostis ferruginea*  
ニワホコリ *Eragrostis multicaulis*  
オヒシバ *Eleusine indica*  
ギョウギシバ *Cynodon dactylon*  
ネズミガヤ *Muhlenbergia japonica*  
ネズミノオ *Sporobolus indicus*  
カナリークサヨシ *Phalaris canariensis*  
ヨシ *Phragmites communis*  
カニツリグサ *Trisetum bifidum*  
ヒエガエリ *Polypogon fugax*  
ヤマヌカボ *Agrostis clavata*  
ヌカボ *Agrostis exarata* var. *nukabo*  
スズメノテッポウ *Alopecurus aequalis*  
var. *amurensis*  
オオアワガエリ *Phleum pratense*  
シバ *Zoysia japonica*  
ヌカキビ *Panicum bisulcatum*  
イヌビエ *Echinochloa crus-galli*  
イヌエノコログサ *Setaria ambigua*  
キンエノコロ *Setaria glauca*  
コツブキンエノコロ *Setaria pallide-fusca*  
エノコログサ *Setaria viridis*  
アキノエノコログサ *Setaria faberi*  
チカラシバ *Pennisetum alopecuroides*  
チチミザサ *Oplismenus undulatifolius*  
シマスズメノヒエ *Paspalum dilatatum*  
スズメノヒエ *Paspalum thunbergii*  
メヒシバ *Digitaria ciliaris*  
アキメヒシバ *Digitaria violascens*  
ウシノシッペイ *Hemarthria sibirica*  
チガヤ *Imperata cylindrica* var. *koenigii*  
ススキ *Miscanthus sinensis*  
ヒメアンボソ *Microstegium vimineum*

ササガヤ *Microstegium japonicum*  
コブナグサ *Arthraxon hispidus*  
メリケンカルカヤ *Andropogon virginicus*  
アブラススキ *Eccoilepus cotulifer*

ネザサ *Pleiblastus argenteostriatus*

ガマ科 *Typhaceae*

ガマ *Typha latifolia*

## 大学構内のシダ植物

山 口 明 夫

1989年12月4日に奈良教育大学構内でシダ植物の調査を行い、現地で記録をとるとともに、標本を採集した。それらを基に以下のリストを作成した。構内で1～2株しか見出されなかったものは、その場所を示した。

*Selaginellaceae* イワヒバ科  
*Selaginella remotifolia* クラマゴケ

*Equisetaceae* トクサ科  
*Equisetum arvense* スギナ

*Botrychiaceae* ハナワラビ科  
*Scepidium ternatum* フユノハナワラビ  
首塚の付近。

*Schizaeaceae* フサシダ科  
*Schizaea japonicum* カニクサ

*Pteridaceae* イノモトソウ科  
*Dennstaedtia scabra* コバノイシカグマ  
赤レンガ倉庫の北側。  
*Hypolepis punctata* イワヒメワラビ  
*Onychium japonicum* タチシノブ  
*Pteris cretica* オオバノイノモトソウ  
*Pteris multifida* イノモトソウ

*Thelypteridaceae* ヒメシダ科  
*Thelypteris acuminata* ホシダ  
*Thelypteris decursive-pinnata* ゲジゲジシダ

*Aspidiaceae* オシダ科  
*Athyrium nipponicum* イヌワラビ  
*Cyrtomium falcatum* オニヤブソテツ  
*Cyrtomium fortunei* ヤブソテツ  
*Deparia japonica* シケシダ  
*Dryopteris erythrosora* ベニシダ  
*Dryopteris lacera* クマワラビ  
*Dryopteris ×mituii* アイノコクマワラビ  
部室の南側の溝。  
*Dryopteris uniformis* オクマワラビ  
*Dryopteris varia* var. *hikonensis* オオイ  
タチシダ  
首塚の北側の斜面。  
*Dryopteris varia* var. *setosa* ヤマイタチ  
シダ  
*Polysticum longifrons* アイアスカイノデ

*Aspleniaceae* チャセンシダ科  
*Asplenium incisum* トラノオシダ

*Polypodiaceae* ウラボシ科  
*Lepisorus thunbergianus* ノキシノブ

## 大学構内のコケ植物

出口博則・北川尚史

本学構内には42種の蘚類と12種の苔類、計54種のコケが生育している。構内は全体的に乾燥しており、コケの種数は少ない。

コケが比較的多い場所は、構内で最も古い建物の赤レンガ倉庫の北側と、部室の奥の“首塚”の部分である。これらの場所は、近くに水の流れる溝があり、地面がやや湿っているため、かなり多くのコケが生育している。

赤レンガ倉庫の周辺の地面にはヤノネゴケが多く、また朽ちた材木上にホソバオキナゴケ、シンゴケ、カガミゴケが生えている。湿った地面にはジャゴケとともにコバノヤバネゴケが生えているが、後者は比較的稀な苔類であり、構内ではここだけでしか見つからない。

首塚の側溝の上の土手にナメリチョウチンゴケが旺盛に生育し、また、コバノチョウチンゴケもかなり多い。溝の縁の湿った石垣上にはヤマトコミミゴケが大量に生育している。やや湿った地面にはヒメナギゴケが最も多く、さらにチャボホウオウゴケ、キャラボクゴケ、アソシノブゴケ、ツクシウロゴケなども認められた。首塚の周りの岩上、土上、朽木上、樹幹などにヒメトサカゴケが多く生えている（この種は他の場所にも多く、各種の基物上に生じ、構内で最も普通の苔類である）。

附属小学校のグラウンドの東側や音楽科棟の西側に生えるソメイヨシノやイロハカエデの古木の樹幹には、多くのコケが着生している。蘚類ではサヤゴケ、カガミゴケ、コゴメゴケ、タチヒダゴケが多く、苔類ではカラヤスデゴケ、ミドリヤスデゴケ、ヒメアカヤスデゴケが多い。

吉備塚のクヌギは、附属小学校養護学級の西側のクスノキとともに構内で最も太い樹木

である。この樹幹には、タチヒダゴケを除く上記の種およびヒロハツヤゴケ、コバノチョウチンゴケが生育している。さらに、この樹幹上にはかなり稀なキサゴゴケが発見された。得られた標本はごく少量で、しかも不稔であったが、葉腋に形成される特徴的な無性芽によって本種であることが確認された。またクスノキの大木の樹幹には苔類のヒメミノリゴケ、フルノコゴケ、ミドリヤスデゴケ、カラヤスデゴケなどが多く着生している。

理科棟の北側に植栽されているクロマツの樹幹にはケカガミゴケの小さなマットに接近してイヌサナダゴケが見つかった。この両種の植物体は非常によく似ており、それぞれに特徴的な無性芽を見つけないかぎり、その区別はかなり困難である。

建物の周囲のコンクリートの溝の内壁にはときどきヤナギゴケが薄いマットを形成している。また、溝のコンクリートの蓋にはハマキゴケ、ハリガネゴケが生育している（両者ともに無性芽が見出された）。ハリガネゴケは事務棟の2階のベランダや各棟の屋上にも大きな群落をなして生育し、胞子体をよくつける。

建物周辺の草地にはノミハニワゴケ、ヤノネゴケ、コツボゴケが草にまじって生育し、また草地の中の小さな裸地にはツチノウエノタマゴケ、ヒメタチゴケ、コスギゴケなどが見出される。コケは一般に冬の季節にも枯れず緑色を保っている。そのため、草地に生えているコケは、その周辺の草が枯れた冬によく目立つ。日当たりのよい草地にはハイゴケが多い。日当たりがよく、草があまり生えていない土上にはネジクチゴケ、ツチノウエノ



タマゴケが生育している。

舗装道路の縁や、溝の石垣などにギンゴケやホソウリゴケが多い。

#### 蘚 類 (出口博則)

本稿は1989年10月22日に奈良教育大学構内で蘚類の調査を行い、採集した標本に基づいている。以下のリストに示す42種が確認されたが、その証拠標本は同大学生物学教室に保存されている。

#### Polytrichaceae スギゴケ科

*Atrichum rhystophyllum* ヒメタチゴケ  
*Pogonatum inflexum* コスギゴケ

#### Fissidentaceae ホウオウゴケ科

*Fissidens taxifolius* キャラボクゴケ  
*Fissidens tosaensis* チャボホウオウゴケ

#### Ditrichaceae キンシゴケ科

*Ceratodon purpureus* ヤノウエノアカゴケ  
*Ditrichum rhynchostegium* ベニエキンシゴケ

#### Dicranaceae シッポゴケ科

*Brothera leana* シシゴケ  
*Leucobryum juniperoideum* ホソバオキナゴケ  
*Trematodon longicollis* ユミダイゴケ

#### Pottiaceae センボンゴケ科

*Barbula unguiculata* ネジクチゴケ  
*Didymodon constrictus* チュウゴクネジクチゴケ  
*Hyophila propagulifera* ハマキゴケ  
*Weissia crispa* ツチノウエノタマゴケ

#### Erpodiaceae ヒナノハイゴケ科

*Glyphomitrium humillimum* サヤゴケ

#### Funariaceae ヒョウタンゴケ科

*Physcomitrium sphaericum* アゼゴケ

#### Bryaceae カサゴケ科

*Brachymenium exile* ホソウリゴケ  
*Bryum argenteum* ギンゴケ  
*Bryum capillare* ハリガネゴケ  
*Pohlia camptotrachela* var. *vestitissima*  
ホザキミスゴケ

#### Mniaceae チャウチンゴケ科

*Mnium laevinerve* ナメリチャウチンゴケ  
*Plagiomnium acutum* コツボゴケ  
*Trachycystis microphylla* コバノチャウチンゴケ

#### Orthotrichaceae タチヒダゴケ科

*Orthotrichum consobrinum* タチヒダゴケ  
*Hypnodontopsis apiculata* キサゴケ

#### Fabroniaceae コゴメゴケ科

*Fabronia matsumurae* コゴメゴケ

#### Thuidiaceae シノブゴケ科

*Bryohaplocladium angustifolium* ノミハニワゴケ  
*Haplohymenium pseudo-triste* コバノイトゴケ  
*Thuidium kanedae* アソシノブゴケ

#### Amblystegiaceae ヤナギゴケ科

*Leptodictyum riparium* ヤナギゴケ

#### Brachytheciaceae アオギヌゴケ科

*Brachythecium buchananii* ナガヒツジゴケ  
*Bryhnia novae-angliae* ヤノネゴケ  
*Eurhynchium fauriei* ホソナギゴケ  
*Eurhynchium savatieri* ヒメナギゴケ  
*Rhynchostegium inclinatum* カヤゴケ

Entodontaceae ツヤゴケ科  
Entodon challengerii ヒロハツヤゴケ

Plagiotheciaceae サナダゴケ科  
Taxiphyllum taxirameum キャラハゴケ

Sematophyllaceae ハシボソゴケ科  
Brotherella henonii カガミゴケ  
Brotherella yokohamae ケカガミゴケ  
Sematophyllum subhumile subsp.  
japonicum ナガハシゴケ

Hypnaceae ハイゴケ科  
Hypnum plumaeforme ハイゴケ  
Platygyrium repens イヌサナダゴケ  
Vesicularia flaccida ヨコスカイチイゴケ

#### 苔 類 (北川尚史)

以下のリストは1989年11月から12月にかけて調査した結果をまとめたものである。コバノヤバネゴケ以外は奈良付近の低地の普通種である。数年前まで、全国的にもかなり珍しい *Monosolenium tenerum* ヤワラゼニゴケが構内の数か所で生育していたが今回は発見できなかった。記録の基になった標本は生

物学教室内に保存してある。

Lophocoleaceae ウロコゴケ科  
Heteroscyphus planus ツクシウロコゴケ  
Lophocolea minor ヒメトサカゴケ

Cephaloziellaceae コヤバネゴケ科  
Cephaloziella microphylla コバノヤバネゴケ

Frullaniaceae ヤスデゴケ科  
Frullania ericoides ミドリヤスデゴケ  
Frullania muscicola カラヤスデゴケ  
Frullania parvistipula ヒメアカヤスデゴケ

Lejeuneaceae クサリゴケ科  
Acrolejeunea pusilla ヒメミノリゴケ  
Cololejeunea japonica ヤマトヨウジョウゴケ  
Lejeunea japonica ヤマトコミミゴケ  
Lejeunea ulicina コクサリゴケ  
Trocholejeunea sandvicensis フルノコゴケ

Conocephalaceae ジャゴケ科  
Conocephalum conicum ジャゴケ

# 大学構内の鳥類

井 上 龍 一

以下の鳥類のリストは1988年1月から1990年2月までに大学構内で主に目撃した種についてまとめたものである。

## コウノトリ目 CICONIIFORMES

### 1. サギ科 ARDEIDAE

- 1 コサギ *Egretta garzetta*

## ワシタカ目 FALCONIFORMES

### 2. ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

- 2 トビ *Milvus migrans*  
3 サシバ *Butastur indicus*

## ハト目 COLUMBIFORMES

### 3. ハト科 COLUMBIDAE

- 4 ドバト *Columba livia* var.  
          *domestica*  
5 キジバト *Streptopelia orientalis*

## フクロウ目 STRIGIFORMES

### 4. フクロウ科 STRIGIDAE

- 6 フクロウ *Strix uralensis*  
7 アオバズク *Ninox scutulata*

## キツツキ目 PICIFORMES

### 5. キツツキ科 PICIDAE

- 8 コゲラ *Dendrocopos kizuki*

## スズメ目 PASSERIFORMES

### 6. ヒバリ科 ALAUDIDAE

- 9 ヒバリ *Alauda arvensis*

### 7. ツバメ科 HIRUNDINIDAE

- 10 ツバメ *Hirundo rustica*  
11 コシアカツバメ *Hirundo daurica*

### 8. セキレイ科 MOTACILLIDAE

- 12 キセキレイ *Motacilla cinerea*  
13 ハクセキレイ *Motacilla alba*  
14 セグロセキレイ *Motacilla*

*grandis*

- 15 ビンズイ *Anthus hodgsoni*

### 9. ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

- 16 ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*

### 10. モズ科 LANIIDAE

- 17 モズ *Lanius bucephalus*

### 11. ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

#### ツグミ亜科 TURDINAE

- 18 ジョウビタキ

*Phoenicurus aureoreus*

- 19 トラツグミ *Turdus dauma*

- 20 シロハラ *Turdus pallidus*

- 21 ツグミ *Turdus naumanni*

### 12. エナガ科 AEGITHALIDAE

- 22 エナガ *Aegithalos caudatus*

### 13. シジュウカラ科 PARIDAE

- 23 シジュウカラ *Parus major*

### 14. メジロ科 ZOSTEROPIDAE

- 24 メジロ *Zosterops japonica*

### 15. ホオジロ科 EMBERIZIDAE

- 25 ホオジロ *Emberiza cioides*

- 26 カシラダカ *Emberiza rustica*

- 27 アオジ *Emberiza spodocephala*

### 16. アトリ科 FRINGILLIDAE

- 28 アトリ *Fringilla montifringilla*

- 29 カワラヒワ *Carduelis sinca*

- 30 イカル *Eophona personata*

- 31 シメ *Coccothraustes*

*coccothraustes*

### 17. ハタオリドリ科 PLOCEIDAE

- 32 スズメ *Passer montanus*  
 18. ムクドリ科 STURNIDAE  
 33 ムクドリ *Sturnus cineraceus*  
 19. カラス科 CORVIDAE

- 34 ハシボソガラス *Corvus corone*  
 35 ハシブトガラス  
*Corvus macrorhynchos*

## 大学構内の両生類、爬虫類、哺乳類

井 上 龍 一

大学構内の脊椎動物についてはこれまで調査した記録がないので1989年4月から調査を行った。主に目撃によるもので今後、哺乳類などは捕獲申請を出し、標本としても残していきたい。

哺乳類のホンダタヌキは今回の調査で初めて確認したものである。

### 両生類

#### 無尾目 ANURA

1. アカガエル科 RANIDAE  
 1 ヌマガエル *Rana limnocharis*  
 2 トノサマガエル  
*Rana nigromaculata*  
 3 ウシガエル *Rana catesbeiana*  
 2. アマガエル科 HYLIDAE  
 4 ニホンアマガエル *Hyla arborea*

### 爬虫類

#### 有鱗目 SQUAMATA

- トカゲ亜目 LACERTILIA  
 1. トカゲ科 SCINCIDAE  
 1 トカゲ *Eumeces latiscutatus*  
 2. カナヘビ科 LACERTIDAE  
 2 カナヘビ  
*Takydromus tachydromoides*

#### 3. ヤモリ科 GEKKONIDAE

- 3 ヤモリ *Gekko japonicus*

#### ヘビ亜目 OPHIDIA

#### 4. ヘビ科 COLUBRIDAE

- 4 ヤマカガシ *Rhabdophis tigrinus*  
 5 シマヘビ *Elaphe quadrivirgata*

### 哺乳類

#### 食虫目 INSECTIVORA

#### 1. モグラ科 TALPIDAE

- 1 コウベモグラ *Mogura kobeae*

#### 翼手目 CHIROPTERA

#### 2. ヒナコウモリ科 VESPERTILIONIDAE

- 2 アブラコウモリ  
*Pipistrellus abramus*

#### 食肉目 CARNIVORA

#### 3. イヌ科 CANIDAE

- 3 ホンドタヌキ  
*Nyctereutes procyonoides viverrinus*

#### 4. イタチ科 MUSTELIDAE

- 4 チョウセンイタチ  
*Mustela sibirica coreana*

# 附 属 中 学 校 の 樹 木

人 見 功

1990年1月現在、附属中学校の校内に生育する樹木は以下の通りである。このリストを作成する過程で、外国産の栽培種が増える傾向にあること、ここ20年の間にも20種を超える樹木が、一度は植えられ、そして枯れていったことがわかった。

## 裸子植物

ソテツ科	ソテツ
イチョウ科	イチョウ
マキ科	イヌマキ、ナギ
マツ科	ツガ、ヒマラヤスギ、 アカマツ、クロマツ、 ダイオウマツ、ゴヨウマツ
スギ科	スギ、メタセコイア セコイア、ヌマスギ
ヒノキ科	コノテガシワ、ヒノキ、 ヒムロ、ネズ、イブキ

## 被子植物

### 双子葉離弁花植物

ヤナギ科	シダレヤナギ
カバノキ科	ハンノキ
ブナ科	クリ、コナラ、クヌギ、 ウバメガシ、アラカシ、 シラカシ
ニレ科	ムクノキ、ケヤキ
クワ科	クワ
モクレン科	コブシ、タイサンボク、 オガタマノキ
メギ科	ヒイラギナンテン、ナンテン、 ホソバヒイラギナンテン
ロウバイ科	ロウバイ
クスノキ科	クスノキ、シロダモ、 ゲッケイジュ
ユキノシタ科	ウツギ、ヒメウツギ、

	アジサイ
トベラ科	トベラ
マンサク科	フウ
スズカケノキ科	アメリカスズカケノキ
バラ科	シモツケ、コデマリ、 ユキヤナギ、シジミバナ、 タチバナモドキ、カイドウ、 コナシ、ビワ、カナメモチ、 シャリンバイ、ボケ、 ヤマブキ、キイチゴ、 バラ、ウメ、ニワザクラ、 ハナモモ、シダレヤエザクラ、 ヒガンザクラ、ソメイヨシノ、 ヤマザクラ、サトザクラ、 フゲンゾウ、ウコンザクラ
マメ科	ネムノキ、ハナズオウ、 エニシダ、フジ、ムレスズメ、 ハリエンジュ、ハギ
ミカン科	カラタチ
トウダイグサ科	ユズリハ、ナンキンハゼ、 アカメガシワ
ツゲ科	ブクサスツリー
ウルシ科	ハゼノキ
モチノキ科	モチノキ、ヒイラギモチ、 イヌツゲ、ネズミモチ
ニシキギ科	ツリバナ、マユミ、ニシキギ、 マサキ
カエデ科	イロハカエデ
トチノキ科	トチノキ
クロウメモドキ科	ナツメ
アオイ科	フヨウ、ムクゲ、ハイビスカス
アオギリ科	アオギリ
ツバキ科	ツバキ、サザンカ、ヒサカキ、 モッコク

ジンチョウゲ科 ジンチョウゲ

グミ科 ナワシログミ

ミソハギ科 サルスベリ

ザクロ科 ザクロ

フトモモ科 ユウカリジュ

ウコギ科 ヤツデ、タカノツメ

ミズキ科 ミズキ、アオキ

#### 双子葉合弁花植物

ツツジ科 ヤマツツジ、サツキツツジ、  
モチツツジ、ドウダンツツジ、  
アセビ、ネジキ

カキノキ科 カキ

モクセイ科 イボタノキ、ギンモクセイ、  
キンモクセイ、

ヒイラギモクセイ、ヒイラギ、

オウバイ、レンギョウ

キョウチクトウ科 キョウチクトウ

クマツヅラ科 ムラサキシキブ

ナス科 クコ

アカネ科 クチナシ、ハクチョウゲ

スイカズラ科 サンゴジュ、ハコネウツギ、  
タニウツギ、アベリア

#### 単子葉植物

イネ科 シチク

ヤシ科 シュロ、シュロチク

ユリ科 キミガヨラン、ドラセナ、  
ナギイカダ

## 附 属 農 場 の 樹 木

東 村 隆 子・田 中 棟 一

本学は昭和24年5月に奈良学芸大学として開学するにあたり、前身の奈良青年師範学校の附属農場を引き継いだ。当時の農場は同師範学校の位置する高市郡八木町小房（現在の橿原市小房町）にあった。奈良青年師範学校の最後の生徒（農業科、林業科および女子部）が卒業した昭和26年3月末日をもって同師範学校は廃校となり、その全施設が奈良学芸大学の附属農場および演習林のものとなった。

奈良学芸大学は昭和33年10月に現在の高畑町に校舎の移転した。また、昭和41年4月に奈良教育大学と改称され、同時に中学校教員養成課程職業科が廃止された。その後も元の農場（八木農場と呼ばれていた）が農業関係の実習の場として利用されていた。しかし、農業関係の教官と学生が少なくなり、大きな農場を管理・維持することが次第に困難になり、また遠隔の地で不便であるため、同農場を売却して、昭和44年3月に奈良市白毫寺町の現在地に移転した。

現在の附属農場は大学のキャンパスから南へ約0.8kmの位置にあり、徒歩で約10分の距離にある。面積は約110a（3300坪）で、水田や蔬菜園などのほか、7aの花木園、6aの果樹園を有している。また、0.7aのガラス温室の設備をもっている。

本学附属農場は現在地（元は水田）に移転した後、各種の植物の収集に努めた。その結果、現在（1990年1月）、同農場には、以下のリストに示す、かなり多数の樹木が植栽されている。なお、このリストには、それぞれの樹木の入手元とその年もあわせて記録した。「旧八木農場 1969」のように、現在地に移転する以前に八木農場から移した形で記載し

ているものは、その年にいったん大学構内に移し、後に現在の附属農場に移植したものである。

Salicaceae ヤナギ科

*Salix gracilistyla* ネコヤナギ

挿木 1974

*Salix matsudana* ウンリュウヤナギ

挿木 1974

*Salix subfragilis* タチヤナギ

旧八木農場 1962

Fagaceae ブナ科

*Castanea crenata* クリ（銀寄）

田中棟一 1986

*Quercus phylliraeoides* ウバメガシ

奈良護国神社 1975

Ulmaceae ニレ科

*Zelkova serrata* ケヤキ

奈良護国神社 1975

Moraceae クワ科

*Ficus carica* イチジク

Magnoliaceae モクレン科

*Magnolia denudata* ハクモクレン

奈良市村上種苗店

*Magnolia grandiflora* タイサンボク

*Michelia fuscata* トウオガタマ

京都教育大学 1974

Calycanthaceae ロウバイ科

*Meratia praecox* ロウバイ



平田善文 1975  
*Meratia praecox* var. *lutea* ソシンロウバ  
イ

Lauraceae クスノキ科  
*Cinnamomum camphora* クスノキ  
奈良護国神社 1975  
*Laurus nobilis* ゲッケイジュ  
喜多功 1974

Ranunculaceae キンボウゲ科  
*Clematis* sp. クレマチス  
旧八木農場 1969  
*Paeonia suffruticosa* ボタン

Berberidaceae メギ科  
*Berberis* sp. フッカーメギ  
京都教育大学 1974  
*Mahonia japonica* ヒイラギナンテン  
奈良市村上種苗店 1974  
*Nandina domestica* ナンテン  
旧八木農場 1977  
*Nandina domestica* 'Leucocarpa' シロナン  
テン  
奈良市村上種苗店 1975

Theaceae ツバキ科  
*Camellia japonica* ツバキ  
旧八木農場 1969  
*Camellia sasanqua* サザンカ  
旧八木農場 1969

Hamamelidaceae マンサク科  
*Corylopsis spicata* トサミズキ  
京都教育大学 1974  
*Hamamelis japonica* マンサク  
橿原市西田園芸 1977

Pittosporaceae トベラ科  
*Pittosporum tobera* トベラ

奈良護国神社 1975

Saxifragaceae ユキノシタ科  
*Deutzia crenata* ヤエウツギ  
京都教育大学 1974  
*Deutzia gracilis* ヒメウツギ  
奈良市村上種苗店 1976  
*Hydrangea macrophylla* セイヨウアジサイ  
挿木 1977  
*Hydrangea macrophylla* ガクアジサイ  
挿木 1977

Rosaceae バラ科  
*Chaenomeles speciosa* ボケ  
旧八木農場 1969  
*Cotoneaster horizontalis* ベニシタン  
挿木 1969  
*Crataegus oxyacantha* セイヨウサンザシ  
京都教育大学 1974  
*Eriobotrya japonica* ビワ  
大和農園 1965  
*Prunus japonica* ニワウメ  
旧八木農場 1969  
*Prunus lannesiana* オオシマザクラ  
挿木  
*Prunus leveilleana* cv. *Narazakura* ナラノ  
ヤエザクラ 奈良県 1973  
*Prunus mune* ウメ (鶯宿, 寒紅梅, 冬至)  
五條市鎌田種苗店 1968  
*Prunus persica* モモ (中津白桃, 大久保)  
五條市鎌田種苗店 1968  
*Prunus persica* ハナモモ (ヤグチ, キクモ  
モ) 奈良県 1973  
*Prunuu spachiana* シダレザクラ  
接木 1969  
*Prunus tomentosa* ユスラウメ  
喜多功 1975  
*Prunus x yedoensis* ソメイヨシノ  
接木 1978  
*Prunus* sp. ナラココノエザクラ

平田善文 1971  
*Pyrus serotina* var. *culta* ナシ (二十世紀)  
 五條市鎌田種苗店 1968  
*Sorbaria kirilowii* ニワナナカマド  
 京都教育大学 1974  
*Pyracantha angustifolia* タチバナモドキ  
*Pyracantha crenulata* ヒマラヤピラカンサ  
 京都教育大学 1974  
*Spiraea cantoniensis* コデマリ  
 京都教育大学 1974  
*Spiraea salicifolia* ホザキシモツケ  
 京都教育大学 1974  
*Spiraea thunbergii* ユキヤナギ  
 旧八木農場 1969  
*Spiraea tosaensis* トサシモツケ  
 京都教育大学 1974  
*Spiraea* sp. アムールシモツケ  
 京都教育大学 1974  
*Stephanandra incisa* コゴメウツギ  
 京都教育大学 1974

Leguminosae マメ科  
*Cercis chinensis* ハナズオウ  
 生物教室 1974  
*Cytisus scoparius* var. *andreaus* ホオベ  
 ニエニシダ 奈良市村上種苗店 1974  
*Lespedeza penduliflora* ミヤギノハギ  
 白毫町喜多農園 1975  
*Wisteria floribunda* フジ  
 実生 1975

Rutaceae ミカン科  
*Zanthoxylum piperitum* サンショウ  
 小川八郎

Meliaceae センダン科  
*Melia azedarach* var. *japonica* センダン  
 京都教育大学 1974

Aceraceae カエデ科

*Acer palmatum* イロハモミジ (セイガイ,  
 ノムラ) 旧八木農場 1969

Aquifoliaceae モチノキ科  
*Ilex crenata* イヌツゲ  
 旧八木農場 1962

Celastraceae ニシキギ科  
*Celastrus orbiculatus* ツルウメモドキ  
 旧八木農場 1975  
*Euonymus alatus* ニシキギ  
 京都教育大学 1974  
*Euonymus japonicus* マサキ  
*Euonymus sieboldianus* マユミ  
 能登川堤 1974

Rhamnaceae クロウメモドキ科  
*Ziziphus jujuba* ナツメ  
 奈良教育大学 1974

Tiliaceae シナノキ科  
*Grewia biflora* ウオトリギ  
 京都教育大学 1974

Malvaceae アオイ科  
*Hibiscus syriacus* ムクゲ  
 京都教育大学 1974

Sterculiaceae アオギリ科  
*Firmiana platanifolia* アオギリ  
 旧八木農場 1977

Thymelaeaceae ジンチョウゲ科  
*Daphne odora* ジンチョウゲ  
 挿木 1970  
*Daphne odora* 斑入りジンチョウゲ  
 挿木 1970

Elaegnaceae グミ科  
*Elaeagnus multiflora* トウグミ

五條市鎌田種苗店 1978

Lythraceae ミソハギ科

*Lagerstroemia indica* サルスベリ

挿木 1970

*Lagerstroemia indica* シロバナサルスベリ

挿木 1970

Myrtaceae フトモモ科

*Callistemon speciosus* ブラッシノキ

京大植物園 1969

Cornaceae ミズキ科

*Cornus florida* ハナミズキ

佐藤一郎

*Cornus officinalis* サンシュユ

橿原市西田園芸 1980

Araliaceae ウコギ科

*Hedera helix* セイヨウキヅタ

奈良市村上種苗店

*Fatsia japonica* ヤツデ

旧八木農場 1969

Nyssaceae ヌマミズキ科

*Camptotheca acuminata* カンレンボク

京都教育大学 1974

Ericaceae ツツジ科

*Rhododendron japonicum* レンゲツツジ

喜多功 1975

*Rhododendron metternichii* ツクシシヤク

ナゲ 演習林 1971

*Rhododendron indicum* サツキ

旧八木農場 1975

*Rhododendron obtusum* キリシマツツジ

(クルメツツジ)

*Rhododendron* sp. ヒラドツツジ

奈良県高取町

*Pieris japonica* アセビ

奈良市春日山

Myrsinaceae ヤブコウジ科

*Ardisia japonica* ヤブコウジ

奈良県高取町 1978

*Ardisia crenata* マンリョウ

奈良県高取町 1978

Ebenaceae カキノキ科

*Diospyros kaki* カキ (富有柿, 平核無, 正月) 五條市鎌田種苗店 1968

Oleaceae モクセイ科

*Forsythia koreana* チョウセンレンギョウ

旧八木農場 1969

*Jasminum mesnyi* ウンナンソケイ

京都教育大学 1974

*Jasminum nudiflorum* オウバイ

田中棟一 1976

*Ligustrum obtusifolium* イボタノキ (斑入り) 京都教育大学 1974

*Osmanthus asiaticus* ギンモクセイ

奈良護国神社 1975

*Osmanthus x fortunei* ヒイラギモクセイ

奈良護国神社 1975

*Osmanthus ilicifolius* ヒイラギ

*Syringa vulgaris* ライラック

奈良教育大学 1969

Apocynaceae キョウチクトウ科

*Nerium indicum* キョウチクトウ

挿木 1974

*Nerium indicum* シロバナキョウチクトウ

挿木 1974

Verbenaceae クマツヅラ科

*Callicarpa japonica* ムラサキシキブ

実生 1976

*Callicarpa japonica* シロシキブ

実生 1976

Bignoniaceae ノウゼンカズラ科  
*Campsis grandiflora* ノウゼンカズラ  
京都教育大学 1974

Caprifoliaceae スイカズラ科  
*Abelia grandiflora* ハナゾノツクバネ  
ウツギ 京都教育大学 1974  
*Viburnum awabuki* サンゴジュ  
挿木 1970  
*Viburnum plicatum* オオデマリ  
*Weigela coraeensis* ハコネウツギ  
京都教育大学 1974  
*Weigela maximowiczii* キバナウツギ  
京都教育大学 1974

Liliaceae ユリ科  
*Phormium tenax* ニユウサイラン  
*Ruscus aculeatus* ナギイカダ  
生物学教室 1975  
*Yucca gloriosa* アツバキミガヨラン  
農業教室 1969  
*Yucca filamentosa* イトラン  
農業教室 1969  
*Yucca* sp. ユッカ  
旧八木農場

Gramineae イネ科  
*Phyllostachys aurea* ホテイチク  
橿原市西田園芸 1977  
*Sasa veitchii* クマザサ  
橿原市西田園芸 1977

Palmae ヤシ科  
*Rhapis flabelliformis* カンノンチク  
橿原市西田園芸 1971  
*Rhapis humilis* シュロチク  
旧八木農場 1969  
*Trachycarpus fortunei* シュロ  
奈良市萩ヶ丘 岡野 1983

Ginkgoaceae イチョウ科  
*Ginkgo biloba* イチョウ  
旧八木農場 1969

Pinaceae マツ科  
*Picea abies* ドイツトウヒ  
奈良市村上種苗店  
*Pinus armandii* チョウセンゴヨウ  
*Pinus densiflora* アカマツ  
石田祐三  
*Pinus parviflora* ゴヨウマツ  
旧八木農場 1969  
*Pinus thunbergii* クロマツ  
旧八木農場 1969  
*Pinus thunbergii* var. *corticos*a ニシキマ  
ツ 旧八木農場 1969

Taxodiaceae スギ科  
*Cedrus deodara* ヒマラヤスギ  
旧八木農場 1969  
*Cryptomeria japonica* オオゴンスギ  
挿木  
*Cryptomeria japonica* var. *radicans* アシュ  
ウスギ 旧八木農場 1969  
*Cryptomeria japonica* var. *araucarioides*  
エンコウスギ 農業教室 1969  
*Sciadopitys verticillata* コウヤマキ  
奈良市村上種苗店 1985

Cupressaceae ヒノキ科  
*Biota orientalis* var. *ericoides* シシンデン  
奈良市村上種苗店  
*Chamaecyparis obtusa* ヒノキ  
旧八木農場 1969  
*Chamaecyparis obtusa* var. *filicodes* オウ  
ゴンクジャクヒバ 田中棟一 1974  
*Chamaecyparis pisifera* ヒヨクヒバ  
旧八木農場  
*Chamaecyparis pisifera* var. *plumosa* オ  
ウゴンシノブヒバ 旧八木農場 1969

*Chamaecyparis pisifera* var. *squarrosa* ヒ  
ムロ 旧八木農場 1969

*Juniperus chinensis* ビャクシン 旧八木農  
場

*Juniperus chinensis* cv. *Kaizuka* カイツカ

イブキ 旧八木農場 1969

*Thujopsis dolabrata* アスナロ

Taxaceae イチイ科

*Taxus cuspidata* イチイ

## 附属農場温室内の植物

東 村 隆 子・田 中 棟 一

以下のリストは1990年1月の時点で附属農場の温室内に栽培している植物である。このガラス温室は面積が0.7aであり、自動スプリンクラーなどの設備を有している。経費節約のため、冬の暖房は5℃を下回らない範囲に限って行っているため、高温を必要とする熱帯性の植物は栽培していない。

### Piperaceae コショウ科

*Peperomia caperata* ペペロミア (オオバチ  
デミシマアイソウ)

*Peperomia hederaceaefolia* ペペロミア (ギン  
バシマアイソウ)

*Peperomia sandersii* ペペロミア (シマアイ  
ソウ)

### Moraceae クワ科

*Ficus elastica* インドゴムノキ

*Ficus elastica* 'Craigi' タチバインドゴム  
ノキ

*Ficus elastica* 'Decora' デコラゴムノキ

*Ficus elastica* 'Decora Variegata' 斑入り  
インドゴムノキ

*Ficus microcarpa* ガジュマル

### Nyctaginaceae オシロイバナ科

*Bougainvillea* sp. ブーゲンビレア

### Crassulaceae ベンケイソウ科

*Kalanchoe blossfeldiana* カランコエ (紅弁  
慶)

*Kalanchoe tubiflora* カランコエ (錦蝶)

*Crassula obliqua* クラッスラ (花月)

### Geraniaceae フウロソウ科

*Pelargonium x hortorum* テンジクアオイ

### Euphorbiaceae トウダイグサ科

*Euphorbia milii* var. *splendens* ハナキリ  
ン

*Euphorbia tirucalli* アオサンゴ

*Euphorbia trigona* サイウンカク (彩雲閣)

### Balsaminaceae ツリフネリウ科

*Impatiens sultani* アフリカホウセンカ

### Malvaceae アオイ科

*Hibiscus rosa-sinensis* ハイビスカス (紅色  
大輪)

### Passifloraceae トケイソウ科

*Passiflora caerulea* トケイソウ

### Begoniaceae シュウカイドウ科

*Begonia x argenteo-guttata* アマノカワベ  
ゴニア

*Begonia x margaritae* ツヤベゴニア

*Begonia masoniana* アイアंकロス・ベゴ  
ニア

*Begonia rexcultorum* オオベゴニア

*Begonia schmidtiana* ヒメベゴニア

*Begonia* 'President Carnot' ヨウラクベゴ  
ニア

*Begonia x semperflorens* シキザキベゴニ  
ア

### Cactaceae サボテン科

*Epiphyllum oxypetalum* ゲッカビジン



Epiphyllum 'Pegasus' クジャクサボテン  
Rhipisaphyllosis graeseri ホシクジャクサボ  
テン

Pilocereus palmeri ハルゴロモサボテン  
Zygocactus truncatus シャコバサボテン

Melastomataceae ノボタン科  
Tibouchina semidecandra シコンノボタン

Onagraceae アカバナ科  
Fuchsia hybrida フクシャ (伊達紫)

Araliaceae ウコギ科  
Schefflera arboricola ホンコンカボック

Apocynaceae キョウチクトウ科  
Mandevilla sanderi マンデビラ・サンデリー

Asclepiadaceae ガガイモ科  
Hoya carnosa サクララン

Solanaceae ナス科  
Nicotiana alata ハナタバコ

Gesneriaceae イワタバコ科  
Aeschynanthus speciosus エスキナンツス・  
スベシオサス  
Lysionotus pauciflorus シシンラン

Acanthaceae キツネノマゴ科  
Aphelandra squarrosa 'Dania' アフェラン  
ド・ダニア

Palmae ヤシ科  
Collinia elegans テーブルヤシ  
Howeia belmoreana ケンチャヤシ  
Phoenix sp. フェニックス  
Rhapis flabelliformis カンノンチク  
Syagrus weddelliana ヒメヤシ

Araceae サトイモ科  
Caladium bicolor カラジウム (ニシキイモ)  
Monstera deliciosa モンテスラ (ホウライ  
ショウ)  
Monstera friedrichsthali モンテスラ (マ  
ドカズラ)  
Philodendron oxycardium フィロデンドロ  
ン (ヒメカズラ)  
Philodendron verrucosum フィロデンドロ  
ン (シコンカズラ)  
Scindapsus aureus ポトス (オウゴンカズラ)  
Spathiphyllum patinii スパシフィラム (サ  
サウチワ)

Bromeliaceae パイナップル科  
Acanthostachys strobilacea マツカサアナ  
ナス  
Aechmea fasciata シマサンゴアナナス  
Aechmea fulgens ウラベニサンゴアナナス  
Aechmea orlandiana オオシマサンゴアナ  
ナス  
Aechmea recurvata トックリアナナス  
Aechmea weilbachii ショウジョウアナナス  
Neoregelia spectabilis ツマベニアナナス  
Neoregelia carolinae var. tricolor ネオレ  
ゲリア  
Tillandsia cyanea ハナアナナス  
Vriesea carinata インコアナナス  
Vriesea x poelmannii オオインコアナナス  
Vriesea splendens トラフアナナス

Commelinaceae ツユクサ科  
Setcreasea purpurea セトクレアセア (ムラ  
サキゴテン)  
Tradescantia albiflora トラデスカンチア・  
アルビフロラ  
Tripogandra multiflora ブライダル・ベ  
ール

Liliaceae ユリ科

*Aloe arborescens* キダチアロエ  
*Aloe humilis* ミカドニシキ  
*Aloe sponaria* シャボンアロエ  
*Beaucarnea recurvata* トックリラン  
*Chlorophytum comosum* オリズルラン  
*Chlorophytum elatum* ヒロハオリズルラン  
*Cordyline indivisa* コルジリネ (ムラサキ  
 アツバセンネンボク)  
*Cordyline terminalis* アイチアカ  
*Dracaena concinna* ドラセナ (ベニフクリ  
 ンセンネンボク)  
*Sansevieria stuckyi* サンセベリア (ツツチ  
 トセラン)  
*Sansevieria trifasciata* サンセベリア (ア  
 ツバチトセラン)  
*Sansevieria trifasciata* var. *laurentii* サ  
 ンセベリア (フクリンチトセラン)  
*Sansevieria trifasciata* 'Hahnii' サンセベ  
 リア (マルバチトセラン)

#### Amaryllidaceae ヒガンバナ科

*Clivia miniata* クンシラン (斑入り, ダル  
 マ)  
*Crinum asiaticum* ハマユウ  
*Hippeastrum hybridum* アマリリス

#### Marantaceae クズウコン科

*Calathea zebrina* カラテア (トラフヒメバ  
 ショウ)  
*Calathea makoyana* カラテア (ゴシキヤバ  
 ネショウ)  
*Ctenanthe oppenheimiana* クテナンテ (ミ  
 イロヒメバショウ)  
*Stromanthe sanguinea* ストロマンテ (ウラ  
 ベニショウ)

#### Orchidaceae ラン科

*Cattleya* spp. カトレア  
*Cymbidium* spp. シンビジウム

*Cypripedium* spp. シプリペジウム  
*Paphiopedilum sharmain* パフィオベジウ  
 ム (シャーメイン)  
*Dendrobium nobile* デンドロビウム・ノビ  
 レ (コウキセッコク)  
*Dendrobium chrysotoxum* デンロビウム・  
 クリソトキサム  
*Dendrobium formidible* デンドロビウム・  
 フォーミーデイブル  
*Epidendrum radicans* エピデンドラム・ラ  
 デイカンス  
*Neofinetia falcata* フウラン  
*Oncidium sphacelatum* オンシジウム・ス  
 ファセラータム  
*Zygopetalum mackyi* ジゴペタラム・マッ  
 ケイ

#### Zingiberaceae ショウガ科

*Strelitzia reginae* ゴクラクチョウカ

#### Araucariaceae ナンヨウスギ科

*Araucaria excelsa* シマナンヨウスギ (ア  
 ロウカリア)

#### Psilotaceae マツバラン科

*Psilotum nudum* マツバラン

#### Davalliaceae シノブ科

*Davallia mariessi* シノブ

#### Oleandraceae ツルシダ科

*Nephrolepis exaltata* タマシダ (テディ・  
 ジュニア)

#### Polypodiaceae ウラボシ科

*Asplenium antiquum* オオタニワタリ  
*Platyserium bifurcatum* ビガクシダ  
*Platyserium willinkii* ナガバビガクシダ  
*Pyrrosia lingua* シシヒトツバ

## 附属農場の古代米



## 附属農場の古代米の形質比較

森 源 治 郎

今日栽培されている米は白色で粒が短く、丸い、いわゆるジャポニカ系のものである。しかし、古代には赤米、黒米などと呼ばれる着色米があり、この中にはジャポニカ系のものと、大唐米によって代表される粒の幅が狭く、長いインディカ系の両タイプのものが存在していた。また炊いた時に香りがする香り米なども栽培されていた。白色米はこのような着色米を改良して育成されたのだろうか、あるいは古くから両者が存在していて、今日に至る過程で白色短粒米だけが残されたのだろうか。

我国では稲が約2000年前から栽培されているが、それが赤米であったか、白米であったかは明らかでない。赤米の記事が最初にみられるのは天平6年の尾張国収納税帳であり、これによって1200余年前に赤米が作られていたことがわかる。そして大唐米に関する記載が最初にみられるのは応永年間（約550年前）の三寶院文書や東寺百合文書中の算用状である。

インディカ系の赤米は冷湿な不良環境に適し、やせ地の少肥状態でも一定の収量が上がる上、早生種であるということもあって、稲作条件の悪かった西南地方で多く栽培されていた。また、ジャポニカ系の赤米は全国にみられるが、その事例は少ない。すなわち、我国では、古くからジャポニカ系の白米が圧倒的に多かったようである。赤米、黒米の着色米及び香り米は白色米に比べて食味が悪く、またインディカ系の大唐米は脱粒性及び水田表面での越冬性が大きく雑草化しやすく、白米の中に赤米が混入することがある上、ジャポ

ニカ系の稲と交雑すると不稔になり、実らないことなどもあって、白米の品種改良が進められることにともない、人為的に除去され、明治年代には日本の水田から姿を消した。

ところで、本学附属農場には表に示されている8種類の古代米が収集保存されている。

これらのうち大唐米、岡山県総社市国司神社、対馬頭酸多久頭神社、種子島及び種子島宝満神社の5種類が赤米と呼ばれている。大唐米は長粒でインディカ系、他は短粒でジャポニカ系の特徴を示す。大唐米には芒がないが、他の種類には全てかなり長い芒がある。芒及び粃の色は種類によってかなり違いがみられる。玄米の色も種類によってさまざまであるが、いずれも赤みを帯びた着色がみられることから赤米と呼ばれているのであろう。

香り米はジャポニカ系で、香りを放つ点を除くと、芒が短く、粃及び玄米の形状、色ともに今日の栽培種に類似する。

なお、以上の赤米及び香り米はいずれも粃米である。

黒米のうち、中国西安の黒米はインディカ系の長粒で芒がない。玄米が暗灰紫色であること、また本種は糯米であることを除き、その特徴は前述の大唐米に類似する。したがって、本種は赤米の中の色の濃い種類として取り扱ってもよいと思われる。一方、談山神社の黒米も糯米であるが、本種はジャポニカ系の特徴を示し、玄米の色及び形状は今日栽培されているものとほとんど変わらない。ただ粃の色が暗褐灰色であるので黒米の呼び名がつけられている。

表 古代米の形質比較

種 類	分げつ 数	主稈の 長 さ (cm)	穂 長 (cm)	1 穂当た りの籾数	芒 の		籾 の			玄 米 の				** 脱粒性	粳と糯 の 別
					長 さ (cm)	色*	長 さ (mm)	幅 (mm)	色*	長 さ (mm)	幅 (mm)	色*	1000粒重 (g)		
大 唐 米	19.1	101.6	20.7	92.6	無	—	8.7	3.0	浅橙黄(2203)	5.8	2.5	濃赤茶(1008)	20.30	++++	粳
岡山県総社市 国司神社赤米	18.7	94.0	17.6	63.5	0.3~6.6	暗灰褐(0719)	7.0	3.5	穂橙黄(2209)	5.4	2.7	浅 茶(1612)	20.25	+++	粳
対馬豆酸多久頭 神社赤米	15.2	99.5	18.6	83.9	0.8~7.5	灰 茶(1617)	6.4	3.3	暗 黄(2211)	4.9	2.9	浅 茶(1612)	18.50	+	粳
種子島赤米	14.5	92.6	14.7	51.7	0.2~5.7	灰 紫(8915)	6.9	3.3	灰 茶(0718)	4.8	2.8	暗 黄(2211)	18.75	+	粳
種子島 宝満神社赤米	14.1	93.5	18.1	95.4	0.3~5.2	穂橙黄(2209)	6.8	3.7	淡緑黄(2702)	5.1	2.8	暗緑黄(2912)	18.50	++++	粳
香 り 米	11.1	100.6	20.3	116.0	0 ~1.5	茶 (1613)	6.2	3.0	浅黄茶(2209)	4.7	2.8	淡黄緑(3102)	17.50	+	粳
中国西安 黒 米	8.8	48.8	21.4	145.3	無	—	7.9	3.0	暗 黄(2211)	6.1	2.5	暗灰紫(8618)	18.85	++++	糯
談山神社 黒 米	9.7	106.3	18.9	82.6	0.9~7.2	暗褐色(1618)	7.1	8.5	暗褐灰(1618)	5.3	2.8	黄 白(2201)	17.50	+	糯

1989年5月12日は種、6月16日田植え。株間及び条間ともに30cmとし、1本植えにした。

\* ( ) 内の数字は日本園芸植物標準色票(農林水産省編 財団法人日本色彩研究所発行 1984)のColor code No.

\*\* +の数が多いものほど脱粒性が大。

## 大学構内の樹木の測定値

公文 勝・北川 尚史

1989年12月から1990年1月にかけて、大学構内の樹木の大きさ（高さ・太さ）を測定した。測定した樹木は1032本である。高さは釣竿型の測高器（逆目盛検測棒）を用いて測定した。また、樹幹の太さは胸高（約1.3m）の太さ（周囲の長さ）を巻尺で測定した。胸高直径はその値を円周率で割って求めた（小数点以下は切り捨てた）。樹幹が基部で分岐している場合は、それぞれについて測定した。株状になっている場合は、太い樹幹を3～4本、測定した。胸高直径が測定できないものでは、備考欄に記入した高さで測定した。

学内の大部分の樹木は測定したが、附属幼稚園、附属小学校養護学級の北側のフェンスに囲まれた部分は未測定である。また、ツツジやイヌツゲなどの灌木や、樹高が2m以下の低木は除外した。

本学が現在の高畑キャンパスに移転して以来、建物やグラウンドなどの新築、改築が相次ぎ、それに伴って、多くの樹木の伐採、移植、植樹が行われてきた。大学構内の建物の建築も一通り済み、今後は従来のような樹木の大規模な配置替えはないと思われる。したがって、以下の記録は今後、学内の樹木の生長を追跡する貴重な資料となるであろう。

A

樹 木 名	樹高(m)	胸高直径(cm)
1 ヤナギ	8.5	34
2 エノキ	10.5	27 ; 25
3 クロマツ	4.6	18
4 サクラ(ソメイヨシノ)	6.3	15;11;7;7
5 クロマツ	7.2	26
6 サクラ(ソメイヨシノ)	7.3	14;13;11;10
7 クロマツ	6.0	20
8 サクラ(ソメイヨシノ)	7.4	9;16;20;11

9 クロマツ	4.9	14
10 サクラ(ソメイヨシノ)	9.0	26;22;12
11 クロマツ	5.1	17
12 サクラ(ソメイヨシノ)	9.5	28;24;26
13 クロマツ	4.7	13 ; 15
14 カイツカイブキ	4.6	12
15 サクラ(ソメイヨシノ)	6.3	11;11;16;13
16 クロマツ	6.2	18
17 クスノキ	7.3	26 ; 28
18 エノキ	10.5	16;16;29;9
19 エノキ	8.7	12
20 エノキ	8.4	18;15;15;10
21 アラカシ	8.8	25 ; 27
22 スギ	10.5	33
23 マツ	5.5	20
24 スギ	9.0	33
25 クヌギ	22.0	70
26 クヌギ		58
27 クヌギ		37
28 エノキ		63
29 クヌギ		43
30 クヌギ		41 ; 50
31 クヌギ		35 ; 38
32 クヌギ	10.0	18
33 クヌギ	12.0	10 ; 20
34 クヌギ	15	23
35 クヌギ	5.9	8
36 クヌギ	12	14
37 クヌギ	14	19
38 サクラ(ソメイヨシノ)	5.6	10 ; 12 ; 14
39 サクラ(ソメイヨシノ)	5.9	23 ; 11
40 サクラ(ソメイヨシノ)	5.4	16 ; 21
41 サクラ(ソメイヨシノ)	4.1	15 ; 14
42 イロハカエデ	5.6	25 ; 14
43 ビワ	5.4	15 ; 16
44 カキ	4.0	9 ; 6
46 カイツカイブキ	6.9	39
47 カイツカイブキ	7.2	40
48 クスノキ	7.8	26
49 クスノキ	5.7	13
50 クスノキ	6.4	15
51 イチイガシ	6.4	8



52	イチイガシ	4.8	9	118	ヒマラヤスギ	6.1	8
53	サルスベリ	5.2	15 ; 14	119	ヒマラヤスギ	5.5	9
54	イチイガシ	6.3	10	120	ヒマラヤスギ	7.0	9
55	アラカシ	5.0~6.3	24 ; 20 ; 19	121	ナンキンハゼ	7.7	13
56	アラカシ			122	ナンキンハゼ		12
57	アラカシ			123	ナンキンハゼ		13
58	アラカシ			124	サクラ(ソメイヨシノ)	4.6	25
59	アラカシ			125	サクラ(ソメイヨシノ)	7.9	32 ; 27 ; 36
60	アラカシ			126	イロハカエデ	4.9	10 ; 14 ; 20
61	アラカシ			127	エノキ	4.5	2
62	アラカシ			128	ケヤキ	5.4	8
63	アラカシ			129	ケヤキ	5.1	8
64	アラカシ			130	ケヤキ	4.8	8 ; 8
65	ヒノキ	4.5	9	131	ケヤキ	5.0	11
66	スギ	2.7~3.5	4	132	ケヤキ	4.3	7 ; 6
67	スギ		9	133	サクラ	4.1	8 ; 6 ; 7
68	スギ		11	134	ケヤキ	5.0	8 ; 4
69	スギ		6	135	クスノキ	8.3	36
70	スギ		8	136	イロハカエデ	3.9	10
71	シダレザクラ	4.1	5	137	サクラ	5.9	12
72	ヒマラヤスギ	9.5	36	138	サクラ	3.4	4 ; 3
73	ヒマラヤスギ		32	139	ウメ	5.8	17 ; 14
74	ヒマラヤスギ		43	140	サクラ		6 ; 36
75	ヒノキ	8.0	29	141	サクラ	4.6	13;10;10;16
76	メタセコイヤ	7.0	53	142	サクラ	4.0	4 ; 6
77	クロマツ	7.3	15	143	クロマツ	5.5	33
78	サクラ(ソメイヨシノ)	9.0	25 ; 29	144	サクラ	4.0	4
79	クロマツ	5.9	17	145	サクラ	5.3	12
80	マテバシイ	6.1	11 ; 12 ; 9	146	サクラ	6.5	14
81	コウヨウザン	7.5	19 ; 18	147	サクラ	6.0	17;8;9;7
82	ケヤキ	6.7	54	148	アラカシ	8.0	15;29;17;11
B				149	アラカシ	8.5	12;15;17;13
101	カイヅカイブキ	4.0~5.0	21	150	サクラ	4.1	5 ; 4
102	カイヅカイブキ			151	イロハカエデ	5.3	13
103	カイヅカイブキ			152	サクラ	4.0	4 ; 3
104	カイヅカイブキ			153	サクラ	4.9	10
105	カイヅカイブキ			154	クロマツ	6.5	34
106	カイヅカイブキ			155	アラカシ	4.8	8 ; 5 ; 6 ; 6
107	クスノキ	4.8	12	156	アラカシ	7.9	11 ; 11 ; 12
108	イチョウ	6.8	8	157	サクラ	6.7	24 ; 10 ; 13
109	ケヤキ	5.6	5 ; 6 ; 7	158	サクラ	5.1	11 ; 9
110	ケヤキ	3.2	8	159	クロマツ	5.6	20
111	ケヤキ	5.8	10 ; 9	160	サクラ	5.2	8 ; 8
112	ケヤキ	3.7	5 ; 5	161	サクラ	5.5	13 ; 16
113	ネムノキ	7.0	15 ; 15	162	サクラ	3.5	5 ; 4
114	ケヤキ	7.0	9 ; 7 ; 6	163	クロマツ	4.2	12
115	ケヤキ	6.2	15	164	サクラ	5.1	<sup>1)</sup> ※16 ; 10
116	ヒマラヤスギ	6.5	8	165	クスノキ	5.1	20
117	ヒマラヤスギ	5.5	7	166	クスノキ	5.8	14-16
				167	クロマツ	7.1	26

168	クロマツ	3.9	14	218	クスノキ	3.2	4
169	サクラ	6.0	8 ; 6 ; 9	219	サクラ(ソメイヨシノ)	4.0	8
170	サクラ	5.8	8 ; 11 ; 8	220	サクラ(ソメイヨシノ)	5.0	7 ; 6 ; 6
171	サクラ	5.3	8 ; 4 ; 5	221	サルスベリ	4.5	7
172	クロマツ	5.3	20	222	サクラ(ソメイヨシノ)	4.8	8 ; 6 ; 9 ; 5
173	サクラ(ソメイヨシノ)	6.9	19 ; 13 ; 17 ; 12	223	イチョウ	7.5	11
174	サクラ(ソメイヨシノ)	7.7	15 ; 9 ; 19 ; 9	224	イチョウ	6.2	16
175	サクラ	4.6	7	225	イチョウ	7.2	16
176	サクラ	5.3	8	226	イチョウ	8.3	14
177	サクラ	5.1	7	227	イチョウ	5.6	8
178	サクラ	4.9	6	228	イロハカエデ	3.5	7
179	サクラ	5.5	8	229	イロハカエデ	3.3	5 ; 4
180	イチョウ	7.1	20	230	ヒマラヤスギ	5.6	15
181	イチョウ	6.6	13	231	ヒマラヤスギ	5.6	20
182	イチョウ	6.0	13	232	ヒマラヤスギ	4.9	13
183	イチョウ	5.5	9 ; 5	233	ヒマラヤスギ	5.6	19
184	クスノキ	5.7	12 ; 15 ; 9	234	ヒマラヤスギ	4.2	13
185	イチョウ	4.9	11	235	ヒマラヤスギ	4.8	13
186	サクラ(ソメイヨシノ)	6.2	15 ; 11 ; 20	236	ヒマラヤスギ	4.6	14
187	サクラ(ソメイヨシノ)	5.9	8 ; 13 ; 15	237	シラカシ	5.5	8
188	サクラ(ソメイヨシノ)	5.4	38	238	シラカシ	5.5	7
189	サクラ(ソメイヨシノ)	6.6	15 ; 12 ; 13	239	シラカシ	4.8	7
190	サクラ(ソメイヨシノ)	4.6	6 ; 3	240	ウバメガシ	5.0	6
191	サクラ(ソメイヨシノ)	5.4	9	241	ウバメガシ	4.3	7
192	サクラ(ソメイヨシノ)	5.0	8 ; 8 ; 9	242	ウバメガシ	4.5	6
193	シモクレン	3.8	4	243	アラカシ	4.6	7
194	モッコク	2.8	4	244	アラカシ	4.9	7
195	コブシ	4.1	7	245	アラカシ	4.2	6 ; 5
196	シラカシ	4.1	5	246	ケヤキ	7.8	13
197	クスノキ	5.8	8	247	クスノキ	6.0	11
198	ハナミズキ	4.6	5	248	ケヤキ	6.5	13
199	サルスベリ	4.8	7	249	ケヤキ	7.3	15
200	クロガネモチ	3.4	6	250	クスノキ	6.9	6 ; 8
201	クスノキ	4.2	3	251	ユリノキ	5.8	7 ; 5
202	クスノキ	4.1	4	252	ユリノキ	3.7	3
203	クスノキ	4.3	4	253	ユリノキ	4.2	6
204	クスノキ	4.6	5	254	ユリノキ	4.5	6
205	ナラノヤエザクラ	4.1	8	255	ユリノキ	4.9	6
206	ナラノヤエザクラ	4.1	5	256	ユリノキ	4.6	6
207	ナラノヤエザクラ	4.3	6	257	ユリノキ	5.2	7
208	サクラ	4.1	7 ; 6	258	クロマツ	4.1	9
209	ボブラ	17.0	30 ; 17	259	クロマツ	4.8	11
210	ボブラ	19.0	27 ; 34	260	クロマツ	5.0	14
211	ボブラ	17.0	29	261	クロマツ	4.2	13
212	ボブラ	17.0	25	262	クロマツ	4.2	10
213	ボブラ	18.0	37	263	アラカシ	4.0	8
214	ナンキンハゼ	8.4	10 ; 6	264	アラカシ	5.2	8
215	ベニシダレザクラ	3.7	5	265	サルスベリ	4.4	7
216	ベニシダレザクラ	4.6	5	266	ナラノヤエザクラ	4.3	6
217	クスノキ	3.4	4 ; 3	267	ナラノヤエザクラ	4.1	4 ; 4

268	ナラノヤエザクラ	4.6	7	318	クロマツ	5.9	13
269	ナラノヤエザクラ	4.1	8	319	クロマツ	5.0	16
270	ナラノヤエザクラ	4.1	7	320	クロマツ	5.1	18
271	ナラノヤエザクラ	4.6	6	321	クロマツ	4.8	16
272	ナラノヤエザクラ	3.8	6	322	クロマツ	4.0	11
273	ナラノヤエザクラ	4.2	5	323	サクラ	7.1	13 ; 11 ; 10
274	ナラノヤエザクラ	4.2	5	324	イロハカエデ	3.2	11 ; 9
275	ナラノヤエザクラ	3.7	4	325	イヌマキ	5.6	18
276	ナラノヤエザクラ	4.2	7 ; 4	326	シイノキ (スダジイ)	7.7	55
277	ナラノヤエザクラ	4.3	7 ; 4	327	シイノキ (スダジイ)	7.9	47
278	ナラノヤエザクラ	5.3	9	328	シイノキ (スダジイ)	8.0	43
279	カイヅカイブキ	7.1	16	329	ナンキンハゼ	9.5	21 ; 22
280	クロマツ	5.9	17	330	ナンキンハゼ	9.9	23
281	ヒマラヤスギ	9.0	21	331	ナンキンハゼ	10.0	30
282	ヒマラヤスギ	8.5	21	332	ナンキンハゼ	7.3	18
283	ヒマラヤスギ	8.5	21	333	アキニレ	7.5	24 ; 20
284	フウ	5.6	15	334	アキニレ	8.0	29
285	タイサンボク	5.1	7	335	アラカシ	7.9	15 ; 14 ; 17
286	フウ	5.3	10	336	シラカシ	6.0	29
287	クロマツ	4.8	20	337	シラカシ	5.6	23
288	ヒメコブシ	4.4	8 ; 5	338	アラカシ	4.9	9 ; 11
289	ナラノヤエザクラ	5.0	7 ; 6	339	アラカシ	4.5	22
290	クロマツ	5.1	13	340	サクラ(ソメイヨシノ)	6.3	11;13;9;11
291	クスノキ	6.1	24	341	サクラ(ソメイヨシノ)	6.0	17 ; 8
292	オガタマノキ	6.3	10	342	クロマツ	4.6	15
293	ナシ	4.6	4	343	クロマツ	3.9	16
294	ナシ	5.4	5	344	サクラ(ソメイヨシノ)	4.7	9 ; 17
295	スモモ	5.8	9 ; 7	345	クロマツ	5.3	13
296	スモモ	5.6	7	346	クロマツ	7.4	26
297	アンズ	5.8	9	347	ヒマラヤスギ	15.0	40
298	モモ	3.2	6	348	コノテガシワ	6.7	15
299	カツラ	9.1	23	349	サクラ(ソメイヨシノ)	6.0	9 ; 9 -13; 9
300	イロハカエデ	5.5	※27	350	サクラ(ソメイヨシノ)	5.1	15 ; 10 ; 9
301	エノキ	8.5	35	351	クロマツ	5.6	21
302	ヤマザクラ	4.5	34	352	クロマツ	4.8	17
303	カイヅカイブキ	7.5	13	353	クロマツ	3.2	13
304	カイヅカイブキ	7.0	13	354	クロマツ	3.4	13
305	カイヅカイブキ	7.0	13	355	クロマツ	5.6	24
306	クロマツ	4.0	10	356	クロマツ	3.8	※12 ; 8
307	クロマツ	4.8	12	357	クロマツ	3.5	13
308	クロマツ	5.1	11	358	サクラ(ソメイヨシノ)	7.4	27 ; 13 ; 9
309	クロマツ	6.8	22	359	クロマツ	3.8	16
310	クロマツ	6.6	20	360	クロマツ	5.2	20
311	クロマツ	3.4	9	361	クロマツ	4.8	11
312	クロマツ	6.0	13	362	サクラ(ソメイヨシノ)	5.8	13; 6 ; 6 ; 4
313	クロマツ	4.8	13	363	クロマツ	4.6	16
314	クロマツ	4.8	17	364	サクラ(ソメイヨシノ)	6.0	12 ; 8
315	クロマツ	5.2	15	365	クロマツ	3.8	17
316	クロマツ	4.9	26	366	サクラ(ソメイヨシノ)	7.3	14;18;16; 8
317	クロマツ	7.9	14	367	クロマツ	6.3	29

368	クロマツ	5.2	16	439	ヒマラヤスギ		28
369	クロマツ	7.2	29	440	ヒマラヤスギ		25
370	クロマツ	6.3	23	441	ヒマラヤスギ		22
371	クロマツ	2.9	18	442	ヒマラヤスギ		38
372	トウカエデ	7.9	7 ; 7	443	サクラ	7.2	11 ; 20-19
373	ユズリハ	4.6	4 ; 3	444	クロマツ	4.9	10
374	トウカエデ	7.3	11	445	サクラ	10.5	31
375	トエカエデ	6.9	8	446	クロマツ	4.6	12
376	ユリノキ	13.0	20	447	サクラ	7.7	15 ; 16 ; 8
377	フウ	9.1	10	448	クロマツ	5.3	13
C				449	サクラ	7.6	23 ; 27
401	ヒマラヤスギ	8.5	33	450	スギ	7.6	34
402	ヒマラヤスギ	8.5	40	451	ヒマラヤスギ	9.5	50
403	イヌマキ	3.9	9	452	メタセコイヤ	9.0	38
404	クロガネモチ	5.9	17	453	メタセコイヤ	9.0	42
405	ビワ	4.8	18	454	メタセコイヤ	6.1	26
406	クロマツ	4.8	13	455	メタセコイヤ	9.0	34
407	クロマツ	10.0	33	456	メタセコイヤ	6.1	25
408	トウネズミモチ	6.2	9-12-13;11	457	サクラ	6.9	13;12;12;12
409	クロマツ	6.9	21	458	メタセコイヤ	9.0	29
410	ウンリョウヤナギ	4.4	14	459	テーダマツ	8.2	26
411	カキ	5.2	15	460	メタセコイヤ	8.5	27
412	カキ	5.1	11	461	テーダマツ	9.8	22
413	クロマツ	5.8	19	462	サクラ	4.8	10
414	サルズベリ	7.4	15 ; 9	463	アラカシ (群)	14.0	31 ; 31
415	クロマツ	4.0	14	464	ナンキンハゼ	5.6	9
416	クロマツ	5.3	24	465	ケヤキ	6.3	13
417	ナラノヤエザクラ	4.8	14	466	ナンキンハゼ	5.5	10
418	ナラノヤエザクラ	4.5	24	467	ケヤキ	7.5	11
419	ムクノキ	9.0	32 ; 16	468	ナンキンハゼ	6.5	14
420	カシミザクラ	5.5	21	469	ケヤキ	6.3	11
421	クロマツ	5.4	18	470	ボブラ	12.0	29
422	ヒマラヤスギ	7.4	33	471	エノキ	7.2	18;11;10;9
423	ヒマラヤスギ	6.0	26	472	エノキ	4.2	7
424	メタセコイヤ	10.0	44	473	エノキ	10.0	14
425	メタセコイヤ	10.0	43	474	エノキ	7.8	15
426	トウネズミモチ	6.5	14 ; 13 ; 14	475	エノキ	7.9	20
427	テーダマツ	12.0~13.0	19	476	エノキ	9.0	16
428	テーダマテ		23	477	エノキ	10.5	20
429	テーダマツ		28	478	エノキ	11.0	34
430	テーダマツ		30	479	エノキ	12.5	21
431	テーダマツ		26	480	ムクノキ	12.0	19 ; 21
432	テーダマツ		17	481	ボブラ	15.0	46
433	テーダマツ		37	482	ヒマラヤスギ	7.1	25
434	ムクノキ	6.2	13 ; 15	483	ヒマラヤスギ	7.2	22
435	ヒマラヤスギ	7.2	27	484	ヒマラヤスギ	6.9	26
436	ヒマラヤスギ		24	485	アラカシ	5.3	12 ; 12 ; 13
437	ヒマラヤスギ		32	486	ナラノヤエザクラ	4.9	6 ; 7
438	ヒマラヤスギ		32	487	サクラ(ソメイヨシノ)	4.5	9
				488	サクラ(ソメイヨシノ)	5.5	12 ; 16

489	サクラ(ソメイヨシノ)	4.4	7
490	サクラ(ソメイヨシノ)	5.8	18;14;15; 8
491	カイヅカイブキ	6.4	22; 9;10; 9
492	クロマツ	4.4	15

# D

501	イロハカエデ	6.1	28;10;23;18
502	クロマツ	4.3	17
503	イロハカエデ	5.4	22
504	クロマツ	4.7	30
505	クロマツ	5.8	30
506	クロマツ	4.1	12
507	クロマツ	5.5	29
508	ナラノヤエザクラ	2.2	5 ; 3
509	ナラノヤエザクラ	2.0	7
510	ナラノヤエザクラ	3.1	4 ; 3
511	ナラノヤエザクラ	2.7	5 ; 3
512	ナラノヤエザクラ	2.8	6 ; 3
513	ナラノヤエザクラ	4.0	5 ; 5
514	クスノキ	5.5	20
515	サクラ	4.1	10
516	トウネズミモチ	5.9	16
517	ウメ	3.7	13 ; 8
518	サクラ	4.9	9 ; 9
519	サクラ	6.2	12 ; 12
520	クロマツ	6.5	22
521	クロマツ	6.5	22 ; 24
522	サクラ	5.2	7 ; 7 ; 10
523	クロマツ	6.6	30
524	クロマツ	6.3	19
525	クロマツ	5.2	14
526	クロマツ	4.1	13
527	クロマツ	6.1	30
528	クロマツ	6.9	17
529	クロマツ	5.2	17
530	クロマツ	7.3	28
531	クロマツ	7.2	18
532	クロマツ	6.3	26
533	クロマツ	6.4	17
534	クロマツ	5.3	18
535	イロハカエデ	5.4	14 ; 18
536	イロハカエデ	4.0	6;6;6;6
537	サクラ	4.4	4 ; 6
538	クロマツ	9.7	31
539	イロハカエデ	2.7	4 ; 2
540	クロマツ	9.0	35
541	クロマツ	4.9	15
542	サクラ	5.1	8
543	サクラ	5.0	9 ; 8
544	クロマツ	7.2	22

545	クロマツ	7.6	16
546	アカマツ	7.0	28
547	サクラ	5.2	9;11;10;9
548	クロマツ	5.8	15
549	クロマツ	6.0	23
550	サクラ	4.9	8 ; 8
551	クロマツ	4.7	16
552	サクラ	5.1	12 ; 7 ; 11
553	クロマツ	4.7	12
554	クロマツ	3.7	13
555	サクラ	6.6	9;12;12;14
556	クロマツ	4.9	15
557	イロハカエデ	4.2	9 ; 9
558	サクラ(ソメイヨシノ)	5.3	8;8;7;8
559	ナンキンハゼ	3.9	7
560	ケヤキ	7.0	10 ; 4
561	ナンキンハゼ	6.0	15
562	ケヤキ	6.7	10 ; 5
563	ナンキンハゼ	5.1	10
564	ケヤキ	6.7	12
565	ナンキンハゼ	4.6	9
566	ケヤキ	7.4	12
567	ナンキンハゼ	5.9	13
568	ケヤキ	7.1	11
569	ナンキンハゼ	5.7	10
570	ケヤキ	8.5	12
571	ナンキンハゼ	6.0	10
572	ケヤキ	7.1	14
573	ナンキンハゼ	5.2	10
574	ケヤキ	7.4	12
575	ナンキンハゼ	5.1	11
576	ケヤキ	7.0	11
577	ナンキンハゼ	6.5	14
578	キリ	6.3	23
579	ケヤキ	7.6	13
580	ナンキンハゼ	7.0	13
581	ケヤキ	6.9	11
582	ナンキンハゼ	4.8	10
583	ケヤキ	7.5	11
584	ナンキンハゼ	4.9	10
585	ケヤキ	6.6	11
586	ナンキンハゼ	5.9	8
587	ケヤキ	7.4	12 ; 4

# E

601	クスノキ	4.7	18
602	クスノキ	6.9	8 ; 21
603	イロハカエデ	5.6	32
604	クロマツ	6.3	25
605	イロハカエデ	6.2	38

606	サクラ(ソメイヨシノ)	7.1	38 ; 29 ; <sup>2)</sup> ※52	656	スギ	8.5	20
607	サクラ(ソメイヨシノ)	6.9	20;13;27;34	657	スギ	7.8	13
608	サクラ(ソメイヨシノ)	6.4	14;11;27;34	658	スギ	7.3	12
609	イロハカエデ	6.3	35	659	サクラ(ソメイヨシノ)	6.8	19 ; 12
610	イロハカエデ	6.7	18;14;22;11	660	サクラ(ソメイヨシノ)	5.8	36 ; 50
611	イロハカエデ	6.1	15 ; 16	661	サクラ(ソメイヨシノ)	6.4	19 ; 26 ; 13
612	クロマツ	9.0	30	662	サクラ(ソメイヨシノ)	8.2	24 ; 21 ; 21
613	イロハカエデ	5.9	16 ; 17 ; 11	663	サクラ(ソメイヨシノ)	7.3	14 ; 35 ; 21
614	クロマツ	8.0	43	664	サクラ(ソメイヨシノ)	4.1	20 ; 9 ; 10
615	クロマツ	10.0	30	665	サクラ(ソメイヨシノ)	5.9	10 ; 8 ; 8
616	クロマツ	8.5	27	666	サクラ(ソメイヨシノ)	5.6	10 ; 8
617	イロハカエデ	8.6	24 ; 15	667	サクラ(ソメイヨシノ)	5.8	16
618	クロマツ	8.0	21 ; 17 ; 12	668	サクラ(ソメイヨシノ)	3.8	16
619	イロハカエデ	6.0	11;10;40;15	669	サクラ(ソメイヨシノ)	5.5	16 ; 14
620	スギ	8.5	15	670	サクラ(ソメイヨシノ)	5.4	12 ; 17 ; 8
621	スギ	10.5	21	671	サクラ(ソメイヨシノ)	5.5	10 ; 24
622	スギ	9.0	18	672	サクラ(ソメイヨシノ)	6.7	23 ; 6
623	スギ	8.0	18	673	サクラ(ソメイヨシノ)	7.1	18
624	スギ	10.0	19	674	サクラ(ソメイヨシノ)	5.5	25 ; 25 ; 13
625	スギ	8.5	30	675	サクラ(ソメイヨシノ)	5.6	17 ; 35
626	スギ	8.0	40	676	サクラ(ソメイヨシノ)	7.8	31 ; 14
627	スギ	8.0	20	677	サクラ(ソメイヨシノ)	6.4	16;12;10;12
628	スギ	9.0	22	678	サクラ(ソメイヨシノ)	6.4	19;12;11;12
629	スギ	9.5	24	679	サクラ(ソメイヨシノ)	6.3	15 ; 12
630	スギ	9.2	18	680	サクラ(ソメイヨシノ)	7.5	15 ; 16 ; 12
631	スギ	8.3	12	681	スギ	11.0	23
632	スギ	8.3	15	682	サクラ(ソメイヨシノ)	6.0	13 ; 11 ; 6
633	スギ	6.0	12	683	サクラ(ソメイヨシノ)	6.8	18 ; 23
634	スギ	9.5	21	684	スギ	11.5	29
635	スギ	8.5	17	685	スギ	11.0	26
636	スギ	9.5	19	686	サクラ(ソメイヨシノ)	7.3	18
637	スギ	10.0	19	687	サクラ(ソメイヨシノ)	7.1	14;8;8;17
638	スギ	9.0	16	688	スギ	11.1	22
639	スギ	9.5	21	689	サクラ(ソメイヨシノ)	2.7	3 ; 3 ; 3
640	スギ	8.8	17	690	サクラ(ソメイヨシノ)	5.1	12 ; 7 ; 9
641	スギ	9.3	20	691	スギ	8.2	18
642	スギ	9.8	18	692	サクラ(ソメイヨシノ)	6.4	31 ; 22
643	スギ	8.5	18	693	スギ	6.7	12
644	スギ	8.5	14	694	スギ	11.5	30
645	スギ	10.5	22	695	サクラ(ソメイヨシノ)	7.7	13
646	スギ	8.5	10	696	スギ	9.5	9
647	スギ	9.0	18	697	スギ	8.0	11
648	スギ	8.0	21	698	スギ	9.5	11
649	スギ	9.0	20	699	スギ	10.0	15
650	スギ	8.7	17	700	スギ	10.5	18
651	スギ	8.5	16	701	スギ	8.0	10
652	スギ	9.0	21	702	スギ	9.0	17
653	スギ	10.5	23	703	コウヨウザン	7.5	12;10;14;13
654	スギ	10.0	29	704	ヤナギ	9.5	23
655	スギ	9.0	20	705	ヤナギ	9.3	22

706	エノキ	12.0	43 ; 31 ; 19	756	スギ	10.5	19
707	トネリコ	10.5	20	757	ヒノキ	11.5	23
708	ヤナギ	7.0	10 ; 21	758	サザンカ	8.0	12 ; 11
709	クロマツ	3.1	13	759	イロハカエデ	7.8	25
710	クロマツ	2.8	11	760	ヒノキ	11.0	18
711	クロマツ	5.5	15	761	クロマツ	12.0	25
712	キンモクセイ	4.8	9 ; 12 ; 12	762	ヒノキ	10.5	20
713	アラカシ	5.0	10;12;9;11	763	クロマツ	11.0	22
714	コノテガシワ	8.3	22	764	スギ	8.0	23
715	モミ	6.5	17	765	スギ	11.5	17
716	イロハカエデ	2.0	6	766	クスノキ	7.7	12 ; 9
717	イロハカエデ	3.4	8	767	エノキ	8.0	9
718	アオギリ	5.6	15	768	クスノキ	9.0	19;14;20;10
719	イロハカエデ	5.5	32	769	エノキ	13.0	56
720	イロハカエデ	3.6	23	770	センダン	7.3	19
721	イロハカエデ	5.2	10;15;13;8	771	エノキ	12.0	39
722	サクラ	4.8	8 ; 8	772	イヌマキ	8.0	15 ; 12
723	イチョウ	7.4	20	773	クロガネモチ	8.3	48
724	サクラ	6.4	16;13;16;14	774	イロハカエデ	5.2	11;15;10;11
725	イチョウ	6.0	21	775	サクラ(ソメイヨシノ)	6.3	19 ; 12
726	サクラ	4.7	6 ; 7 ; 4	776	ボブラ	18.0	63
727	コノテガシワ	6.7	20	777	サクラ(ソメイヨシノ)	6.8	<sup>2)</sup> ※44
728	サクラ	5.6	8 ; 11 ; 18	778	サクラ(ソメイヨシノ)	4.6	34 ; 32
729	クロマツ	5.3	19	779	サクラ(ソメイヨシノ)	5.8	26
730	アメリカキサザゲ	5.1	16	780	サクラ(ソメイヨシノ)	7.1	16
731	サクラ	6.2	19 ; 15 ; 16	781	サクラ (ソメイヨシノ)	6.5	24 ; 16
732	アキニレ	11.0	25 ; 44	782	サクラ (ソメイヨシノ)	7.8	17 ; 22
733	サクラ	4.4	10;10;10;9	783	サクラ (ソメイヨシノ)	8.5	20 ; 20 ; 17
734	サクラ	5.5	15 ; 13 ; 12	784	サクラ (ソメイヨシノ)	9.5	14 ; 29
735	サクラ	6.3	11	785	イロハカエデ	6.0	11 ; 17
736	イロハカエデ	4.5	15 ; 15 ; 13	786	サクラ (ソメイヨシノ)	8.5	27
737	サクラ	3.7	7 ; 5 ; 4	787	サクラ (ソメイヨシノ)	7.5	30
738	ボブラ	6.6	12	788	サクラ (ソメイヨシノ)	7.6	19 ; 16
739	イロハカエデ	5.0	18 ; 24	789	サクラ (ソメイヨシノ)	8.0	43;23;31;26
740	ボブラ	5.7	18	790	スギ	12.0	30
741	ボブラ	4.8	22	791	スギ	11.0	29
742	クロマツ	7.9	25 ; 21	792	スギ	12.0	42
743	イロハカエデ	8.1	17 ; 13 ; 9	793	スギ	9.0	<sup>2)</sup> ※28
744	スギ	5.2	6	794	スギ	12.0	29
745	スギ	6.5	7	795	スギ	7.0	22
746	スギ	9.5	13	796	スギ	13.0	25
747	スギ	6.5	10	797	スギ	12.0	24
748	スギ	5.3	7				
749	スギ	8.9	13				
750	スギ	10.0	13				
751	スギ	7.0	10				
752	スギ	8.7	10				
753	スギ	9.5	14				
754	ビャクシン	8.0	35				
755	クロガネモチ	8.0	16				
				F			
				801	サクラ(ソメイヨシノ)	7.0	12 ; 8
				802	サクラ(ソメイヨシノ)	6.2	21 ; 13 ; 10
				803	サクラ(ソメイヨシノ)	5.5	10 ; 8
				804	サクラ(ソメイヨシノ)	4.1	10 ; 6
				805	サクラ(ソメイヨシノ)	5.3	8 ; 13
				806	サクラ(ソメイヨシノ)	5.5	15 ; 11



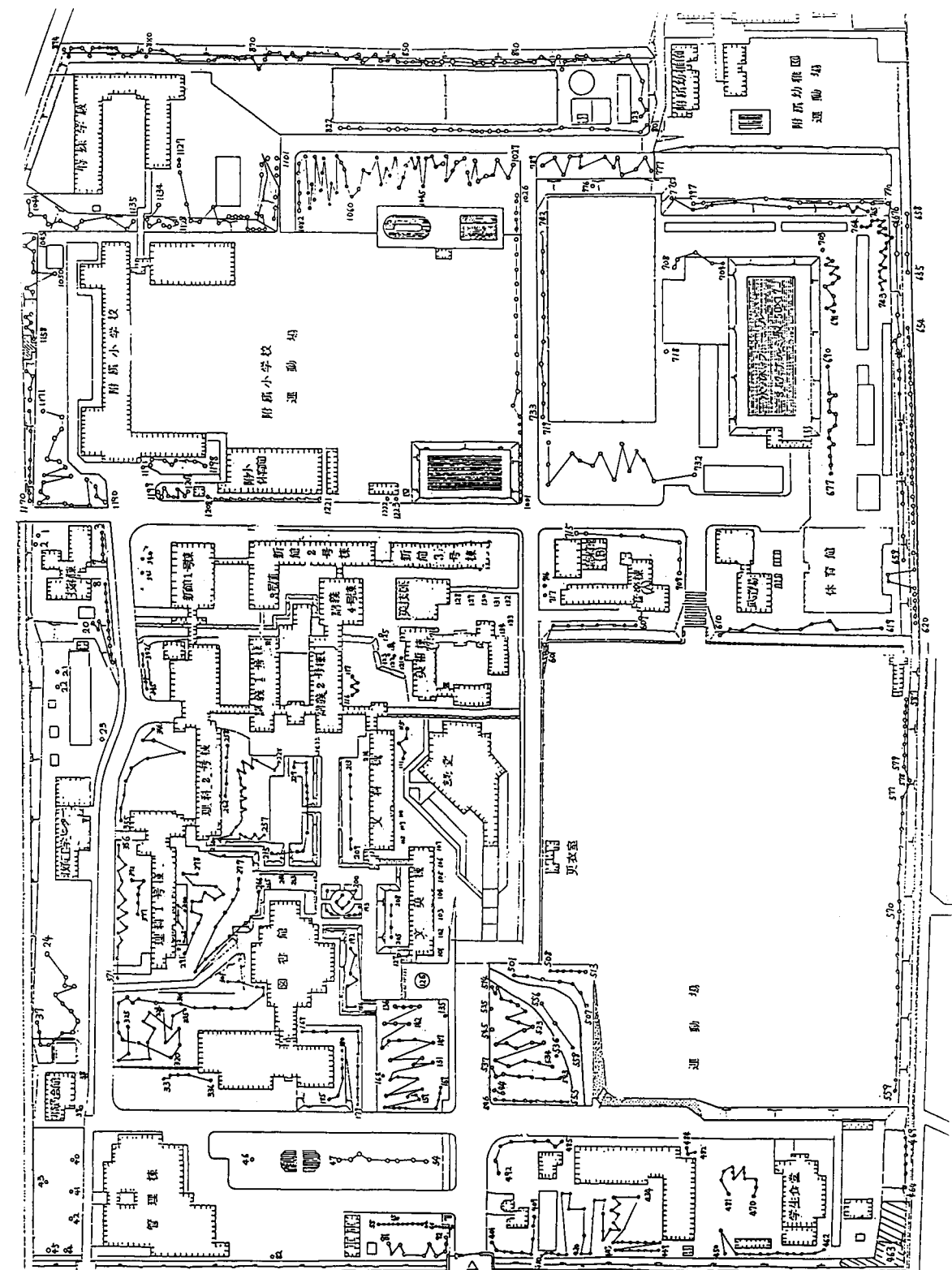
807	サクラ(ソメイヨシノ)	5.8	12 ; 12 ; 9	857	スギ	9.7	36
808	サクラ(ソメイヨシノ)	5.1	13 ; 15	858	ヒノキ	11.0	32
809	サクラ(ソメイヨシノ)	5.0	16 ; 14	859	スギ	8.5	32
810	サクラ(ソメイヨシノ)	4.6	11 ; 8	860	スギ	7.1	22
811	サクラ(ソメイヨシノ)	3.5	12	861	スギ	7.8	27
812	サクラ(ソメイヨシノ)	4.5	10	862	ヒノキ	7.3	24
813	サクラ(ソメイヨシノ)	4.9	16 ; 7	863	スギ	8.7	33
814	サクラ(ソメイヨシノ)	4.6	8 ; 8 ; 5	864	スギ	7.0	22
815	サクラ(ソメイヨシノ)	4.9	15 ; 9 ; 5	865	イロハカエデ	4.0	6 ; 5
816	サクラ(ソメイヨシノ)	5.4	15 ; 10 ; 4	866	スギ	7.0	21
817	サクラ(ソメイヨシノ)	4.8	16 ; 8 ; 7	867	スギ	8.0	30
818	サクラ(ソメイヨシノ)	5.2	11;12;8;14	868	クロガネモチ	4.2	7 ; 8 ; 8
819	サクラ(ソメイヨシノ)	4.7	10 ; 11 ; 7	869	アメリカスズカケノキ	10.3	49
820	サクラ(ソメイヨシノ)	4.7	15 ; 15	870	イロハカエデ	3.5	7 ; 4
821	サクラ(ソメイヨシノ)	4.9	15 ; 14	871	ヒノキ	10.5	31
822	サクラ(ソメイヨシノ)	4.2	10 ; 10	872	カキ	5.1	7
823	モッコク	5.9	15	873	イロハカエデ	4.1	9
824	アラカシ	7.7	15;15;14;12	874	クロガネモチ	5.5	14
825	イロハカエデ	4.0	10	875	スギ	8.5	25
826	カイヅカイブキ	8.3	41	876	イロハカエデ	3.8	7 ; 5 ; 5
827	ヒノキ	7.9	31	877	イロハカエデ	3.4	7
828	スギ	7.1	14	878	クスノキ	8.5	31 ; 22 ; 21
829	スギ	7.0	19	879	ヒノキ	7.9	36
830	スギ	7.0	18	880	ヒノキ	8.5	27
831	ヒノキ	7.6	31	881	スギ	8.2	23
832	ヒノキ	8.7	35	882	クロガネモチ	4.3	9
833	スギ	7.2	19	883	ヒノキ	10.0	36
834	ヒノキ	9.5	29	884	スギ	9.8	23
835	サクラ	5.2	19	885	ヒノキ	10.2	29
836	スギ	7.6	28	886	スギ	9.4	25
837	スギ	5.2	25	887	スギ	9.6	28
838	スギ	6.9	25	888	ヒノキ	9.4	26
839	スギ	8.2	21	889	ヒノキ	9.0	27
840	サクラ	7.2	18 ; 18 ; 13	890	クスノキ	3.6	15
841	サクラ	8.6	20;16;9;9	891	クスノキ	6.7	25
842	サクラ	8.6	20 ; 15 ; 9	892	スギ	7.5	23
843	サクラ	8.1	25 ; 23 ; 13	893	クスノキ	6.7	26
844	サクラ	7.3	20 ; 9 ; 8	894	スギ	6.2	11
845	サクラ	8.5	21 ; 21 ; 8				
846	サクラ	7.8	20 ; 15 ; 11	G			
847	サクラ	8.2	19 ; 12 ; 10	1001	サクラ	3.2	2 ; 2
848	サクラ	8.5	28	1002	サクラ	3.3	2
849	サクラ	8.7	21 ; 20	1003	サクラ	3.4	3
850	サクラ	8.7	27	1004	サクラ	3.8	3
851	サクラ	8.8	18;13;9;8	1005	サクラ	3.5	3
852	ヒノキ	9.0	32	1006	サクラ	3.1	4
853	サクラ	9.1	26;12;9;8	1007	サクラ	4.0	2
854	サクラ	7.7	26	1008	サクラ	3.6	3
855	スギ	7.3	20	1009	サクラ	3.7	3
856	ヒノキ	4.5	26	1010	サクラ	3.9	3

1011	ニセアカシア	14.0	24 ; 26	1061	サクラ(ソメイヨシノ)	5.4	8 ; 12
1012	モミジバズカケノキ	8.2	23 ; 28	1062	サクラ(ソメイヨシノ)	5.2	10 ; 6 ; 4
1013	モミジバズカケノキ	8.5	17 ; 19	1063	サクラ(ソメイヨシノ)	3.6	5 ; 3
1014	モミジバズカケノキ	4.3	6 ; 7	1064	サクラ(ソメイヨシノ)	6.3	16;14;8;5
1015	モミジバズカケノキ	7.0	19 ; 13	1065	サクラ(ソメイヨシノ)	3.9	8 ; 5
1016	モミジバズカケノキ	4.2	6 ; 6	1066	サクラ	4.7	10
1017	モミジバズカケノキ	7.5	19 ; 13 ; 12	1067	サクラ(ソメイヨシノ)	6.2	16
1018	モミジバズカケノキ	5.2	11 ; 15	1068	サクラ(ソメイヨシノ)	5.3	23 ; 19 ; 19
1019	ニセアカシア	11.5	26	1069	サクラ(ソメイヨシノ)	4.6	7 ; 4 ; 3
1020	モミジバズカケノキ	8.1	16 ; 16 ; 20	1070	サクラ(ソメイヨシノ)	8.8	14;13;13;5
1021	モミジバズカケノキ	7.0	16 ; 7 ; 6	1071	サクラ(ソメイヨシノ)	5.0	10 ; 6 ; 5
1022	サクラ	3.3	2 ; 1	1072	サクラ(ソメイヨシノ)	6.1	10 ; 10
1023	サクラ	4.6	3	1073	サクラ(ソメイヨシノ)	4.7	5 ; 4 ; 3
1024	サクラ	4.5	3	1074	カンザクラ	5.5	15 ; 14
1025	サクラ	4.5	3	1075	サクラ(ソメイヨシノ)	6.6	6;11;11;12
1026	サクラ	3.9	2	1076	サクラ(ソメイヨシノ)	3.9	11 ; 11 ; 8
1027	サクラ(ソメイヨシノ)	7.3	16 ; 21	1077	サクラ(ソメイヨシノ)	3.5	5 ; 4 ; 4
1028	サクラ(ソメイヨシノ)	7.1	19;18;18;16	1078	サクラ(ソメイヨシノ)	5.1	7 ; 7 ; 13
1029	サクラ(ソメイヨシノ)	5.9	41	1079	サクラ(ソメイヨシノ)	5.5	7;7;6;6
1030	サクラ(ソメイヨシノ)	6.8	50	1080	サクラ(ソメイヨシノ)	7.2	16 ; 13 ; 6
1031	サクラ(ソメイヨシノ)	6.7	18	1081	サクラ(ソメイヨシノ)	6.7	14;11;10;9
1032	サクラ	4.1	5	1082	カンザクラ	4.8	12;9;6;4
1033	サクラ(ソメイヨシノ)	8.7	35 ; 29 ; 27				
1034	サクラ(ソメイヨシノ)	4.9	10 ; 10		H		
1035	サクラ(ソメイヨシノ)	7.6	18 ; 15	1101	サクラ(ソメイヨシノ)	5.6	15 ; 17 ; 35
1036	サクラ(ソメイヨシノ)	8.6	17 ; 16 ; 6	1102	サクラ(ソメイヨシノ)	4.2	7 ; 7
1037	カイヅカイブキ	8.6	13 ; 14 ; 17	1103	サクラ(ソメイヨシノ)	5.2	7 ; 8 ; 11
1038	サクラ(ソメイヨシノ)	7.7	14;13;11;11	1104	カンザクラ	6.5	7 ; 8 ; 11
1039	サクラ	4.8	8 ; 3	1105	カンザクラ	5.3	10
1040	サクラ(ソメイヨシノ)	7.4	23 ; 14	1106	イロハカエデ	4.4	8;6;5;4
1041	カイヅカイブキ	10.0	9 ; 27	1107	カイヅカイブキ	5.7	14 ; 11 ; 10
1042	サクラ(ソメイヨシノ)	9.1	18 ; 25	1108	ケヤキ	15.0	38
1043	サクラ(ソメイヨシノ)	8.6	19 ; 8 ; 8	1109	ケヤキ	15.0	53
1044	サクラ(ソメイヨシノ)	6.8	31 ; 29 ; ※48	1110	サクラ(ソメイヨシノ)	7.4	14
1045	イロハカエデ	3.1	6 ; 5	1111	サクラ(ソメイヨシノ)	7.5	11 ; 10
1046	ヤエザクラ	4.2	7 ; 8	1112	サクラ(ソメイヨシノ)	7.5	13
1047	サクラ(ソメイヨシノ)	8.1	47	1113	サクラ(ソメイヨシノ)	6.2	12
1048	ヤエザクラ	3.1	5 ; 4	1114	サクラ(ソメイヨシノ)	6.5	20
1049	サクラ(ソメイヨシノ)	6.6	40	1115	サクラ(ソメイヨシノ)	6.6	20 ; 25
1050	サクラ(ソメイヨシノ)	5.5	20 ; 15 ; 14	1116	ケヤキ	14.0	48 ; 18
1051	イロハカエデ	4.2	10	1117	イロハカエデ	7.3	29
1052	サクラ(ソメイヨシノ)	7.0	9 ; 44 ; 45	1118	ケヤキ	15.0	27
1053	サクラ(ソメイヨシノ)	3.3	7	1119	イロハカエデ	7.7	30 ; 22 ; 17
1054	サクラ(ソメイヨシノ)	5.6	27	1120	サクラ(ソメイヨシノ)	5.9	11 ; 8
1055	イロハカエデ	6.6	20 ; 26	1121	アオギリ	8.5	14
1056	ヤエザクラ	3.8	10 ; 8 ; 5	1122	ケヤキ	9.8	19
1057	サクラ(ソメイヨシノ)	7.1	17 ; 8 ; ※49	1123	イロハカエデ	6.6	26 ; 16
1058	サクラ(ソメイヨシノ)	7.5	16 ; 15 ; 10	1124	キンモクセイ	6.1	13;11;10;9
1059	サクラ(ソメイヨシノ)	4.8	8	1125	クスノキ	7.5	16
1060	サクラ(ソメイヨシノ)	3.5	5 ; 6	1126	ナンキンハゼ	10.5	25

1127	アオギリ	8.4	17	1178	サクラ	8.5	16 ; 17
1128	サクラ	7.0	43	1179	イロハカエデ	5.4	6 ; 7 ; 8
1129	クワ	12.0	18 ; 19	1180	クロマツ	4.8	12
1130	サクラ	9.0	29	1181	イヌマキ	6.6	10 ; 15 ; 18
1131	サクラ	9.0	18;22;22;26	1182	クスノキ	9.5	30 ; 30 ; 45
1132	サクラ	6.2	10	1183	イロハカエデ	5.1	11;13;18;20
1133	サクラ	5.4	22 ; 7	1184	シラカシ	10.0	43
1134	クスノキ	14.0	71	1185	サクラ	3.7	7 ; 9
1135	サクラ	7.8	40	1186	サクラ	4.3	12
1136	サクラ	7.9	19 ; 19 ; 20	1187	クロマツ	5.4	12
1137	イロハカエデ	4.8	15;15;16;16	1188	クロマツ	4.3	12
1138	イロハカエデ	4.3	16 ; 15 ; 9	1189	クロマツ	4.1	13
1139	イロハカエデ	7.0	28 ; 16	1190	クロマツ	5.9	15
1140	ヤマザクラ	9.0	37;19;15;14	1191	クロマツ	4.0	17
1141	ヤマザクラ	5.4	20 ; ※ <sup>2)</sup> 32	1192	ヒマラヤスギ	8.0	22
1142	ヒノキ	8	31	1193	ヒマラヤスギ	8.5	16
1144	ヤマザクラ	7.3	15 ; 10	1194	クロマツ	6.8	19
1145	ヤマザクラ	5.4	37	1195	ヒマラヤスギ	8.0	20
1146	ヤマザクラ	7.5	38 ; 12	1196	ヒマラヤスギ	7.5	15
1147	エノキ	9.0	21 ; 15	1197	ヒマラヤスギ	7.0	20
1148	ナラノヤエザクラ	6.1	14	1198	モミ	6.0	25
1149	ナラノヤエザクラ	5.5	10	1199	クロマツ	4.6	20
1150	イロハカエデ	6.2	13 ; 11	1200	クロマツ	4.3	16
1151	ヤマザクラ	6.8	37;38;28;21	1201	ヒムロ	5.2	13
1152	ナラノヤエザクラ	4.0	7	1202	ヒムロ	5.4	15
1153	ナラノヤエザクラ	5.8	7 ; 10	1203	クロマチ	5.2	19
1154	ナラノヤエザクラ	5.5	10	1204	クロマツ	3.6	13
1155	ナラノヤエザクラ	6.6	13	1205	モミ	3.8	12
1156	ナラノヤエザクラ	6.0	12	1206	クロマツ	5.3	16
1157	ナラノヤエザクラ	6.7	12	1207	ヒムロ	6.2	17
1158	カイヅカイブキ	7.0	36	1208	イロハカエデ	5.6	10 ; 11
1159	エノキ	9.0	※ <sup>2)</sup> 19 ; ※ <sup>2)</sup> 18	1209	サルスベリ	5.7	27 ; 8
1160	イチヨウ	11.5	47	1210	イヌマキ	8.6	16
1161	ナラノヤエザクラ	5.4	14 ; 10 ; 9	1211	サルスベリ	5.7	7 ; 7
1162	ナラノヤエザクラ	5.5	6 ; 6・6	1212	イロハカエデ	3.8	6 ; 8
1163	ナラノヤエザクラ	6.0	17 ; 5	1213	イヌマキ	5.3	7 ; 7
1164	ナラノヤエザクラ	5.6	9 ; 7 - 4	1214	サルスベリ	3.2	5
1165	ナラノヤエザクラ	5.8	12 ; 14	1215	イヌマキ	7.8	14
1166	ナラノヤエザクラ	6.0	9	1216	サルスベリ	5.9	7 ; 9
1167	ナラノヤエザクラ	6.9	12;11;6;6	1217	イヌマキ	7.5	17
1168	ナラノヤエザクラ	6.4	16	1218	サルスベリ	4.0	13
1169	ナラノヤエザクラ	5.4	12	1219	イヌマキ	8.2	17
1170	ナラノヤエザクラ	5.8	21	1220	サルスベリ	5.5	6 ; 7 ; 8
1171	サクラ(ソメイヨシノ)	6.1	16 ; 9 ; 6	1221	ヒマラヤスギ	13.5	45
1172	ヒマラヤスギ	5.2	18	1222	クロマツ	8.3	19
1173	ヒマラヤスギ	5.1	15	1223	サクラ	6.7	13;14;17;20
1174	サクラ(ソメイヨシノ)	6.0	12 ; 12				
1175	サクラ(ソメイヨシノ)	6.0	14 ; 15				
1176	イロハカエデ	2.9	10 ; 10				
1177	ヒマラヤスギ	6.3	21				

※<sup>1)</sup> 地上から約1.8mの高さ

※<sup>2)</sup> 地上から約1mの高さ



## あ と が き

昨年7月に「教育研究特別経費」の審査が行われ、さいわいにも本プロジェクト『『大学の自然』ガイドブックの作成』にも予算が配分されることが決定された。さっそく、関係者が集まって、本書の発行を計画し、それぞれの分担を決めた。学内のスタッフだけでは手薄なので、非常勤講師や卒業生にも分担・執筆を依頼した。

当初は刷り上がりで100ページ以内に収める予定であったが、集まった原稿は140ページを越える分量であった。そのすべてを収めることは予算的に到底無理であるため、附属演習林の動植物に関する原稿は、残念ながら、割愛せざるを得なかった。附属演習林関係の原稿を寄せてくださった方々にお詫び申し上げたい。

本書は「解説・ガイド編」と「資料編」から成っている。前者は本学の構成員の誰もが身近な動植物を知る手掛かりになることを願って編集した。記事は読物として楽しめることを目指し、できるだけ平易に書き、写真やイラストを入れて親しみやすい形にまとめた。後者は動植物のリストなどであり、一般の人たちにとっては無味乾燥であるが、資料的価値は大きく、われわれのエネルギーの大半は「資料編」の方に注がれた。

大学構内に生育する数多くの樹木の来歴（いつ、どこから来たか）について、この機会に明らかにしたかったが、依頼した原稿が間に合わなかった。その代わり、現在の時点で、構内の千本以上の樹木の高さと太さを測定したデータを載せた。そのデータは国有財産（学内の樹木は国有財産である）の管理のために、また各樹木の今後の生育を追跡するために、貴重な資料であると思われる。

今回、割愛した附属演習林の自然に関しても同様な本を出す機会が与えられることを願っ

ている。また、大学の動植物は年ごとに变化しているので、本書も、いずれ改訂する必要があるであろう。

表紙を、本学のシンボルともいうべき、吉備塚のクヌギの樹叢の写真で飾った。今井靖親先生の作品であり、表は夏の、裏は冬の、同じアングルから撮った写真である。

（北川尚史）

## 執 筆 者

浅見 卓	昭和63年度本学大学院卒業
石井登興	昭和63年度本学卒業
今井靖親	心理学教室
井上龍一	附属小学校
北川尚史	生物学教室
公文 勝	小理4回生
菅沼孝之	奈良女子大学理学部 （本学非常勤講師）
田中棟一	附属農場
出口博則	高知大学理学部 （昭和45年度本学卒業）
東村隆子	生物学教室
人見 功	附属中学校
森源治郎	大阪府立大学農学部 （本学非常勤講師）
山口明夫	大和郡山市立少年自然の家 （昭和45年度本学卒業）
吉川幸男	学生課

# 奈良教育大学の自然

— 動植物編 —

1990年（平成2年）3月31日発行

編集者 平成元年度「教育研究特別経費」  
《奈良教育大学の自然》研究班  
（代表 北川尚史）

発行者 奈良教育大学  
〒630 奈良市高畑町

印刷所 明新印刷株式会社  
〒630 奈良市橋本町36

